繁紐の詩

明治大学付属明治高等学校・明治中学校同窓会

2026年総明会会報

特集｜第一章｜ 夢を掴め

植村直己冒険賞受賞

小坂薫平

Kunpei Kosaka

冒険家｜2014年卒



羽田圭介

Keisuke Hada

小説家｜2004年卒

理想の文学作品とは？



和田 瞳

Hitomi Wada

俳優｜2013年卒

祖母から受け継いだ運命



小林将天

Masataka Kobayashi

プロサッカー選手

2024年卒

ロス五輪を目指すゴールキーパー

夢つかもうぜ

特集｜第二章｜ 学生を支える

北村 純（副校長）

Jun Kitamura

粟野哲也（本校元教諭｜1974年卒）

Tetsuya Awano

山口弘（教諭）× 川鍋幸弘（木工職人｜1999年卒）

Hiroshi Yamaguchi　Yukihiro Kawanabe

特集｜第三章｜ 卒業生の特殊なお仕事

宮原奨伍（俳優｜1999年卒）

Shogo Miyahara

林 泰之（マッサージ師／バンドマン｜1999年卒）

Yasuyuki Hayashi

室山裕雄（レーシングカーエンジニア｜1999年卒）

Hiroo Muroyama

水野 勇（ギガファイル便創設者｜1989年卒）

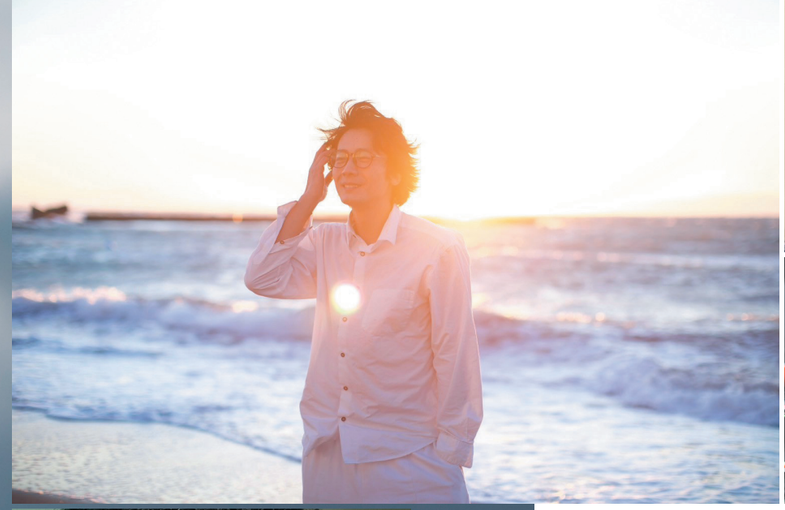
Isamu Mizuno

日下部尚徳（南アジア研究第一人者｜1999年卒）

Naonori Kusakabe

つなぐ、つながる、明治高校

～母校と歩むそれぞれの現在地～

















つなぐ、つながる、明治高校

～母校と歩むそれぞれの現在地～



高校 中学

繁紐の詩

2026年総明会会報

明治大学付属明治高等学校・明治中学校同窓会

（旧制）
明治中學校 校歌

作詞　武島　羽衣
作曲　楠美恩三郎

一章
帝都の真中駿河臺
遙かに望む富士のねの
高きに理想の影追ひて
集る健児勇ましや

二章
学びの高嶺文の海、
嶮しく荒き行末を
懼れず笑みて進みゆく
我等が意氣は天を呑む

三章
忠と孝の大糸を、
色どる正義、愛、誠
我等が胸をかざるべき
大和錦の美ならずや

四章
世界に王たる日の本の
國民の基と身をなして
我等が校の名を揚けむ
我等が國の威を揚けむ

校　歌

作詞　児玉　花外
作曲　山田　耕筰

一、
白雲なびく駿河台
眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘
文化の潮みちびきて
遂げし維新の栄になふ
明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校

二、
権利自由の揺籃の
歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり
独立自治の旗翳し
高き理想の道を行く
我等が健児の意気をば知るや
我等が健児の意気をば知るや

三、
霊峰不二を仰ぎつつ
刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり
いでや東亜の一角に
時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

紫紺の詩

揮毫（きごう）

筆　向殿 政男

「紫紺の詩」は総明会設立50周年を記念して総明会会員の皆様から寄せられた意見を基に決定し、総明会名誉会長向殿先生に揮毫いただきました。
「紫紺の詩」の「詩」という文字は「歌（音）」ではなく、総明会会員の皆様の心に残る「詩（言葉）」、「会報」を表す言葉を意味しています。

総明会とは

総明会とは、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈島高等学校、明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことがあるものの同窓会組織である。

総明会の設立の起源は、１９１２年（明治45年）開校時にあった「学友会」にまで遡ることができ、１９２６年（大正15年）１月の「同窓会」設立へと続く。その後中断の時期を経て１９６４年（昭和39年）有志による「明治中学校・高等学校同窓会設立発起人会」が設立、１年間の準備期間を経て１９６５年（昭和40年）に第１回同窓会が開催され現在の総明会へと続いている。

総明会の活動は、「会員相互の結束と親睦を図り、かつ母校のためにこれを賛助すること」を目的としており、総明会会員を対象とした年に１回開催される総会・懇親会を中心に、各委員会が企画する行事「総明会チャリティゴルフ大会」、「評議員・班・クラブＯＢ・ＯＧ会」、60才以上の会員を対象とした「明朗会」などを開催している。

その他、母校に対する活動として、卒業する高校Ⅲ年生を対象とし、「明治大学付属明治高等学校建学の精神にのっとり、伝統ある校風のもとに学業に励んで優秀な成績を収めたことを賞する」、２００７年（平成19年）からは、成績優秀者のみならず、班部活動、対外活動、学校行事など、学校生活全体を通した活躍や貢献をしたものへの総明会賞の授与、母校記念行事への寄付活動、クラブ活動への支援を行っている。卒業生に対しては、大学在学中の若手を通じての総明会活動紹介、同窓会開催支援や就職相談会の開催などを行っている。

この他、総明会会員である明治大学、明治高校の教職員を通じての組織基盤の強化、「法曹部会」による高校在校生を対象とした司法試験向けの各種支援も行っている。

なお「総明会」の名称であるが、１９８４年（昭和59年）の第20回総会において、初代校長鵜澤総明先生の名前をいただき、かつ明治中学校・高等学校同期会と同窓生総体の連帯を意味するものとして命名されたものである。



序章
夢、つかもうぜ

イラスト：上田侑鈴（在校生時代は黄唯臨 ― 2011年卒）

夢って何だろう
考えれば考えるほど難しい

きっとそれは、人によって大きく違う
壮大な夢を持つ人もいれば、
些細なことが夢と言う人もいるだろう

でも、どっちであっても、素敵だ

そして人生生きていれば、色々なことがある

希望に満ち溢れている方もいるだろう
何かの理由で打ちひしがれている
人もいるかもしれない

現在地は人それぞれだけど……
あまねくみなさまへのエールとなればと思い
本書を編集した

ここまで１００年あまり繋がってきた
明治中学・高等学校在校生、卒業生、
そして関係者の皆様の未来が
素晴らしいモノでありますように……

夢、つかもうぜ

紫紺の詩

2026年 総明会会報

目次

P02 【挨拶】総明会会長／明治大学付属明治高等学校・明治中学校校長

特集：夢を掴め

P04 小坂薫平（冒険家：2014年卒）「エクスタシードリブン」

P08 羽田圭介（小説家：2004年卒）「理想の文学作品」

P11 和田瞳（俳優・会社経営：2013年卒）「死ぬ時に笑えるように……」

P14 小林将天（プロサッカー選手：2024年卒）「勝つためのゴールキーパー」

学生を支える

P16 北村純（明治中学・高校副校長）「明大明治の全方位教育」

P20 粟野哲也（元明治中学・高校教諭／1974年卒）「〝まなざし〟で木を育てる」

P24 山口弘（明治中学・高校教諭）×川鍋幸弘（木工職人・1999年卒）「読書感想文から始まった物語」

卒業生の特殊なお仕事

P26 宮原奨伍（俳優・1999年卒）「夢は大きく……バスケ少年が目指した演劇の世界」

P28 林泰之（マッサージ師／バンドマン・1999年卒）「人が喜んでくれるのが大好きだ」

P30 室山裕雄（レーシングカーエンジニア・1999年卒）「好きなことを追求したら辿り着いた、レーシングカー開発の道」

P34 水野勇（ギガファイル便創設者・1989年卒）「全ては誰か、何かのために」

P36 日下部尚徳（立教大学准教授・1999年卒）「世界は、もっと自由だった。」

P32 総明会総会・懇親会のご案内

繋がる明治魂・親子インタビュー

P33 上野崇（1991年卒）、長男・要（高校Ⅰ年生）「ユニフォームがつないだ親子の明治」

P40 松浦毅（1991年卒）、兄・史明（2022年卒）、妹・礼実（高校Ⅲ年生）「気づけば、いつも明治がそばにあった。」

姉妹校訪問記

P38 日本と台湾の架け橋

ご退任の先生インタビュー

P41 由井将雄先生、浦田敏則先生、白井英輝先生

P44 2026年度学校報告

P45 新任教諭紹介

P47 班・部活動の記録／資格試験・表彰

P56 OB・OG活動報告

P86 2026年度（令和8年度）総明会活動報告

P92 寄付金のご報告と御礼

P93 総明会（明治大学付属明治高等学校同窓会）会則

P96 前年度、本年度、次年度幹事学年挨拶

P97 編集後記



題字
松井萌々子教諭



表紙の題字「夢つかもうぜ」は、本校の松井萌々子教諭の筆によるもの。ダイナミックかつ繊細に計算された構図は、本誌のイメージにピッタリであった。総明会総会では、松井教諭による揮毫会を開催。詳しくは32ページをご参照ください。

表紙写真提供：

Koh Yamaguchi
FC TOKYO
日産モータースポーツ
& カスタマイズ株式会社

《ハイブリッド会報》

幹事学年と広報委員会は、デジタルと会報の融合を目指した「ハイブリッド会報」を立ち上げました。総明会のホームページでは、会報と連動した専用サイト「総明マガジン」をオープンし、動画などが視聴できます。より臨場感あふれるリアルさ、本誌では収めきれなかった記事やオフショット・スピンオフをデジタルでもお楽しみください。

◎スマートフォンやタブレットから見る場合

本誌の各ページにあるQRコードを読み取ると、ホームページ「総明マガジン」内の、そのページに関連するデジタル記事にアクセスする事ができます。

SOUMEI MAGAZINE
No.000-2026

◎パソコンから見る場合

ホームページ「総明マガジン」にアクセス（下記URL）し、
https://meiji-soumeikai.com/magazine/
QRコードの下の番号（例：000-2026）で検索、またはURLの後に番号を入れて下さい。

※敬称略

明治大学付属明治高等学校・明治中学校
校長
井家上 哲史



第62回 総明会 総会・懇親会に寄せて

第62回総明会総会・懇親会が調布のキャンパスにて開催されるとのこと、誠におめでとうございます。今年の幹事学年は平成11年卒の明哲会のみなさん。「つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地」をテーマに明哲会のみなさんが、心を込めて準備されてきました。

本校は2008年猿楽町から調布のキャンパスに移転、共学となり、来年2027年には20年を、また2032年には創立120周年を迎えます。その間、4,000名を超える卒業生が調布の校舎から巣立っております。様々な分野で活躍する卒業生の音信を伺い、また同窓生を伴侶とされている若手会員が続々と現れているとも聞いております。誠に喜ばしいことです。

校長兼任4年目を迎えました。このような移転共学化20年をふまえて、昨年度より教育ビジョン推進本部を校長特命でスタートさせ、明高中教育ビジョン120「挑戦」「自立」「誠実」を重視する教育、Only One の大学付属校を目指し、教育プログラムの見直しなどを少しずつではありますが進めています。また、入学式の式辞では、新入生の皆さんに伝えておきたいことを述べるため、毎年同じような内容になりますが、以下のようなことを話しました。「私たちの以前の日常生活や国際的な社会秩序からは、予想のできない事案が突如起こり得る時代となっている。真実を見出し、それを理解し、更に創造しあるいは他者に伝達していくためには、中等教育で学ぶ広範な知識と、大学で修得する高度な専門知識の双方が不可欠であり、文系であっても、データサイエンスや数理的な思考が求められ、理系であっても高い言語能力やコミュニケーション能力が求められる。本校での幅広い分野の勉学、受験科目にとらわれず、高校Ⅱ年生まで文系理系を分けることなくほぼ同じカリキュラムを全員が学ぶという幅広い分野の勉学を通じて、自らの将来を見据え、大学卒業後に社会の最先端で活躍し、社会に貢献し得る「考える力」と「基礎学力」を、是非、本校で鍛えようではないか。また勉学だけではなく、学校行事や班部活動も含めて、この学校で、明るく、楽しく、「考える力」と「基礎学力」を身につける毎日を共に送ろう」と。

卒業生のみなさん、調布のキャンパスで開催される総会・懇親会でお目にかかれることを楽しみにしております。

明治大学付属明治高等学校同窓会
総明会　会長
山崎 秀樹



つなぐ、つながる

総明会会長を務めさせていただいております、昭和50年卒の山崎秀樹でございます。総明会は本部役員、理事、評議員の皆様のご尽力のもと、母校との連携を深めるとともに、共学校の同窓会としての基盤を整え、若年層の活躍を期待しているところであります。会員の皆様におかれましては今後ともご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年の第61回総会・懇親会は明治大学アカデミーコモンを会場として、幹事学年である「紫98倶」（平成10年卒）の皆さんが企画・運営を担当し、多くの会員の皆様にお集まりいただくことができました。この場をお借りして幹事学年の皆様に御礼申し上げます。

そして、今年の第62回総会・懇親会を担当する幹事学年は平成11年卒の「明哲会」でございます。母校明治中学校・高等学校を会場に、「つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地」をテーマに準備を進めているところでございます。どうか多くの会員の皆様にご出席いただけますようお願い申し上げます。

「つなぐ、つながる……」というテーマで思い出したことがあります。明治中学校・明治高等学校を志望する受験生の志望理由は、「大学付属」が最も多いのですが、その他の理由を抑えて「校風」が2番目となっています。「質実剛健」「独立自治」という建学の精神のもとで、生徒・保護者・教員・卒業生が110年以上にわたる時間をかけて培った校風が、現在の受験生の「この学校に入学したい」という理由になっていることに卒業生の一人として「なるほど、つながるものなのだな」と感じた次第です。母校で過ごした6年間（あるいは3年間）は人格形成の最も大切な時期にあたります。卒業生全員が同じ時期に在籍していたわけではございませんが、違った時期であっても明大明治という同じ校風のもとで育ち、だからこそ総明会という同窓会につながっていると思っております。本年度の総会・懇親会では、同じ校風を共有した多くの卒業生にご出席いただき、世代を超えて楽しんでいただけることを期待しながらお待ちしております。

学校法人明治大学
理事長
柳谷 孝

明治大学長
上野 正雄

明治大学付属
明治高等学校・明治中学校
校長
井家上 哲史
昭和51年卒 明々会
（明治大学理工学部教授）

夢を掴め

会場のスクリーンに、深い青の海が映し出される。その中央に浮かんだ言葉に、場の空気が一瞬止まった。

「海に対してより対等でありたい」

2026年3月28日。植村直己冒険賞受賞記念イベント。壇上に立っていたのは、明治高校2014年卒、小坂薫平だった。

100kgを超えるイソマグロを、手銛一本で追い続ける。素潜りだけで巨大魚と向き合い、前人未到の世界へ挑み続ける海のマタギ。だが、小坂が追い求めているのは、強さではない。魚に対してフェアであること。海に対して対等であろうとすること。そして、自分に嘘をつかないことだった。

植村直己冒険賞受賞記念イベントの翌日。小坂は静かな口調で、自らの生き方について語り始めた。

「魚に対して、フェアでいたいんです」

魚との〝勝負〟

小坂は、酸素ボンベを背負わない。ウェットスーツを着込み手銛だけを持って、巨大なイソマグロと向き合う。海の中で使える酸素は、自分の肺に取り込んだ僅かな量だけだ。だからこそ、小坂にとって魚突きは「狩り」ではなく、「勝負」になる。その言葉を、小坂は静かに口にした。

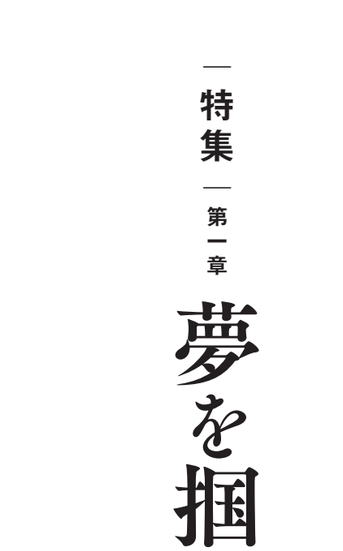
効率だけを求めるなら、もっと簡単な方法はいくらでもある。だが、小坂はそれを選ばない。自分も危険を背負い、同じ条件で海に入る。だからこそ、勝負になる。

植村直己冒険賞の選考理由にも、「自然の真理を、自らの命を賭けて体感する哲学的探究」「フェアな勝負への挑戦」との言葉が並ぶ。

その思想は、単なる魚突きのこだわりではない。小坂にとって海とは、人間が征服できる場所ではなく、人間を丸裸にする場所なのだ。

「海の中だと、ハッタリが効かないんです」

そう語った言葉が印象的だった。陸の上では、自信があるように振る舞うこともできる。知識や肩書きで自分を大きく見せることもできる。だが、海の中ではそれが全部剥がされる。潮の流れ、水温、酸素、恐怖、焦り、集中力。海は、その瞬間の本当の自分を突きつけてくる。だから小坂は、海に潜り続ける。



狙い澄ます一撃

小坂は12年にわたって巨大イソマグロに挑み続け、そのうち最近の6年半がドキュメンタリー映画「Mission100」として撮影されている。受賞記念イベントでは、その軌跡が映像と共に語られた。

273日、2371ダイブ、118・6kmの潜水。そして、実際に銛を放ったのはわずか16回。仕留めたマグロは8本だった。

数字だけ見れば、途方もない。だが、会場がざわついたのは、「16ショット」という数字だった。2371回潜り、実際に銛を放ったのはわずか16回。普通なら、もっと魚を撃っていても不思議ではない。だが、小坂は撃たなかった。

「グッときた魚しか撃てないんです」



エクスタシードリブン
心が震える方へ

海の大物に、素潜り、手銛で対峙する者がいる
常に危険と隣り合わせ、一歩間違えば己の生命に危険が及ぶ可能性もある
いったい何が小坂にそんな衝動を与えるのか……

© Koh Yamaguchi

小坂薫平

Kunpei Kosaka

（冒険家・2014年卒）



特集｜夢を掴め｜その1

小坂薫平

Kunpei Kosaka

（冒険家・2014年卒）

Profile

小坂薫平

1995年秋田生まれ、東京育ち。明治高校を卒業した後、2014年に東京海洋大学に進学し、海の世界へ。素潜り・手銛で巨大魚と対峙するスピアフィッシャーとして活躍し、数々の世界記録を樹立。2025年には100kgを超えるイソマグロを仕留めた。2025年に「第30回植村直己冒険賞」を受賞。挑戦の模様を記録したドキュメンタリー映画「Mission100」が公開予定。素潜り68m、息止め6分45秒

ⓒ Koh Yamaguchi

迷いがあると、銛は当たらない。本当に集中した瞬間だけ、時間がゆっくり流れる。

「1秒が15分くらいに感じるんです」

そして、その瞬間について、こんな言葉を口にした。

「自分の人生すべてで、その一瞬を生きている感覚なんです」

海の中では、自分に嘘がつけない。だからこそ、小坂は海に潜り続ける。魚を撃つということは、命を奪うということでもある。だから小坂は、むやみに撃たない。

「獲れる魚」を追っているのではない。本当に向き合えた魚、自分が心から「撃つ」と決められた魚だけに銛を放つ。そこには、小坂が何より大切にしている「フェアでありたい」という感覚がある。巨大魚を前にしたその一瞬、小坂は「撃つか、撃たないか」を、自分自身に問い続けている。

海の秘密。そして危険

小坂は、海の中で予測をしている。潮の流れ、小魚の動き、群れの緊張感、水温、光、魚の気配。それらを積み重ねながら、「次に何が来るか」を読む。

「ヒラマサが、あと何分後に、どっちから来るかっていうのを予測するんです」

もちろん、予測は外れる。だが、ごく稀に、海がその予測通りに動く瞬間がある。

「海が、秘密を見せてくれた感覚なんです」

その言葉が、強く印象に残った。

小坂にとって海は「征服する対象」ではない。理解しきれない巨大な自然だ。だからこそ、その秘密にほんの少し触れられた瞬間、また海へ潜りたくなるのだろう。そして、その秘密を知りたいという欲望こそが、小坂を世界の海へ向かわせている。

だがその海は、時に命を奪いにくる。

2021年、小坂は巨大な回遊魚の仲間・カマスサワラを仕留めた直後、20匹以上のサメに囲まれた。仕留めた魚から血が海中に広がり、その匂いに興奮したサメたちが、水面で渦を巻いていた。

「本当に終わったと思いました」

船までは距離がある。逃げ場はない。背後からサメが突っ込んでくる。小坂は〝彼ら〟を足で蹴り返しながら泳いだ。

「足がなくなるかもしれないと思いました」

その出来事の記憶は、その後も長く小坂の中に残り続けたという。海へ潜るたび、視界にサメが入るだけで身体が強張った。だが、小坂は海に挑むのをやめなかった。サメを観察し続けた。

「サメにも種類があるって気づいたんです」

小坂を襲うサメと、小坂のおこぼれを狙っているサメ。海の恐怖からも、小坂は逃げずに向き合った。

恐怖をごまかさない、逃げない。それもまた、小坂の誠実さなのだろう。

チームだからこそ

この挑戦は小坂一人だけで成し遂げられたものではなかった。前日のイベント終盤、スクリーンには、巨大なイソマグロと並ぶチームの写真が映し出された。

Mission100。それは、小坂だけのプロジェクトではない。映像監督、写真家、船長、仲間たち。それぞれが、自分にしかできない役割を背負っていた。

「最初は正直、俺は人生かけてるのにって思ったこともありました」

撮影クルーの動きで魚が散ってしまったこともあった。孤独に海と向き合ってきた小坂にとって、チームで表現することは簡単ではなかった。

「人生をかけて、世界中の海でデカい魚を獲りたいな」

だが、転機となった遠征があった。同じ海に潜っていたカメラマンの野口もまた、小坂と同じように酸素ボンベを背負わず、海へ入っていた。その野口が、小坂より先に「本当に狙うべき魚」に気づいて小坂が狙っていた魚とは別の魚にカメラを向けた。

「1×1×1が、300になる感覚があったんです」

一人では見えなかった景色。小坂は海で対等を求めている。それは魚だけではない。仲間ともまた、対等であろうとしている。

衝動的

小坂は、インタビューの中で「エクスタシードリブン」という言葉を使った。自分の心が震える方へ進む。それを、彼はそう呼ぶ。対になる言葉は「ソサイエティドリブン」。偏差値や肩書き、効率、社会的な正しさ。そうした価値基準に従う生き方だ。

「その不合理さの中に、その人の個性があると思うんです」

だから小坂は、海へ潜る。合理的な選択ではない。危険だ。効率も悪い。金にもならない。それでも心が震える。だから行く。

その生き方を、小坂は「エクスタシードリブン」と呼んだ。

明治高校時代、小坂は自転車競技に打ち込んでいた。極限まで追い込み、血便が出るほど練習した。

「最後は、自転車を見るだけでお腹が痛くなってました」

また、テニス部を辞めた時の話も印象的だった。連帯責任で活動停止となり、納得できなかった。謝罪期間を終えた後、自ら退部届を提出したという。

「筋が通ってないことが嫌なんですよね」

その感覚は、今の生き方にも通じている。小坂は昔から、自分の感覚を裏切れない人だった。小坂は、明大明治時代についても印象的な言葉を残している。

「感性を豊かにしてくれた場所だった」

受験だけに縛られない空気、先生たちの濃さ、仲間との距離感。それらが、今の自分につながっているという。今でも、同期数人とは毎年集まる。海の話はしない。ただ、地元の友達のように笑い合う。

「人生って、全部つながってるんですよね」

そう語る小坂の表情は、不思議なほど穏やかだった。海や魚、仲間、失敗、別れ、高校時代。どれか一つ欠けても、今の自分には辿り着かなかった。

まだ見たことのないところへ

巨大なイソマグロと向き合い、命をかけて海へ潜る。だが、小坂を突き動かしているのは、冒険心や記録への欲望だけではない。自分に嘘をつかずに生きたい。心が震える方へ進みたい。そして、自然に対して誠実でありたい。

インタビューの最後、「これからの夢について尋ねると、小坂は静かに答えた。

「人生をかけて、世界中の海でデカい魚を獲りたいなと思ってます」

だが、その本当の目的は、魚そのものではないのかもしれない。

「その過程で、まだ出会ったことない、たくさんの海の秘密と出会えると思ってます」

まだ見たことのない海へ。まだ知らない世界へ。小坂はこれからも、自分の心が震える方へ進んでいくのだろう。

「Mission100」の特別上映会を総明会総会で開催

小坂薫平は、2025年植村直己冒険賞を受賞後、Mission100メンバーと全国各地へ赴き、その軌跡と過去の遠征映像を届ける「ダイジェスト映像上映会」を開催している。本編は2027年公開予定だが、小坂とMission100のイソマグロを追う「遠征」のドラマをまとめたダイジェスト版の映像を総明会総会で上映する。

当日は、映画本編につながる遠征ダイジェスト上映に加え、小坂本人による解説トークや交流を予定。人数制限はないので、ぜひ多くの総明会会員の皆さんにご参加いただきたい。

https://mission100film.com/event/



ⓒ Tomohiro Noguchi



特集 | 夢を掴め | その2

羽田圭介

Keisuke Hada

（小説家・2004年卒）

理想の文学作品

本校在学中に小説家デビューを果たし
芥川賞を受賞した羽田圭介氏
しかし頂点を極めたわけではない……
今も理想の文学作品を目指して奮闘している

芥川賞といえば、日本における文学賞の最優秀賞とイメージする方が多いと思う。

そんな芥川賞を受賞した本校出身の作家がいる。２００４年卒業の羽田圭介である。

芥川賞を獲るなんて、小説における頂点を極めた……そんな印象もある。しかしそうではないらしい。

「芥川賞は、基本的には新人賞なんですよね。昔は３回候補に挙がって受賞できなかったらもう縁がない……そう言われていたんです。僕は4回目で受賞しました。03年にデビューして、受賞したのが15年ですから、29歳の時で年齢としては若めでしたが、キャリアとしては遅めの受賞です」

羽田は明治高校在学中の03年に『黒冷水』で小説家デビューし、文藝賞を受賞した。その後明大に進学し、卒業後は一般企業に就職。23歳で専業作家となった。

今回インタビューを依頼した際、羽田は「芥川賞を受賞して成功した作家」としてではなく、「理想の文学作品を目指している作家」としてのインタビューにしてほしいとリクエストしてきた。彼が考える「理想の文学作品」とは何なのか？

「頭の中に思い浮かんだことを、忠実に描写できるかが大事なんだと思います」

「書きたいと感じた、印象的なシーンを思い描けても、それを文章で表現するのは難しい。思い描いた世界を正確に書き表すことが出来ている作品は、何が題材でも面白いんじゃないかと思います」

「『こういう味の料理を作りたいな』と思っても、それを具現化するための調理方法を知らないと、なんだか別の味の料理ができてしまう。それと同じです。要するに、そのイメージ通りに具現化する能力が技巧というわけです」

小説家を志した理由

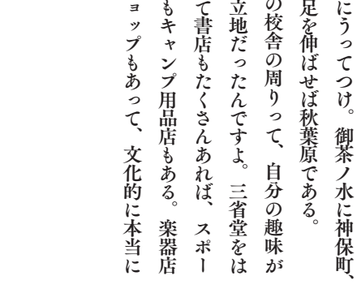
しかしなぜ小説家になろうと思ったのか？　本稿をお読みになる方の多くは、小説を書くことなどイメージすらできないだろう。しかし羽田は、

「作家になる」と15歳の頃には確信していたらしい。

「埼玉の自宅から猿楽町の明大明治に通うとなると、自転車と電車で片道1時間半弱かかります。それで電車に乗っている時の暇つぶしとして、本を読んでいたんです。だいたい3日で1冊くらいのペースでした」

そうして日々多くの本を読み重ねていた羽田少年は中学2年生の夏、自宅近くの図書館で〝小説家になるための本〟に出会い、

「頭に思い浮かんだことを
忠実に描写できるかが大事」



「そっか！　小説って書く側に回ってもいいんだよな」と思った。ただ、すぐに執筆に着手したわけではなかった。

「書きたいなとは思いましたが、具体的に書きたいモノがあったわけじゃないんです。だからしばらくは書かずにズルズル過ごしてしまったんです」

しかしそうはいかなくなった。01年、綿矢りさ氏が17歳で文藝賞を受賞したのだ。当時は大いに話題になった。

「自分よりたった二学年上の綿矢さんがデビューされた時、僕もちゃんと書かなきゃいけないと思ったんです。高校生なのに小説家デビュー……すごい、と」

「そこからは、各文学賞の過去の受賞作品を読んでいきました。傾向と対策めいたそういう準備をしても、気休めにしかならなになる直前の3月に書き上げ、文藝賞に応募。見事受賞することになった。

学校によっては、在学中に小説家デビューすることに厳しい、あるいは在学校名を出すことを許さないケースもあるという。しかし明治高校はあっさりOK。受賞者が高校生ということで、念のため挨拶しに来校した編集者は歓待されたらしい。

「明治は高校どころか大学も割とミーハーで、デビューすることに関しても『どうぞどうぞっ』って感じだったようで。担当編集者の方は、リバティタワーの高層階の応接室に招待されたらしいです」

そこは猿楽町の旧校舎に、堂々と招いてほしかったものだ。

小説家に魅了された理由

小説家デビューした頃の羽田少年には、様々な趣味があった。音楽に興味を抱き、自転車でひとり旅をすることもあった。そういう少年には、猿楽町という学校の立地は、まさにうってつけ。御茶ノ水に神保町、ちょっと足を伸ばせば秋葉原である。

「猿楽町の校舎の周りって、自分の趣味が全部揃う立地だったんですよ。三省堂をはじめとして書店もたくさんあれば、スポーツ用品店もキャンプ用品店もある。楽器店やCDショップもあって、文化的に本当に

良い立地だったなという感じがします。なんで調布に引っ越しちゃったんだろう……」

音楽への興味については鈴木正人先生の授業がキッカケの一つだったようだ。

「中学生の時、鈴木先生の音楽の授業でバンドを組みました。そこでミッシェルガンエレファントの『サタニック・ブン・ブン・ヘッド』のドラム演奏をやりましたが、その時はさほど面白いとも感じませんでした」

「でも高1の時に、授業で弾き語りをしたんです。家にあった父親の古いクラシックギターをひっぱり出して、さだまさしの『無縁坂』を一学期いっぱい練習し、それを二学期の授業で披露しました。そしたら思いのほか拍手をもらって。それで人前で音楽やるのって面白いなと思ったんです」

「世界の見え方をちょっと変えてくれるそれが小説の素晴らしいところだと思う」



Profile
羽田圭介

1985年10月19日生まれ。明治高校在学中の2003年に『黒冷水』で小説家デビュー。2015年に『スクラップ・アンド・ビルド』で第153回芥川賞受賞。最新作は「その針がさすのは」（2025年）で、同作は東京中野文学賞大賞受賞。

「発表が終わってからも、もっと歌が上手くなりたいなと感じ続けたんですよ。すると、その当時流行っていたR&B系の曲を沢山聴くようになって。それまではマイルス・デイヴィスとかのインスト系が好きだったんですが、初めて歌モノが好きになりました。鈴木先生の授業がなかったら、たぶんそこまで音楽に興味を持ててなかったかもしれないですね」

それで羽田は、「もっと歌がうまくなりたい」となり、大学入学と同時にヴォイストレーニングにも通ったらしい。しかし音楽の道に進むという選択肢はなかった。前述のとおり「小説家になる」と確信していたからだ。

しかし、なぜ小説に魅了されたのか？

「小説の素晴らしさって、読んだ後に、それまでとは違うような世界の認識の仕方を読者にもたらしたりする、それがいいのかなという感じがします」

「最近はなんでも簡略化とか単純化することが流行っています。タイパとか言って……そういう価値観ってめちゃくちゃ狭いし、粗いポリゴンで作った世界みたいに感じる。でも世間ってもっと複雑だと思うんですよね。色々な価値観があるし、世界の見え方だって色々ある。それを説教で言われると鬱陶しいけど、小説として自然の景色として目にしたりすると、気付いたりする……つまり世界の見え方を、ちょっと変えてくれたりもするのが小説で、それが小説の一番素晴らしいところだと思います」

「それは書いていても同じかもしれない。頭の中に浮かんだことを、無意識的に正確に描写できた時には、『なるほどこういう見方もあるな』と書いた自分も違う見方に気付く時もあります。最新作『その針がさすのは』を書いている時にも、少し見え方が変わったことがありました」

今の夢

そんな羽田にとって、今の夢とは？

「本を出版して、それを書店に置いてもらうことが、今はどんどん難しくなっています。だから、割と現状維持が夢なんですよね。新しいことをするんじゃなくて、今のままを続けるとか、縮小の度合いを少なく留めるということも、夢と言っていいんじゃないかと思います」

「結局人間って、社会の中で生きているんです。それは小説家とて一緒。読者からの反応だとか、読んだ人の感想がなければ、やっていけないと思います。それはやりがいの問題なんです。みんながスマホしか見なくなった社会で、ほどほどに感想をもらえる生活をするというのは、夢と言ってもいいんじゃないかという気がします」

羽田圭介
Keisuke Hada
（小説家・2004年卒）

死ぬ時に笑えるように……祖母から受け継いだ〝運命〟

祖母の思いが込められ、瞳と名づけられた。そしてその意志を受け継ぎ芸能の道へ……〝明日死んでも構わない〟、そう心に決め、毎日を全力で生きる



和田瞳
Hitomi Wada
（俳優・2013年卒）

「死ぬとき笑えるように」

人間いつかは死ぬ。それは避けられない。でも笑って死ぬことができれば、その人生はきっととても素敵なものだったのだろう。だからこそ、常に全力で生きようとしている。そう語るのが和田瞳だ。

和田は2013年に明治高校卒業。今は俳優に社長業にと、日々を全力で生きる。

芸能界に憧れる人は多いだろう。しかし「芸能人になりたい！」と思っても、そう簡単になれるモノではない。辿り着けない人もゴマンといる。しかし和田にとって芸能の仕事は夢ではなく使命。それは〝瞳〟という名前に込められている。

「『二十四の瞳』という映画があるのですが、その作品に、祖母が12人の子役のひとりとして出ていました」

『二十四の瞳』と言えば、日本映画史を語る上で欠かせない名作のひとつである。

「祖母は自分の子供に〝瞳〟と名付けたかったんですが、男の子しか生まれなくて……孫にようやく女の子が産まれ、瞳と名付けられました。それが私です」

「俳優を目指したというより、小さい頃から『こういう仕事をするんだろうな』と思っていて、気づけば子役を始めてました」

とはいえ子役の頃は、実はそれほどやる気に満ち溢れていなかったらしい。

「子役の頃は習い事のように思っていました。なので、なんとなく楽しいからやっているようなところがありましたね」

「芸能のお仕事は楽しいです！でも、芸能の仕事が忙しくなると学校に行けない日もあり。それが悲しかったです。親の教育的にも、私の気持ち的にも学校第一でした」

「芸能に本腰を入れてやるぞ！と思って明治高校を選んだつもりでした。でも学校の制度的に、芸能の仕事を頑張りすぎると、出席日数が足りずに卒業できないことに気づいたんですよね。そうなると、放課後に取材が入って、取材班に家まで密着され、芸能の仕事をしている時よりも露出が多い……そんなわけのわからない状態でした」

「高校を卒業した時に、芸能界を一旦やめしか芸能の仕事はできませんから、できることが限られてきます。なので何か部活に入ろうと思い、応援指導班に入りました」

「当時テレビの『ザ・ノンフィクション』の

和田 瞳

Hitomi Wada

（俳優・2013 年卒）

半径 5m 圏内にいる全ての人たちを幸せに！ それが今の夢



Profile

和田瞳

1995年東京生まれ。幼少期から子役として活躍。大河ドラマ「豊臣兄弟！」桑山殿役、WOWOW「正体」井尾千草役、カンテレ「彼女はキレイだった」藤石聡子役、その他多数出演。粟野哲也先生が繋いだ縁で『傀儡の声』（TOKYO MX）でテレビドラマ初主演。株式会社Halinaで代表取締役CEOを務め、SNSマーケティング他を行う。

てみたんです。でも女子大生キャスターとかモデルとか……ありがたいことに色々なお仕事をいただけて。『もしかしたら芸能の世界って、私に向いているのかな？』と、一度離れてみたからこそ感じられました」

「でもせっかく大学に入ったのでアナウンサー試験を受けてみました。ご想像の通り落ちたのですが、その日たまたま『明日アイドルのオーディションがあるから受けてみない？』というお話もありました。好奇心で受けてみたら、センターをやらないかというお話をいただいて……私の人生は芸能の方向へ再び動き始めました」

「その頃から『明日死んでもいいように生きよう』と思うようになりました。周りの目を気にして挑戦しないより、自分の心に素直に生きた方が幸せだと思ったんです」

辛くとも大好きな芸能の世界

ただその道を目指すには、当然両親の理解が必要だ。特にお父上に芸能の仕事を認めてもらうため、プレゼンをしたらしい。

「私の家はサラリーマンの家系なので、私にも普通の就職を求めていたと思います」

「だから私は、どういう仕事をして、どのくらい稼いで……ということをまとめた資料を作って、父に提出しました。そして『芸能の道に進ませてください』ではなく、した日はないです。好きだから続けられています。改めて、好きな仕事ができているって幸せなことです」

粟野教諭が繋いだ縁

和田は、ＴＯＫＹＯ　ＭＸの連続ドラマ『傀儡の声』（24年）で、地上波連続ドラマの主演に初めて抜擢された。その作品と和田を繋いだのが明治高校の粟野哲也教諭だったという。

「粟野先生が、明治高校ＯＢである〝東京コンテンツラボ〟の高木征太郎さんに『和田という卒業生がいるのでぜひ使ってあげて』と営業してくださったそうなんです。実は粟野先生とは学生時代あまり会話もしたことがないくらいだったのに……。本当に感謝とご縁で繋がった作品です」

「他の卒業生の方からも『○○先生のＳＮＳで知りました！』と言われたり、先生たちが応援してくださっていることを色々な方から聞きます。たくさんの愛を多くの方からいただいて生かせてもらっているんだなと実感します。おこがましいですが、ずっと俳優として生きていくことで、私が人に何か与えられるものや恩返しできることがあるのではないかと思い、頑張らなければと思っています」

「コロナ禍に芸能の仕事が一気に延期になってしまい不安な数ヶ月を過ごした時、何か自分に力をつけなければと思い立って、芸能の仕事をセーブしてビジネスを学び、会社を設立しました。現在あっちにこっちに大忙しですが、とても充実しています」

「どちらも手を抜かず一生懸命頑張ることに意味があると思っています。たくさんの人をいろんな方向から幸せにしたいです」

俳優と社長業の両立は大変だ。

「朝からランニングをして、9時から18時まで社長業、20時から深夜までドラマの撮影です。俳優と社長の二刀流です！」

取材中もよく笑った和田だが、その『笑う』ということを大切にしていると言う。

「私の仕事は、どうしても運という不確実なものが必要です。その運を掴むことができるように、日々努力はしながらも、常に笑っているようにしています。特に辛い時こそ笑うことを心がけています。素直に生きて笑っていると、自然と良い運が来ると思うんですよね」

そんな和田に、今の夢を聞いてみた。

「50歳になった時、半径5m圏内にいる人を幸せにしたい。そして笑っていてほしい……それが今の夢です」

「芸能の仕事も社長業も、人を幸せにできなかったらやる意味がない。周りにいる人はまとめて全員私が幸せにしてやる！　そのくらいの気持ちで日々生きています」

「進みます』と宣言したんです」

「父は意外とあっさり、『おお、そうか』と言うだけで、認めてくれました。反対されると思っていたので拍子抜けでした」

とはいえ順風満帆とはいかなかった。芸能界はやはり厳しい世界……足を引っ張られるなど、辛いこともあったという。

「主演映画が決まった時、信頼していた子に事実無根の話をＳＮＳに書き込まれ、ファンの方を悲しませてしまいました。でもそれがあったおかげで、『もっと結果を出してやる』って思いました。何が真実かは背中で示そうと思ったんです」

本稿をお読みの明大明治の生徒の皆さんの中には、和田と同じように芸能の世界を目指したいと思っている方もいるかもしれない。『芸能界にようこそ』と言いたいところだが、和田は『芸能の仕事は安易にはお勧めできない』と言う。

「私は、芸能のお仕事が、たまたま自分の性格に向いていたんだと思います」

「色々な機会をいただいて、とてもいい経験をさせてもらっているし、大好きな仕事です。ただ簡単にオススメできるものではありません。労働時間もバラバラだし、日々違う環境、足を引っ張られることもある。役によって気分がかなり落ち込むこともあります。強いメンタルが必要です」

「ただ、私はこの仕事を選んだことを後悔

勝つためのゴールキーパー
―2年後のロス五輪、そしてその先を目指して―

明治中学・高校を経て、プロのサッカー選手になった小林将天。サッカー部ではなくFC東京の下部組織で育ち、今年松本山雅FCに育成型期限付き移籍……彼が目指すのは、2年後のロサンゼルス五輪。今はそのために全てをかける。

―特集―夢を掴め―その4―

小林将天
（プロサッカー選手／松本山雅FC・2024年卒）

Masataka Kobayashi



Photo ©FC TOKYO

ニッポンは強くなったものだ。

我々明哲会の面々が明治中学に入学した1993年、Jリーグが創設された。これによって日本のサッカーのレベルは格段に上がったが、W杯出場は遠かった。〝ドーハの悲劇〟もこの年の10月だった。

しかし今では日本代表がW杯に出場するのは当たり前。強豪国相手に互角の戦いを見せてくれる。本当に強くなったものだ。

そんな世界に挑もうとしている明大明治出身の選手がいる。小林将天だ。

小林は幼稚園の頃にサッカーを始め、小学校でゴールキーパーに転向。その後FC東京の下部組織に入団し、明治中学入学後もサッカー部には入らずFC東京のユースクラブでの活動を継続させた。

小林曰く、明大明治時代に学業とクラブチームでの活動を両立するのはかなりかなり大変だったという。試験期間中にもFC東京の活動はあり、勉強時間を確保するためほとんど眠らないこともあったらしい。

それでもしっかりと明治高校に進学し、明治大学への推薦も勝ち取った。

大学か、サッカーか

そして高校Ⅲ年生の時、FC東京のトップチームからも声がかかった。この時小林は相当悩んだようだ。

「大学とプロ、どっちを選んだ方が自分として成長できるかなと悩みました」

そう小林は語る。

「中高と頑張って進級してきたから、そのまま大学に進学したかったし、プロに昇格させてくれるという話もあった。ありがたいことに悩める選択肢がありました」

「明治大学のサッカー部もトップレベルですから、そっちに行っても成長できるとは思いました。でもプロの環境でサッカーができるというのは本当に貴重なことだし、数年後にまた声がかかるか分からない……色々なことを考えて出した答えは、『両方いっちゃおう！』というモノでした」

それで小林は結局、FC東京のトップチームに入団しつつ、明治大学にも学生として通い始めた。当然その両立も大変だ。

「午前中に練習して、昼飯も食べずに大学に行って3限と4限に出席する……そんな地獄みたいな学期もありましたね」

明高サッカー部が強くなるには？

小林は明治高校在学時代、サッカー部の練習を見ることもあったという。彼は明治高校のサッカー部をどう見ていたのか？

「もっと良い練習が出来ていれば、もっとやれそうだなと思うことはありました」

そう小林は振り返る。

「学校のルールとして、夜遅くまで練習できなかったりする部分もあると思います。でも、もっと練習しないと強くなれません」

「上手い人たちを中心に、本気で勝ちたいと思わせられるような環境作りをしてあげなきゃダメだなと思いました。グラウンドも人工芝だし、施設は悪くない。だから、もっとやれても良いはずです」

本気で勝ちに行く……そういう気概があれば、あとは何をすればいいか、自ずと分かってくるはず。そして練習するための設備は、明治高校には比較的整っている。

日本代表

小林は各年代の日本代表に名を連ね続けてきた。国を背負って戦う重圧や責任感は、ほとんどの人が一生かけても感じることのないモノであろう。

彼はそれにどう対峙しているのか？

「もちろん、昂る気持ちはあります。でも、僕らは選ばれてきたので、選ばれたことに感謝して、自分がやれる最大限のプレーをするだけです。たぶんみんな、気負いすぎずにやっていると思います」

そういう気持ちで挑めなければ、日本代表という重責など務まらないのだろう。

「怖いとか、そういうことを思ったこともないです。これから先、そういう場面もあるのかもしれませんが、基本的にはそういう気持ちになったことはないですね」

「対戦する相手が誰であっても、しっかり対策して準備して、自分がやるべきことをやるだけだと思います」

勝つためのゴールキーパー

2年後にはロサンゼルスで五輪が開催される。2005年生まれの小林は、そのロス五輪の中心メンバーとなるべき年代。彼にとっての今の夢は、五輪代表入りし、フィールドで戦うことだ。そのために彼は、今年の7月に松本山雅FCに育成型期限付きでの移籍を決断し、出場機会を求めた。

「試合に出て活躍して、中身の濃い充実した1年にしたいと思います」

移籍について、小林はそう語った。

「FC東京にはキム・スンギュ（韓国代表）さんや田中颯さんという経験豊富なすごい先輩がふたりいますから、外に出て経験を積みたいと思っていました。タイミングが合えば挑戦したいとずっと思っていたので、それがちょうどこの時期でした」

「ロス五輪代表の座を掴むのが、直近の目標です。松本山雅FCに来ることを決めたのも、そのためです」

そしてもちろん、その先も見据える。

「将来的には、世界の舞台で戦うのはもちろん、人に憧れられるようなゴールキーパーになりたいです。このキーパーがいたから勝てた……そういう存在になりたいですね。そして自分も周りも笑顔が絶えない、そんな存在になりたいと思っています」

「まだプロ3年目なので選手像としては全然ですが、人としても選手としても、そこに近づけるように日々やっている最中です」

学業との両立、そして成長するための不断の努力……小林はまさに全てを賭けている。なぜこれほどまでにサッカーに惹きつけられたのであろうか？

「サッカーは1点の重みが大きいスポーツだと思います。まず1点獲り、それをみんなで守り抜き、試合終了の笛を聴く……その時のやりがいというか高揚感は、サッカーならではの醍醐味だと思うんです」

「それとは別に、僕はキーパーというポジションが好きなんです。相手のフォワードが自信満々に打ったシュートを止めて、彼らが悔しがる姿を見るのが好きなんです。その瞬間のためにキーパーやってますね！」

まずは2年後のロス五輪。サムライブルーのメンバーの中には、きっと〝小林将天〟の名があるはずだ。



Profile

小林将天
（こばやしまさたか）

2005年東京生まれ。荻小SCからFC東京U-15むさし、FC東京U-18を経て、2024年にFC東京のトップチームに昇格。その間、各年代の日本代表に名を連ねてきた。ポジションはゴールキーパー。191cm、87kgという恵まれた体格である。2026年7月からJ3の松本山雅FCに育成型期限付きで移籍。背番号は31。

フォワードが自信満々に打ったシュートを止めて彼らが悔しがる姿を見るのが好きなんです

明大明治の全方位教育

生徒たちが夢を掴むため、明治高校・中学はどんな教育をしているのか？

北村純〝副校長〟に話を聞いた

ちなみに北村副校長は、2027年3月で退任される

明哲会の一同は、明治中学に入学した時のことをよく覚えている。担任の先生が、大きな、壁のような人物だったことを。北村純教諭だ。

壁のような出で立ちにもかかわらず、俊敏な身の動き。あたかも牛若丸を護衛する武蔵坊弁慶のような方であった。

しかもそれがひとりだけではなかった。B組の担任が北村先生であれば、A組の担任は小柴仁美教諭。まるで弁慶がふたりいる、そんな学年だった。そして何かあれば、ふたりがその巨漢に似合わぬ俊敏さで殺到してくる……まだ身体が出来上がっていない当時中学1年生の我々にとっては、それはそれは恐ろしい光景であった。

さらにC組の担任は鈴木正人教諭。出で立ちはスラリとしているものの、また違った迫力を持った方であった。そしてその3人を学年主任として束ねるのは粟野哲也教諭……まさに最強の布陣である。この先生方をご存知の方であれば、学年が違っても頷いていただけるのではなかろうか。

あれから30余年。北村教諭は今や本校の副校長を務めておられる。

その30年の間に、校舎は良く言えば伝統的な猿楽町から、隅々まで光り輝く調布の新校舎に移転。しかも男子校から共学へと変わり、まるで別の学校のようだ。

猿楽町時代と調布時代、生徒は変わったのか？　北村副校長に尋ねた。

偏差値爆上がり!?

「本質は変わらないよ。地頭が良くて、自分で考えることができる。そういう生徒が集まっているのが明大明治、そんな感じがするね」

「ただ、ちょっと幼くはなったかもしれない。指示されなければ動かない生徒の割合が増えた感じはする。あれダメ、これダメという社会になったからという側面もあるかもしれないけどね」

「世の中には色々な人がいて良いと思う。しかし私も3人の娘を持つひとりの親として、冒険をしてしまってまずいことになったら気の毒だなというのはある。昔は冒険しても、社会が許してくれるという風潮があったけど、今はそうじゃないからね」

そう社会が変革する中、明大明治も変わった。校舎が広くなり、共学になっただけではない。入学希望者が増え、しかも偏差値も〝爆上がり〟しているらしい。

「校舎が新しいことと、男女共学になることで、入学を希望する生徒さんが増えた。調布にやって来てから18年も経っているんだけど、今も学校見学に来ていただくと、『綺麗だ、広い』と言っていただける。私からすれば、『だいぶ汚れちゃったなぁ』と思うんだけどね」



英語教育に注力

明治大学の人気も急上昇。今や行きたい大学第1位であり、その付属校である明大明治の偏差値が上がるのは、至極真っ当なことかもしれない。

「偏差値がすごく上がったよね。聞いたところによると、日本全国の高校の上位1％に入っているらしい」

「調布に移転してくる少し前から、明大明治の校長は、明治大学から来た方が務めるということになったんだ。そうすると、明治大学が明治高校から進学してくる生徒をどう見ているかという像がよく見える」

「明治大学に送り出す生徒で一番大事なのは、しっかりと基礎的な力を持って、大学で学ぼうとする子だということ。それで教育改革をすることになった。そのためには、学校の中だけの物差しではまずいだろうということになって、英検とＴＯＥＩＣの成績を、推薦の基準に入れるということになったわけだ」

「でも目標を掲げただけじゃダメだから、英語教員を増やして、英語の授業時間数を増やして……そういう具体的な対策をやったんだ」

「随分前から、グローバルの時代と言われている。海外を相手に働くのなら、世界共通語の英語は身につけておかなきゃいけないからね。でも他校と比べて本格的に英語に力を入れたのは、かなり早い段階だったんじゃないかな」

「ただ闇雲に英語の成績が良くなければいけないというわけじゃない。中には英語がどうしてもダメという子もいる。そういう場合には、他で点数を取れば良いとか、そういう救済措置もある。文科省からもそういう手当をせよという指針があるんだ」

英語を中心とした学力の底上げをしたということはよく分かったが、明治大学は、どういうことを明治高校の卒業生に求めているのか？

「明治大学には、それこそ色々なところから入学してくる。でも、明治大学の方針がどんなモノなのかは、ぼんやりとしか分からない状態でやってくる。そんな中で明大明治から来た学生は、質実剛健とか独立自治がどんなモノかというのがある程度分かっている。そういう学生がいれば、大学としても具合が良いらしい」

「よく聞くのは、研究室のリーダーになるとか、大学1年生の時にクラスの代表幹事をやるとか、そういう明治高校の卒業生が多いらしいね」

選択肢を増やす教育

今回の会報誌のテーマは、「夢、つかもうぜ」である。英語教育に力を入れることは、生徒たちが「夢を掴む」ための基礎を築くのに役立つこともあるだろう。そう尋ねると、北村副校長はこんなことを語ってくれた。



| 特集 | 学生を支える | その1 |

北村 純

Jun Kitamura

（明治中学・高校副校長）

「選択肢がたくさんある状態で卒業できれば、どこにでも行けるじゃない？　そういう点で我が校は、昔から文理を分けていなかったり、分けたとしても高Ⅲからだったりということもしている」

「10年くらい前から、理系も文系のことを理解し、文系も理系のことを理解しなければいけないとあちこちの大学が言っている。そういう点で言えば、明大明治は以前から先端を行く教育をしていたのかもしれないな」

「井家上哲史校長は、まさに〝全方位教育〟という言葉で表現されているけど、まさにそういうところにあると思う」

しかし明大明治での日々は、学業以外の時間も実に濃密である。今の自分を形作るために重要な6年間だったなぁと振り返る方もいらっしゃるであろう。

学校として、学業以外で何らかの方針はあるのかと尋ねると、北村副校長は「ない」と語る。

「それは、教員個人個人がやっていることなんだと思う」

「私は猿楽町時代に、生徒会本部の係主任を任されたことがあった。特に文化祭の前は、毎日夜の11時くらいまで準備をしていた。そんな時間まで生徒に飯食わせないわけにいかないから、彼らと一緒に御茶ノ水界隈で食事して、それで帰るわけだ」

そういう〝授業〟とは違う時間の中で、生徒たちは成長していった。

「今は前島（研二）先生がそれに近い役割なのかな。教員室で見ていると、1日の半分くらいは生徒と話していると思う」

学校として「こうしよう」という方針があったわけではないと証言する北村副校長だが、明大明治出身の教諭の行動は参考になる部分があったようだ。

「明大明治の、それこそ生徒会本部出身の先生方のやり方を見て、明治とは関係ないところから来た先生も、『ああ、この学校はこういうやり方なんだな』ということが、なんとなく染みついたのかもしれない」



明大明治は、先端を行く教育をしていたのかもしれない

印象に残る卒業生

そんな中で、思い出に残る卒業生はいるのかと尋ねると、北村副校長はこんな話をしてくれた。

「最近で言うと、剣道部にいた若林君だね。彼は神奈川の地元で剣道をやってきて、明治中学に来た。それで剣道部に入るんだけど、その頃は男子部員が少なかった時期で、大会では5人で団体戦に出場するところ、3人しかいなかった。それで、彼は悔しい思いをした」

「でも彼は、Ⅰ年生の途中でキャプテンになった。そしてⅡ年になると、『俺は上を目指したいから、皆ついてきてくれ』って言って、実際にすごく強くした。部員もすごく増えた。彼はもう卒業して現在は大学2年生なんだけど、去年の剣道部の部員は、男女合わせて45人だった」

「高Ⅲ最後の試合が終わった後……彼は部員に対して『僕のわがままに付き合ってくれてありがとう』と言って、引退していった。それを見ていた後輩は、同じようにはやらないとしても、意識を持ってやるよね」

「ひとりが中心になって、みんなを引っ張って実を結んだのは、彼が初めてだったな」

教師って素敵な仕事だな

そんな北村副校長は、なぜ教師を志したのか？　それは、伯父さんの存在が大きかったのだそうだ。

「僕の親父は会社員で、転勤があった。それで小学2年生の時の僕は、北海道にいた」

「でも北海道って、プールがないので泳げるようにならない。それで、親父の20歳離れた兄貴、僕の伯父さんにあたる人が長野で小学校の校長先生をやっていたんで、夏の間はその伯父さんのところに姉弟3人で預けられて、プールで泳ぐ練習をさせてもらった。夏休みの宿題も見てもらった」

「僕からするとさ、いつも怒る親父と、優しい伯父さん……これは何が違うんだろうと考えた時に、『学校の先生は優れている』と思ってしまったんだよね」

北村副校長からすれば、夢とは違うかもしれないが、そのことで「なりたい職業」ということにはなったらしい。ただ、自衛官にも憧れたそうだ。

「ちょうどベトナム戦争の時代だったから、国を守るということにも興味があった。だから自衛官になりたいとも思ったんだ。最後まで教師と自衛官で悩んでね……最終的には教師を選んだ。自衛官も素晴らしい仕事だけど、危険と隣り合わせという部分も正直に言ってある。だから、親父が反対したんだ」

「親父よりも優れてると思って憧れた教師に、親父の勧めで就くというのも、皮肉な話だけどね」

来年3月ご退任。今の夢は？

北村副校長は、27年の3月で定年退職を迎える。今どんな夢を持っているかと尋ねると、こんなことを語ってくれた。

「忘れもしない。あれは明大明治に就職した直後、4月12日だったと思う」

「その日は、最初の授業の日だった。それで配るプリントの印刷が間に合いそうもなかったのに、朝の立番があったんだ。男坂の下のところでね」

「それで玄関から出ていこうとしたところに、ちょうど山口（弘）先生が出勤してきた。彼とは同期なので、『プリント印刷できてないんだけど、やってくれないかな？』とお願いしたら、『ごめん、今日は俺も無理だ』と断られてしまった」

どうも話が見えない……。

「なんで印刷する時間がなかったのかと言われると、寝坊したわけじゃないんだよね。立番には間に合ってるわけだから。ただ、もっと早く来ていれば、印刷だって問題なくできたはずだ」

「それ以来、僕は一度も目覚ましを使ったことがない。でもそんなことがあったから、寝坊することに対する恐怖心がすごくある」

「だから、時間を気にせず寝たい……それが今の夢だね」

だったら素直に「目覚ましかけたら良いじゃないか！」と、諸姉諸兄は突っ込んでいらっしゃるだろう。私も突っ込んだ。

「でもそれ以来、目覚ましをかけなくても良い身体になっちゃったんだよ。根っこが弱虫だからね」

明大明治に赴任していた時間は楽しいモノだったのか？

「楽しいっていうよりも、感謝だよね」

そう北村副校長は言う。

「比較してはいけないんだけど、人間ってさ、やっぱり運が良い／悪いってあると思うんだよね。でも僕はここに勤めさせてもらって、全員覚えているわけじゃないけど多くの卒業生と交流させてもらって、どうやら3月を迎えれば無事に退職できる」

「そういうことを思うと、まず明大明治を卒業したみんなには、幸せになってほしいなと思うんだよね。そして僕もここにいられて良かったです。幸せを感じさせてくれたと思います」



特集｜学生を支える｜その1｜

北村 純

Jun Kitamura

（明治中学・高校副校長）

Profile

北村純

1986年明治高校着任、総務・高校生徒指導・中学生徒指導の各主任、中学校教頭を経て2020年より副校長。国語科教諭、司書教諭、剣道教士七段、調布市スポーツ推進審議会委員。教員生活41年のうち35年は高等学校担当。

粟野哲也

Tetsuya Awano

（元明治中学・高校教諭／1974年卒）

“まなざし“で木を育てる

明哲会の一同が在学していた6年間
学年主任は一貫して粟野哲也教諭だった
当時は、厳しい先生というイメージだったが……

本年の幹事学年である明哲会は、6年間ずっとひとりの先生に学年主任を務めていただいた。粟野哲也先生である。だから同期会の名称にも、先生のお名前から一文字を頂戴して明〝哲〟会とさせていただいた。

明哲会メンバーに「先生像」について尋ねれば、かの有名な金八先生を差し置いて、粟野先生の名前が挙がるのは間違いない。ぶっちぎりの1位であろう。

しかし冷静に考えてみると、我々が明治中学に入学した時の粟野先生は37歳、高校を卒業した時だって43歳……今の我々（46歳）よりも若かったというから驚きだ。

そんな粟野先生は2020年に退任され、現在に至る。

「小さい頃は、それこそお相撲さんになりたいとか、プロ野球の選手になりたいとか、そういう一般的な夢を持っていたよね。僕は巨人・大鵬・卵焼きのまさにドンピシャリの世代だから」

その粟野先生が教師を目指すきっかけとなったのは、明治中学に入学した時に、憧れの先生と出会ったことだった。

「国語科に、田村晴彦先生がいらしたんだ。当時まだ明治中学の先生になったばかりで、2年目で初めて担任になられた時の生徒のひとりが、私だったのね。田村先生には、勉強のほかにも神保町古書店街や秋葉原電気街の歩き方なんかも教わった。それで学校の先生って良いなと思ったんだ」

我々が在学していた時に神保町や秋葉原をブラついているのを見つかったら、絶対に粟野先生に怒られていたはずである……でもまあ、それは良しとしよう。

田村先生との出会いにより、教師という職業に憧れを持った粟野少年。しかし明確に教師になることを目指していたわけではなかった。ただ、明治大学の文学部に進学するにあたっては「教師になるから」とご両親を説得したらしい。当時は文学部から就職するのは簡単な時代ではなかったが、ただ教師になるならば話は別だった。

あの粟野先生にも迷った時が！

しかし大学に入ると、高校時代とは環境も変わる。そして色々なことに興味を持ったらしい。そしてこの頃は、今とは異なり終身雇用の時代。転職というのはレアケースだった。粟野青年は悩んだ。

「これはね、君たちには話したことはないと思うんだけど、私は大学を卒業してすぐに就職したわけじゃないんだ。就職活動してダメだったというわけではなくて、就職活動自体しなかったんだよ」

そう粟野先生は振り返る。

「一生の仕事という言葉が自分には重すぎて、一歩踏み出すのに躊躇してしまった。教師をやるにしても、他の仕事をやるにしてもさ……迷いに迷ってしまった」

語弊があるかもしれないが、粟野先生といえば〝迷いなくまっすぐ進むべし〟というような教えをされていた先生という印象が強い。にもかかわらずご自身が大いに悩んだことがあったというのは、意外であった。

「でもね、ある時に思ったんだ。一生の仕事ということに自分としてはこだわっていたんだけど、そこまで深刻に考えなくても良いんじゃないかってね」

「だから、20代の自分が1番やりたい仕事が何かを考えれば良いじゃないかと思ったんだ。30代になってやりたいことが変わっていたら、転職すれば良いじゃないかと。それで今やりたい仕事は何だろうと考えたら、やっぱり学校の先生だったんだよ。教員免許も取っていたし、教育実習もやったことで、学校の先生に対するイメージが具現化していたということもあったからね」

そういう苦悩した経験は、明治高校の進路指導主任／高大連携主任に就いた時にも、大いに活かされたという。

教師という仕事にハマった！

教師という仕事のどういう側面に憧れ、職業にしようと思ったのか？　そう尋ねると、粟野先生はこう説明してくれた。

「学校の先生っていう仕事は、とても多岐にわたると思うんだ。でも最初は、やっぱり〝授業をする人〟というイメージだったと思う」

そう粟野先生は言う。

「世間の人たちからすると、学校の先生っていうのは、大学とか大学院までに自分の専門分野を一生懸命勉強して、溜め込んだ知識を生徒たちに教えていくというイメージだと思う。でも、それで済むならこんなに楽な仕事はないよ。実際に先生になってみると、全くそうじゃなかった」

「もちろん、学生時代に学んだ知識はベースにはなるんだけど、授業するためには新しく勉強しなきゃいけないことが山ほどあったんだ」

「つまり学校の先生って、教えるプロであると同時に、勉強するプロじゃなきゃいけないんだよね」

粟野先生はまずは某女子校に講師として就職し、その翌年に明中高に〝戻って〟きた。講師としてではなく、専任の教師として。すると、すべき仕事がどんどん増えていった。



粟野哲也

Tetsuya Awano

（元明治中学・高校教諭／1974年卒）



Profile
粟野哲也

1974年明治高校卒業（翼明会）。81年明治中学・高校教諭（社会科）に着任。中学校教頭などを経て、2018～20年副校長。本年度総明会幹事学年（明哲会）が在学中の6年間、ずっと学年主任を務めた。

「最初は、学年主任って何をすれば良いのか分からなかった。それぞれのクラスに担任の先生がいらっしゃるわけだから、それを押し除けて生徒のことを指導するのはちょっと違うなと思ったのだよね」

「だからそれからずっと、定年退職するまで、生徒に〝まなざし〟をかけるということを心がけていた。直接何かを言ったり、関わったりするのではなくて、常にまなざしをかけているということを心がけていた。それは鬱陶しいなと思われたかもしれないけど、安心感になれたらと思っていたんだ」

生徒たちに〝まなざし〟をかけること それをずっと心がけていたんだ

「教育と言えるか分からないけど、自分がずっと心がけていたのはそれかもしれない」

実はその具体例もあったという。

「ある先輩の先生からのアドバイスをヒントに、担当学年の生徒全員をフルネームで呼んでいたのも、それと無関係ではありません」

林業的教育

粟野先生に限ったことではないかもしれないが、明中高での6年間は、授業中に学業以外の話を、先生方が数多くしてくださった印象がある。粟野先生の授業には、〝ネクタイの結び方〟の実習もあった。

「学校って、教科書に書いてあることだけを教えるわけじゃないと思うんだ。むしろ教科書に書いてあることなんて、君たちはほとんど忘れちゃってるんじゃないかな」

「当時は男子校で、男同士、しかも先輩後輩でもあったからさ、この子たちが社会に出た時に、困らないようにしてあげたいという気持ちもあったよ。授業でも、そういう意識を持ってやっていました」

さらに粟野先生は、こんなことも語ってくれた。

「私はさ、実はすごく子供が好きなんだ。自分の好きな子供たちと毎日接することができた40年は、それこそ夢のような40年だった。『子供が好きならばなんであんなに厳しかったんだ？』って言いたいかもしれないけど、それとこれは別問題……というか、その子たちが将来困らないようにしてやりたかったんだ」

明中高は、言わずもがな中高一貫校である。それもあり、粟野先生は〝林業的〟教育をしたいと考えていたという。

「6年の中高一貫校だから、すぐに結論が出なくても良いと思っていたんだ」

「だから私は、農業的な教育ではなく、林業的な教育をしたいと思っていたのね」

「農業だってとても大切。でも1年後には収穫をしなければいけない。でも一貫校なら6年あるから、林業的な教育ができると思っていたんだ。だから中学生に要求するのは酷なことでも、先々そういうことができるような大人になってもらうために、『ダメなことはダメ』と教えていたつもり。君たちにとっては、私は厳しい先生だったかもしれないけどね」

「そういう君たちに何を期待していたかというと、家族の屋根、社会の柱になるような人物になってほしいということだ。家族とか社会とか、職場とか、それぞれの場所で皆から頼られるような人になってもらえたら、それが明治の教育、つまり林業的教育の結果だと思ってるんだよね。有名人になったり、国家資格を取ったり、大企業で出世したり……そういうことだけが夢を叶えることだとは、私はあまり思っていなかった」

「人生って、良い時ばかりじゃない。蹲くこともあると思う。そこで立ち上がる心のタフさ……明中高の卒業生は、そういうのを持っているのではないかと思う」

粟野先生の夢

そんな粟野先生にとって夢とは何なのか？　率直に尋ねてみた。

「ひとつは、今年叶ったよ。君たちが卒業する前に、『45歳になったら総明会の幹事学年になるんだよ』と授業で話した覚えがある。そんな年が来たなんて、本当に夢が叶った」

「それぞれの社会の場所で活躍しながら、こうやって母校のためにも頑張ってくれている。43歳の時の僕の夢が、まさに今年叶おうとしている……そう思っています」

そして明治高校を退任された後も、粟野先生は教育に関わっておられる。そこでの夢も今年ひとつ結実するという。

「70歳ともなると、今が自分の人生で一番元気な時だと思うようにしているんだ」

「退職してある意味自由の身になった。だから今度は、色んな学校の先生たちの役に立つようなことを少しやりたいなと思ったんだ」

「教員だった頃から、東京都内の色々な学校の社会科の先生たちで研究会をやっていたり、国家資格を取ったり、大企業で出世したり……そういうことだけが夢を叶えることだとは、私はあまり思っていなかった」

「人生って、良い時ばかりじゃない。蹲くこともあると思う。そこで立ち上がる心のタフさ……明中高の卒業生は、そういうのを持っているのではないかと思う」

粟野先生の夢

そんな粟野先生にとって夢とは何なのか？　率直に尋ねてみた。

「ひとつは、今年叶ったよ。君たちが卒業する前に、『45歳になったら総明会の幹事学年になるんだよ』と授業で話した覚えがある。そんな年が来たなんて、本当に夢が叶った」

明哲会の面々が総明会の幹事に……
43歳の時の私の夢が叶ったよ

「今年はその研究会の機関誌の編集長もやって、それも出来上がった」

そしてこんな楽しそうな夢というか、目標もあり、それが達成間近であるという。

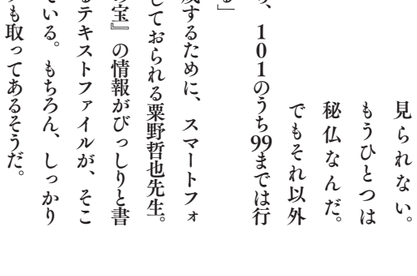
「40数年前、ある美術系雑誌（『芸術新潮』）で、『日本の百宝』という特集があった。これは当時の日本の芸術家、知識人、評論家などにアンケートを取って、日本の100の宝（法隆寺を含め101）を選ぶという企画だった」

「私は社会科教師という仕事柄、そして歴史研究部の生徒を連れて全国色々な博物館に行っているから、結構見ているつもりだった。それで退職した時に、そのうちどのくらいを見たのか、数えてみたんだ。もちろん、実物をね」

「数えたら、56くらいしかなかった。意外と少ないと思ったんだ。だから退職した後、馬力をかけて色々と見に行ったんだよ。コロナで行けない時期もあったけどね」

「あれから6年。結局96までいった。ひとつは焼けてしまって、もう見られない。もうひとつは秘仏なんだ。でもそれ以外は見られるから、101のうち99までは行けると思ってる」

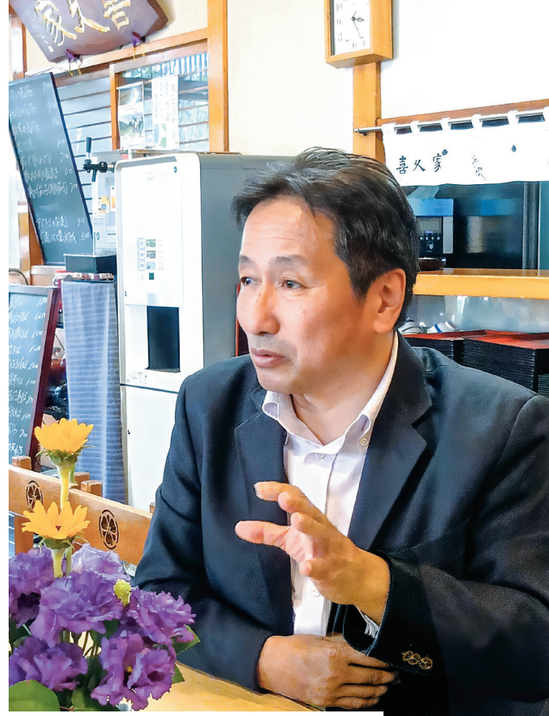
この夢を達成するために、スマートフォンも使いこなしておられる粟野哲也先生。その『100の宝』の情報がびっしりと書き込まれているテキストファイルが、そこには保存されている。もちろん、しっかりとバックアップも取ってあるそうだ。



粟野先生はご退任後も、明治高校で共に働いた先生方（写真左から横山晴之、鈴木康巳、星野均各先生）とも交流されている。テーブルに並ぶ飲み物がカワイイ。

山口 弘 教諭

Hiroshi Yamaguchi



「その姿勢にプライドを感じる」

山口 弘



高校1年の夏。山口弘先生が夏休みの課題として出した読書感想文――立花隆『青春漂流』。そこに掲載されていた飛騨高山の家具工房「オークヴィレッジ」の塗師、稲本さんの記事に衝撃を受けたひとりの明高生がいた。

新潟県関川村で「川鍋木物店」を営む木工職人・川鍋幸弘。彼は1冊の本を読み、心を動かされ、実際に飛騨高山へ向かい、人生を変えた。

「もし、あの本を読んでいなかったら、今の仕事には就いていなかったと思います」

川鍋はそう語る。

きっかけは高校1年の夏休み。山口弘先生が現代文の課題として出した『青春漂流』だった。様々な若者の生き方を描いたノンフィクションで、その中に登場した家具工房「オークヴィレッジ」の塗師、稲本さんの記事が、川鍋少年の心を強く掴んだ。

「実家が工務店だったので木は身近でした。でも、木工職人になりたいとまでは考えていなかった。ただ、あの記事だけは衝撃だったんです」

普通の高校生なら、「面白かった」で終わるかもしれない。しかし川鍋は違った。自ら調べ、飛騨高山で行われていた木工セミナーを探し出し、高校在学中に単身岐阜へと向かったのである。

衝動

しかも、その本当の目的は体験ではなかった。

「学校を辞めてでも入りたい、と直接伝えに行ったんです」

もちろん、いきなり弟子入りなどできる世界ではない。そこで提示されたのが、オークヴィレッジの若手養成機関への試験だった。

実技、小論文、面接。

大学進学後も思いは変わらず、川鍋は新聞配達をしながら学費を自ら工面し、ひとり暮らしを続けた。親の援助に頼らず、「本気でこの世界に行く」という覚悟を形にしたのである。

しかし、1度目の受験は不合格。

同期の3~4割が辞めていったという。

「でも、自分で選んだ道だったので、つらいとは思わなかったですね」

その後、新木場で仲間と工房を立ち上げ、さらに新潟県村上市へ。そして現在は関川村で「川鍋木物店」を営んでいる。

作品には、サインを入れない。

「僕が作ったって主張したいわけじゃないんです。サインがなくても、これは川鍋の作品だって分かるようになりたい」

山口先生は、その姿勢に「逆に強いプライドを感じる」と語る。

対談の終盤、山口先生は、教師として大切にしてきたことをこう語った。

「でも諦めなかった」

普通なら心が折れる。しかも当時は「1度落ちたら2回目はない」と言われていた。それでも翌年、再挑戦。そしてついに合格を掴み取った。

「今思えば、ちょっと狂ってましたね」

川鍋は笑う。しかし、その突破力こそが人生を切り拓いた。

プライド

飛騨高山での修業生活は過酷だった。家具制作だけでなく、植林や米作りまで行う共同生活。十数時間、同じ工程を繰り返す日々。

「僕ら教員の仕事は、ただ授業をやって終わりじゃないと思うんです」

「生徒がこれをやりたいと思った時に、理由をつけて止めるのではなく、どうしたら実現できるかを一緒に考える存在でありたい。昔より窮屈な時代になりましたが、それでも生徒の好きや挑戦したい気持ちは大事にしてほしいんです」

実際、山口先生は高校時代の川鍋に対しても、「遊びに行くんじゃないなら、行ってこい」と背中を押した。その一言が、ひとりの高校生を飛騨高山へ向かわせ、木工職人としての人生へつながっていくことになる。

気持ちの解放

それに対し川鍋も、今の若い世代に向けてこう語った。

「今の子たちは、自分の気持ちを抑え込みすぎている気がします。もっと好きを解放していいと思う」

1冊の読書感想文から始まった物語。

教師が手渡した1冊の本が、ひとりの高校生の人生を動かした。

そして、あの時「行ってこい」と背中を押した教師と、その言葉を胸に飛騨高山へ向かった生徒は、二十数年経った今も川鍋の明治の同級生が営む蕎麦屋でこうして語り合っている。

Profile
山口弘
1962（昭37）年生まれ。國學院大學卒業。明大明治には1986（昭61）年に着任し、国語（主に現代文）を担当。「よい作品と出会える機会をつくること」「ケジメはつけるが威張らないこと」を心がけてきた。趣味はドライブと温泉巡り、寄席とインスタ。



「作品にサインを入れない」

川鍋幸弘

Profile
川鍋幸弘
1999年明治高校卒業。高校時代の体験がきっかけで木工職人に憧れ、修行を経てその憧れの木工職人に。現在は新潟県関川村で「川鍋木物店」を営む。

木工職人・川鍋と
恩師・山口教諭が語る好きを貫く力

川鍋幸弘

Yukihiro Kawanabe

（木工職人・1999 年卒）



卒業生の特殊なお仕事

夢は大きく……
バスケ少年が目指した演劇の世界

中学、高校、そして大学と、バスケットボールに勤しんだ宮原奨伍。今では舞台俳優として活躍している。



特集 卒業生の特殊なお仕事 その1

宮原奨伍

Shogo Miyahara

（俳優・1999年卒）

『夢は大きく』とか、『ビッグになれ』とかさ、前島（研二）先生がよく言ってた。俺はそういうの、結構真に受けるタイプなんだ」

そう語るのは、舞台を中心に俳優として活躍中の宮原奨伍（1999年卒）。大河ドラマやテレビCMへの出演経験もある。

宮原は中高6年間バスケットボール部の中心選手として活躍し、高校時代には関東大会にも出場。大学に進学した後も、体育会のバスケ部で汗を流した。

ただその大学時代、彼は自分の将来に悩んだ。このままでいいのだろうか……と。

それで単身イギリスに語学留学した。

「体育会に所属していたら、就職を斡旋してもらえるけど、それでいいのかなと思ってイギリスに行った。〝自分探し〟だよね」

そのイギリス行きが宮原にとっての転機になった。幼少期にミュージカル『ピーターパン』を観て漠然と抱いていた芸能界への憧れが、彼の中に湧き立っていた。

「イギリスにいた時に知り合った日本人が、テレビ局で働いていたんだ。それで日本に戻ったら、テレビに出るような仕事がしたいんだけど……と相談した」

「その人は、テレビで活躍している人の多くは、舞台で力をつけたと教えてくれた。それで日本に帰ったら演劇をやってみたらどうかとアドバイスをもらった」

最初は何も分からなかった

でも宮原は困った。演劇のことなどまったく知らなかったからだ。日本に戻って〝つかこうへい劇団〟の門を叩くわけだが、その名前すら知らなかった。

しかし彼は類稀なる集中力の持ち主だ。たとえば中学生の時の宮原は、お世辞にも成績の良い生徒ではなかった。しかし通っていた学習塾の先生（女子大生）を喜ばせようと猛烈に勉強を頑張り、なんと学年1位の成績を収めるという快挙を成し遂げたことがある。邪な動機があったにせよ、常人にできることではない。

「一度決めたら俺はやるから」

宮原はそう語るが、その集中力、実行力で、演劇界での居場所を切り開いていった。

それから20年以上が経ち、今や宮原は、演劇の世界の住人になった。

「最近では風間杜夫さんにお世話になっているし、テレビで見ていた人たちと普通にご一緒することが多くなってきた時に、『俺も一応この世界に来たんだな』と思った。いつの間にか、そこにいた」

「中学・高校の時に思っていた、人前に立つことを仕事にできているわけだから、そういう意味では夢を叶えているかもしれない。夢を叶えるって、結局ひとつひとつの積み重ねだと思う。つまり、人との関係を大切にしなきゃいけない。自分ひとりじゃ何もできないからね」



最近では女形にも挑戦しているという宮原

人に興味がある

そんな夢を叶えた宮原に、演劇の魅力を改めて尋ねてみた。

「人と接すること、人に何かを伝えるとか、そういうことを演劇ならたくさん試せる」

「たとえばひとつのシーンを成立させるためには、自分がセリフを喋るだけではダメ。相手がセリフを言いやすいような芝居をしてあげなきゃいけない。もちろん、時には自分が強く発しなきゃいけないこともあるけど、それも含めて、人と関わることを楽しめるようになった気がする」

「俺は舞台の仕事が多いんだけど、ダイレクトにお客さんの反応を知ることができるのはすごく嬉しい。そして舞台が終われば、お客さんに挨拶できる……そうやって皆さんと触れ合えるのも楽しい」

「つまり俺は、人に興味があるんだと思う。だから演劇を目指したのかもしれない」

何かを伝えたい

そんな宮原には夢がある。それは彼が生業としている芝居を通じて、大切な何かを若い人たちに伝えることだという。

「広島の中学校に1週間滞在して、3年生と一緒に文化祭の劇を作るということを10年以上やっている。他にも小学生に交通ルールを教えたり、熊本の大学に行って講師みたいなこともやった」

「教師になりたいわけじゃないけど、教育に興味ある。芝居を通じて、何か別の大切なことを伝えたいと思う」

「その中学3年生は全員参加ということにしているんだけど、劇に出るのなんか絶対に嫌という子もいる。でも参加しなきゃいけないのに一生懸命になれなかったら、後悔するかもしれない。その後悔したという経験が、次の別の何かに繋がる……そんな形でもいいと思う」

でもひとりの俳優として、大きな野望はないのか？　俳優ならばもっと売れたいとか、そういう願望があって普通だ。それこそ前島先生の言う「ビッグになれ」だ。

「全国公開されるような映画で、やっぱり主演をやってみたい。あとは韓国の作品にも出てみたい。そういう気持ちはもちろんあるよ。そのためには、もう少し頑張らなきゃいけないね」

「でも結局、イギリスに行った時に教えてもらった〝まずは演劇〟っていう教えは、間違っていなかったんだなぁと思う」

そんな宮原は、OB／OG、そして現役在校生に向け、こんなメッセージを語った。

「僕にできることがあればやります。だから、何かあればお声がけいただければと思いますし、周りの人にもこの繋がりを大切にしようと伝えていきたいと思います」

宮原曰く、その時には出演費などギャラは必要ないという。だからぜひ、安心してコンタクトしてみていただきたい。



Profile
宮原奨伍

1980年東京生まれ。明治中学・高校時代はバスケットボール部で主将を務める。大学でも体育会バスケットボール部で活躍したが、在学中に演劇の世界へ。テレビや映画、そして舞台と幅広く活躍する。2026年2月には、『つかこうへいを知る旅』を自身でプロデュース。その終着地として東京・紀伊國屋ホールで「熱海殺人事件」、「売春捜査官」を上演した。

神田の歓楽街にあるマッサージ店の看板に、ニッコリと笑うひとりの男の写真が掲げられている。彼は林泰之。明治高校卒業生である。ロックバンドの一員としてデビューした彼が、なぜマッサージ店に？

林は明治高校Ⅰ年生の時に同級生とバンドを始めた。卒業後はその活動が本格化し、日々の生活は音楽中心に流れていった。

「大学在学中は、秋葉原の練習スタジオでずっとアルバイトしていたな」

高校時代ボーカルだった林は、後にベースボーカルに転向。しかもウッドベースを操っていたらしい。

「ウッドベースでバンドやってる人がいるって聞いて、これは面白いと思ったんだ」

「最初は普通のベースを弾いて歌っていたけど、ウッドベースなら日本一になれるかもしれないと思った。競技人口は少ないし、俺以外は歳上ばかり。だから俺はウッドベースに乗り換えた」

明高時代から組んでいたバンドを辞めた後の林は、ウッドベースを抱えて様々なバンドを渡り歩いた。そしてROBINというバンドの一員となり、メジャーデビューした。

「音楽が好きなのかと言われると疑わしいけど、ライブをやること、人前に立つことが楽しかったんだよね」

「当時は日本中をツアーで回り、ライブはどこも満員になった。ファンの皆が盛り上がってくれるのが、快感だった。サイン書いたり、スポンサーもついたりして、ちょっと勘違いしていたかもしれない」

バンドはやり切った！

しかしなぜか全く収入がなかったという。

「ある時気づいた。まったく金がないって」

そのことが彼にとっての転機になり、アルバイトとしてマッサージ師の仕事を始めた。しかしツアーのために休むことも多く、収入は安定しなかった。ただそれでも、マッサージ師の仕事を続けた。

「28歳の時、ある会社の社長から『マッサージ店をやるから店長やらないか』と声をかけてもらったんだ」

それが冒頭でご紹介した神田のマッサージ店『リラリラ』だ。店は軌道に乗り、林は2011年にこの店の社長に。ROBINの活動は、社長になったのを機に辞めた。

しかし、バンドを辞めることに後悔はなかったのだろうか？

「ひとつもなかった。バンドはもうやり切ったし、これ以上ないなと思ったね。しかも社長になった時に、本気出してやらなきゃダメだなと思った。だからキッパリとバンドを辞められた」

マッサージに専念した林は、その世界でも存在感を増していった。そして2022年に行われたタイ古式マッサージ世界大会の日本予選で優勝してしまうのだった。

「やってて楽しかった。ここでもお客さんの反応が良かったら、やっぱり楽しい。どんどんうまくなれば、お客さんの反応も良くなって……だから今でも続いてるのかな」

そして予選とはいえ、日本一になったことは重要だったという。

「18年間マッサージやっても、日の目を浴びなかった。店の社長もやったけど、一般的に認められることなんてなかった。でも大会で勝った。その時初めて、やって良かったなと思った」

今の夢。そしてバンド再始動

彼にとっての今の夢は、マッサージ業界を底上げすることだという。

「俺は今、日本におけるタイマッサージのシーンを作り上げていく立場にいるから、マッサージ師の稼ぎを全体的に上げていきたい。この問題はずっと抱えてる問題だから、構造的に考えなきゃいけない。それが俺の今のミッションだし、夢でもある」

「時間をかければ絶対にできる。でも早くやらなきゃいけない。それが自分の仕事であり、夢だね」

そんな中、今年ROBINが再結成。林は音楽の〝舞台〟にも戻った。ROBINの他のメンバーは、林よりも13ほど年上である。

「彼らのおかげで俺もメジャーまで行けたからさ、機も熟したし……やろうかなと思ったんだ」

「あと今回は来日するオーストラリアのバンドの前座なんだ。そのバンドって俺好きなバンドだから……それもあるかな（笑）」

ギターやベースを弾いたことがおありの方ならお分かりいただけると思うが、久々に弾くと指が痛い。声だって以前のようには出ない。

「しばらく全然弾いてなくて、半年かけてリハビリした。弾いて、指先にマメも作ったよ。でも結構できるようになるもんだ。指が結構覚えてる。歌うのも体力的にキツかったけど、もう大丈夫！」

ただROBIN復活はあくまで期間限定。林は「今後ずっとやっていくことはない」と断言する。しかしあの興奮を再び味わっちゃった今、やっぱりバンドを離れられなくなっちゃうなんてことはないかな？

バンドマンとして尖った日々を送った後、マッサージ師に転身。そして再びバンドを始動……彼の原動力は〝お客さんの反応〟だった。

人が喜んでくれるのが大好きだ

| 特集 | 卒業生の特殊なお仕事 | その2 |

林 泰之

Yasuyuki Hayashi

（マッサージ師／バンドマン
1999年卒）





Profile
林泰之

1980年東京生まれ。明治中学・高校時代はバスケットボール部に所属していたが、高校Ⅰ年生の時に退部して同級生とバンドを結成。卒業後はバンドの活動が本格化し、〝ROBIN〟のメンバーとしてメジャーデビュー。しかしその後マッサージ師に転身し、現在は『リラリラ』を運営。2022年にはタイ古式マッサージ世界大会日本予選で優勝した。

家族や友人とできる！
簡単チェンマイ式タイマッサージ

本稿をお読みの方の多くは、デスクワークが多いのではないか？　デスクワークは、脚がむくむ。歳を重ねるほど、その辛さは増す……タイマッサージ日本チャンピオンの林が、自宅でできる疲労回復法を伝授！



3 挟んで、自身の頭の位置を上げて圧の強度を高める（注意点：相手の膝関節は挟まないように）

2 ふくらはぎと相手のふくらはぎを90°で交差させる。挟む時、自分はリラックスして肩の力を抜くと圧は強くなる

1 相手の脚を持ち上げてから正座して、相手のふくらはぎを挟む



6 注意点：相手が高血圧の場合、動脈の血流を制限するのは禁止。太ももを挟むのは５秒程度に

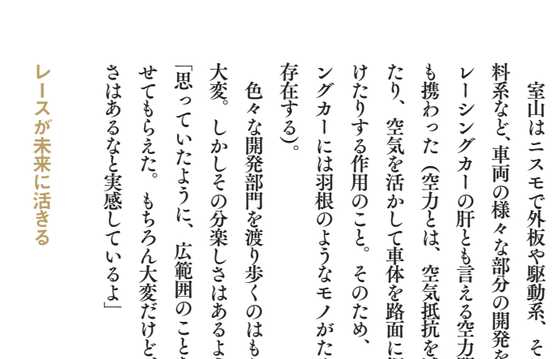
5 片方の脚で、相手の太ももを挟む。太ももと相手の太ももを90°で交差させる

4 圧を強くしたい場合は背筋を伸ばす。圧を弱くしたい場合は頭を下げる

室山裕雄

Hiroo Muroyama

（レーシングカーエンジニア・1999年卒）



Profile

室山裕雄

1980年東京生まれ。1999年明治高校卒業。大学、大学院、モータースポーツ系専門学校を経て、ニッサン・モータースポーツ・インターナショナル（ニスモ）に入社し、同社が手がける様々な車両の開発を担った。2011年には自身が空力開発を担当した日産・GT-RがFIA GT1世界選手権でチャンピオンに輝いた。ニスモはその後他の日産子会社と合併し、日産モータースポーツ＆カスタマイズと社名変更。現在室山は、パワートレイン開発部で、スーパーGTマシンなどのエンジン開発を担当している。

好きなことを追求したら辿り着いた、レーシングカー開発の道

自動車レース〝スーパーGT〟を走る

NissanZ NISMO GT500の開発に携わる、明大明治卒業生がいる

彼は明治高校時代から自動車やラジコンが大好き。

それが転じて、日本最高峰レースを走るマシン開発を担うようになった

F1をはじめとして、世界には様々な自動車レースがある。そんな中でも日本は特別。トップレベルのシリーズがふたつもあるのだ。そんな国は他にほとんどない。

そのうちスーパーGTは、市販車の〝ような〟形のレーシングカーが走るレース。2クラスに分かれ、その上位クラスであるGT500で日産はZを走らせている。その日産Zの開発に携わるのが、明治高校1999年卒業生である室山裕雄だ。

「今はGT500のZのエンジン開発をやっています」

室山は明治大学の理工学部・機械工学科に進学し、大学院に進んだ。しかし、そのまま就職するのはつまらないと思った。

「大学院を一旦休学して、モータースポーツ専門の学校に行った。それでニスモに就職することができたので、大学院を中退することにしたんだ」

室山は明中高時代から、自動車やラジコンが大好き。ラジコンでは大会などに出るほどの腕前だったという。当時はそんなこと、匂わせすらしなかったが……。

クルマ〝全体〟を作りたい

ちなみにニスモというのは、日産自動車傘下のモータースポーツ専門会社。今では日産モータースポーツ&カスタマイズという社名になっている。室山がそんなニスモを目指したのには、理由があった。

「特にレースが好きだったわけじゃない」

室山はそう白状する。

「市販車開発ってすごく細分化され、ブレーキ配管だけとか、ステアリングだけとか、そういうスペシャリストになる方向。でも僕はクルマ全体を知りたいと思った。レース車両なら、『このクルマは自分が設計したんだ！』と思えるんじゃないかと思って、それがとても魅力的に映ったんだよね」

室山はニスモで外板や駆動系、そして燃料系など、車両の様々な部分の開発を担当。レーシングカーの肝とも言える空力開発にも携わった（空力とは、空気抵抗を減らしたり、空気を活かして車体を路面に押し付けたりする作用のこと。そのため、レーシングカーには羽根のようなモノがたくさん存在する）。

色々な開発部門を渡り歩くのはもちろん大変。しかしその分楽しさはあるようだ。

「思っていたように、広範囲のことをやらせてもらえた。もちろん大変だけど、楽しさはあるなと実感しているよ」

レースが未来に活きる

自動車レースは〝走る実験室〟と言われることもある。もちろん、日産の名を冠する速く強いレーシングカーを開発してPRに役立てるという任務もあるが、膨大な数の基礎研究を試す場としてレースが活用されている側面もあるようだ。室山は言う。

「日産という会社は、基礎的な技術開発をたくさんしている。その技術を使わせてもらうということは結構あるんだ」

「例えば材料。何か作りたい時に問い合わせると、『こういう材料を使うといい』と教えてくれたりする。素材としては絶対に良いけど、市販車で使うには高価すぎるというモノも、実はたくさんある。でもレースでなら使えるし、レースで使ったり実験した結果をフィードバックしている」

レースで使った技術、素材をそのまま市販車に使うということはないかもしれない。しかしレースで試したモノが、街を走る自動車に、何らかの形で回り回って活きているのは間違いない。そういう意味でも、レースは自動車開発には欠かせないのだ。

ただそれと同時に〝勝つ〟ことが求められるという特殊なお仕事でもある。評価軸は〝売り上げ額〟だけではない。

「自分が携わったクルマが勝つ嬉しさはかなりある。もちろんチームやドライバーの力もあるから、全てが我々開発陣の力じゃないけど……結果を出せるのは楽しい。もちろん負けたら悔しいけどね」

好きなことをやる

室山は本稿を読む明大明治現役生、そしてOB／OGのみなさんにも、好きなことを探して、それをやってほしいと語った。

「偉そうなことを言える立場じゃないけど、好きなことを探し、好きなことをやってほしいなと思います」

「僕の場合は両親に家業を継げとも言われず、好きに何でもしろと言ってもらえた。そして本当に自由に好きなことだけをやってきた。とても恵まれてきたと思う」

「こんなことを言っていいのか分からないけど、本心としては、みなさんに好きなことをやってほしいし、親御さんたちには、お子さんたちに好きなことをやらせてあげてほしいと思います」

そんな室山には夢がある。それは自分が設計したクルマを自分で製造し、そしてそれに乗って街中を走ることだ。

「自分のクルマを設計したいんだ」

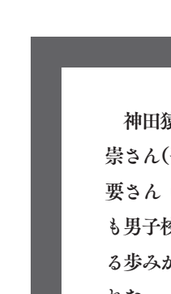
「個人が設計したクルマでも、一般道を走れたりする。そういう小さいクルマを作って、動かせたら楽しいな」

「今は仕事を頑張らなきゃいけないし、子供もまだ小さい。そういうのを卒業した後かもしれないけど……始めないとね！」

そしてもちろん、直近の目標はスーパーGTの今年のチャンピオン獲得だ。

「今年もトムス（トヨタ系のチーム）が強いけど、なんとか挽回したいと思って色々やっています。やってるからには、勝ちたいですよね！」

繋がる明治魂・親子インタビュー①



ユニフォームがつないだ親子の明治

野球がきっかけとなり、
親子揃って明大明治に通うことになった上野親子
本校の素晴らしさは、
自分らしく成長できることだった。

神田猿楽町の男子校時代に明治高校で学んだ父・上野崇さん(平成3年卒)と、現在硬式野球部に所属する長男・要さん（高校Ⅰ年生)。校舎は猿楽町から調布へ、学校も男子校から共学校へと姿を変えたが、親子二代にわたる歩みからは、今も変わらない「明治らしさ」が感じられた。

崇さんが要さんを明大明治に通わせたいと考えたきっかけは、野球だった。要さんは小二から野球に打ち込んでいた。しかし、当時住んでいた地域では、市内の中学校に野球部が無く、野球を続けるには、離れた場所のクラブチームに通わなければならず、環境が限られていた。「このままでは、好きな野球を続けることが難しいかもしれない」

そう考えた崇さんは、小三の終わり頃、要さんに「中学、高校、大学と十年間野球を続けられる学校がある」と話した。親子で神宮球場へ足を運び、明治大学のユニフォームを着てプレーする選手たちを見ながら、「あのお兄さんたちと同じユニフォームが着られるんだよ」と語りかけた。その積み重ねが、要さんにとって明大明治を目指す原点となった。

現在、要さんは高校硬式野球部で練習に励んでいる。中学の時には文化祭展示委員を務め、3年生の時に展示賞を獲得した。「みんなで協力して一つのものを作る楽しさを知りました」と振り返る。その経験を通して、部活以外にも仲間とのつながりが広がり、自分から挑戦することへの自信もついたという。

崇さん自身も書道部に所属し、文化祭や仲間との活動を通して充実した高校生活を送った。高Ⅰの入部時は1学年上の先輩数名と自分だけという部員の少ない書道部だったが、仲間を誘いながら活動を続け、卒業時には十人ほどの部になったという。

進路に迷った際に、松田孝志先生から「大学へ行ってゼミの資料を自分で見てごらん」と助言を受け、自ら考え、法学部への進学を決意。「自分で選ぶきっかけを与えてくれた先生でした」と、その言葉は今も心に残っている。

「明高生は、やる時はやる。息子達を見ていても、そこは昔も今も変わらない」と崇さんは語る。文化祭や体育祭で発揮される一体感や、仲間を受け入れる校風は、時代が変わっても受け継がれる明大明治の魅力だという。

要さんもまた、「父はとにかく明治愛が強い」と笑う。神宮で見た紫紺のユニフォームへの憧れは、やがて明治中学への挑戦となり、今は仲間と汗を流す日々へと繋がっている。

父から息子へ受け継がれたのは、仲間と出会い、自分らしく成長していく青春そのものだった。



長男・上野要さん（高校Ⅰ年生）
父・上野崇さん（平成3年卒）



第62回『総明会』総会・懇親会のご案内

令和8年11月22日(日) 明治大学付属明治高等学校・明治中学校 調布校舎

「つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地」

「継承から創造へ」

調布移転・共学化から18年。総明会は大きな転換点に立っています。先輩方が築いた歴史を単に守るだけでなく、次世代の若手卒業生や現役生徒たちへ、より輝く形でバトンを渡していくことが私たちの使命だと考えています。
当日は多くの総明会員にご参加いただけるよう様々なイベントを企画いたしました。大人の文化祭にお集まりください！

	鵜澤總明ホール	食　堂	多目的教室	調布校舎周辺	書道教室
12:30	12:30 植村直己冒険賞受賞記念 『Mission100』ダイジェスト上映会 小坂 薫平氏(平成26年卒) 14:00 (1時間半程度)				
13:00				13:00 『ゆい散歩』 由井 将雄元教諭 (2時間 / 雨天決行) お申込フォームはこちら→ 15:00	
14:00	14:25 総　会 (40分程度) 15:05		14:00 就 活 会 15:15		14:00 『書道部卒業生揮毫会』 松井 萌々子教諭(平成28年卒) 15:15
15:00		15:25 懇 親 会 ・DJ FUNA-COSTA(平成11年卒) ・高野 猶幸(平成11年卒)「音楽家と生成AIの現在地」 17:10			
16:00					
17:00	17:35 幹事学年引継式 (45分程度) 18:20				

[調布校舎] 〒182-0033 東京都調布市富士見町4-23-25

場所及び当日バスダイヤの詳細は巻末の総会・懇親会ご案内ページをご参照下さい。
当日は京王線飛田給駅よりシャトルバスをご用意しております。飛田給駅よりおよそ15分以内での到着となり、快適なアクセスをお約束いたします。



小坂 薫平
平成26年卒
2027年公開予定の映画制作のために、Mission100ダイジェスト上映会を全国行脚中。今回は母校のために参加費無料で行います。詳細は7ページをご覧ください。

由井 将雄元教諭
令和8年退任　社会科教諭
調布校舎移転後に社会科の授業で導入された巡検。今回は由井元教諭のご厚意により、総明会員向けに開催。25名先着順。詳細は42ページをご覧ください。

松井 萌々子教諭
平成28年卒
書道部顧問松井教諭と書道部卒業生による揮毫会。皆様の希望の文字を、書道部卒業生が豆色紙にお書きします。

内田 有香
平成29年卒
懇親会の司会を務めますのは、khbアナウンサーの内田さんです。

高野 猶幸
平成11年卒
クラリネット＆サックス奏者。AI革命は音楽の世界にも！AIは楽器の一つたり得るのか。明哲会高野の演奏をお楽しみください。

舩越 大介
平成11年卒
明哲会内唯一の税理士とDJの二足の草鞋。懇親会のBGMを担当します。選曲にもご注目下さい。

第六十二回総会　式次第

一、開会の辞
二、会長挨拶
三、議長選出
四、書記選出
五、議事
・会務報告
・会計報告
・監査報告
・その他
六、閉会の辞

		当日払い	事前納付
一般会員	（昭和60年から平成26年までのご卒業）	12,000円 >	11,000円
シニア会員	（昭和59年以前のご卒業）	10,000円 >	9,000円
ヤング会員	（平成27年から令和4年までご卒業の社会人）	8,000円 >	3,000円
学生会員	（大学生・大学院生）	0円 >	0円
ご同伴者	（上記会員が同伴する会員以外の方）	7,000円 >	6,000円

今年度も懇親会会費は事前納付がお得になります。11月6日(金)までに納付をお願いいたします。

三井住友銀行(0009)
ときわ台支店(672)
7288619　メイテツカイ

例：昭和年代卒業の方：62メイジタロウ
平成年代卒業の方：ヘイ11メイジジロウ
令和年代卒業の方：レイ1メイジハナコ

総会・懇親会参加のお申し込みは下のフォームからお申し込みいただくか、または巻末のハガキを切り離して投函してください。

就職の近道は「総明会就活会」
詳細は99ページをご覧ください

総会・懇親会のお申し込みはこちらから
詳細は100ページをご覧ください

全ては誰か、何かのために
―ギガファイル便を立ち上げた想い―

大容量ファイルを送受信する時に欠かせないサービス、ギガファイル便
実はこのサービスを立ち上げたのは、明治高校卒業生、水野勇である
図らずも……なのかもしれないが、彼は常に
〝誰か、何かが喜ぶため〟ということを考えている

｜特集｜
卒業生の特殊なお仕事｜その4｜

水野 勇
Isamu Mizuno

（ギガファイル便創設者・1989年卒）

ギガファイル便。実にありがたい響きだ。

現代社会を生き、インターネットを使う方であれば、知らない方の方が少ないだろうこのサービスを世に送り出したのは、明治高校の1989年卒業生、水野勇である。

インターネット経由で誰かとやり取りすると、ファイルを送受信する必要性が生じる。大容量のファイルを送りたい時に我々を助けてくれるのが、このギガファイル便。今やビジネスには欠かせぬ存在だ。

「こういうサービスがあったら、もっと世の中楽しくなるじゃんと思ったんですよ」

水野はギガファイル便を立ち上げた意図についてそう語った。

「大容量ファイルを高速で送れるサービスがあれば、人生の貴重な時間を奪われず、自分の時間を楽しめるじゃないですか！」

しかし大容量ファイルを扱うとなると、大容量の回線とサーバーが必要だ。巨額のコストもかかるはず。しかし使用料は無料……一体どうやって〝儲ける〟のか？

「インターネットならば、役務を受ける人がお金を払わなくて済むサービスにできるんじゃないかと思ったんです。その本質を掴めたら、その後のビジネスにもすごく発展性があると思い、挑戦してみました」

「1日100万人、1年間で1億人以上の来訪があります。すると、ウチのサイトに広告を出したいという要望が集まります。そういう状態にするのが目的でしたが、今実際そういう状態になっています」

水野はさらに、こんなことも語ってくれた。「どう儲けるのか？」という質問は、甚だしく愚問であった。

「得られた収益を、できるだけユーザーに還元するというところをモットーにやっています。末長くやるんだったら、おまんまだけ食えりゃいいんです」

色んなところに明高生がいる！

水野は高校から明治に入学したため、明治中学出身者の中に溶け込むべく、様々な部活に挑んだ。そしてその姿勢が、実に貴重な財産に繋がった。友である。

「ギガファイル便を始める前からシステム開発の会社をやっているんだけど、ご発注いただいているお客さんの6～8割は、明治高校が起因となっています」

「明治高校の卒業生は、社会の中枢にかなり入っている。何かをやろうと思ったら、必ずそこに明治高校の出身者がいて、手助けが必要ならば『俺がやるよ』と手を挙げてくれる。友達というのが、明治高校に行ったことのかけがえのない財産だよね」

ペットフード業界に革命を

そんな水野は近年、ペットフードのブランドFOUR-FOODSも運営しているという。ギガファイル便とペットフード……どうも繋がらない。

「以前、野良猫を保護したんです。その猫を獣医さんのところに連れていったら、猫エイズだと診断され、長くても5～6年程度しか生きられないだろうと言われました」

「エイズに打ち勝つには、自分の免疫力でなんとかするしかない。だからタンパク質中心の、身体に良いキャットフードがないかなと思って探しました。あるにはあったんですが、高い。それをなんとかしたいと思い、キャットフード事業を始めました」

水野はその猫に、身体に良い餌を与え続けた。その結果、17年も生きた。健常な猫でも、17年というのは長寿である。

「猫って完全に肉食なんですよ。なのに市販されているキャットフードには炭水化物がいっぱい入っていて、それを食べ続けると、10歳を超える頃にはほぼ糖尿病になってしまうんですよね」

「僕はペットフードのリーディングカンパニーを目指しているわけじゃなくて、この業界に一石投じたいと思ったんです。猫のことを考えた時、どんなキャットフードを与えればいいか……その意識を変えていかなければいけない。売るのと一緒に教えて、それが伝播するようにしていかなきゃいけない。大変ですが、地道にやっていればなんとかなるだろうと思っています」

ギガファイル便を立ち上げた意図、そしてキャットフードのビジネスを始めた意図、それには共通点があるように思う。自分が儲けるためじゃなく、誰かのため、猫のため……それが水野勇という男なのだろう。

そんな水野の今の夢は、頑張っている姿を若い人たちに見せることだという。

「最近は日本のGDPが下がったと言われています。人口が減ったからとか、国のせいだとか言われますが、ひとりひとりが頑張って、それが集まって大きなうねりとなれば、国とか世の中の力になると思います」

「じゃあどうすればいいんだとなった時、小さいながらも頑張っているやつがいる……そういう見本になれたらいいなと思って、年齢関係なく頑張っています」

在学中の生徒、そして若い後輩に、こんなメッセージを送ってくれた。

「学生時代、そして若い頃には、とにかく友達を作った方がいい。幅広く友達を作ることは、学業を修めること以上に大事なんじゃないかと思いますよ」



Profile
水野 勇

東京・港区出身。高校から明大明治に入学。数学や化学、物理に興味があったものの、「生田は遠い」という理由で明治大学法学部に進学した。中学時代からパソコン（当時はマイコンと呼ばれていた）に精通していたため、大学卒業後はシステムエンジニアに。2004年に株式会社ギガファイルを立ち上げ、システム開発を受託する傍ら、『ギガファイル便』を開設。今やネット上でなくてはならないサービスとなった。2018年には株式会社FOURを設立し、ペットフード事業も手掛ける。





日下部尚徳

Naonori Kusakabe

（立教大学准教授・1999年卒）

世界は、もっと自由だった。
―猿楽町の教室から、南アジアの最前線へ―

バングラデシュとロヒンギャ問題の日本における第一人者、日下部。
そんな彼は明大明治時代、ひとりのブラバン少年だった。
そんな彼が、なぜ南アジアに興味を持ったのか？

「この国には、二度と戻ってこないと思ったんですよ」

初めて訪れたバングラデシュ。空港にはスーツケースが無造作に積み上げられ、街には圧倒的な熱気と喧騒、そして貧困の現実があった。舗装されていない道、路上で暮らす子どもたちの姿、たびたび起こる停電。慣れない辛い食事に、体調も崩した。「ここで働くのは無理だと思いました」

そう振り返るのは、立教大学異文化コミュニケーション学部准教授・日下部尚徳。現在は南アジア研究の第一人者として、ロヒンギャ難民問題や国際協力の最前線に立っている。

しかし、そんな日下部も、最初から世界を目指していたわけではない。原点は明治高校時代。当時の日下部は、吹奏楽に熱中する一人の少年だった。

「ブラバンしかやってなかったですね」

当時、日下部の母親は福祉施設の施設長を務めていた。その話を聞いた吹奏楽班顧問の鈴木正人先生が、「その施設で演奏させてほしい」と提案。以後、吹奏楽班で慰問演奏を行うようになった。

「うちらは音楽を楽しんで、生き生きしている。でも、それって当たり前じゃないんだなって思ったんです」

海外への憧れ

中学三年の頃には、海外への関心が強くなっていた。きっかけの一つは、テレビ番組で見た杉原千畝だった。

「こういう仕事がしたいと思ったんです」

そんな話を現副校長の北村純先生との進路相談でしていた時、初めて「国際公務員」という言葉を知った。

「国連職員みたいな仕事があるんじゃないか、って言われたんです」

その後、高校時代に津田塾大学で開かれていた「国連職員になるには」という講座に参加した。そこで国連職員から告げられたのが、「国連職員になりたいなら、まず途上国へ行け」という言葉だった。そして高校Ⅲ年時には、文化祭でフェアトレード商品の販売も企画した。途上国の人びとの暮らしや労働のあり方に、身近な買い物を通じて目を向けてもらう試みで、現在も松本麻奈美先生の指導のもと続いている。「明高って、有志でやりたいことをやらせてくれる空気があったんですよね」

だが、最初のバングラデシュ訪問は、想像をはるかに超えるものだった。暑さ、匂い、停電、食事、生活環境。日本で当たり前だと思っていたことが、そこではまったく通用しなかった。

「ここで働くのは無理だと思いました」

それでも日下部は、南アジアへ足を運び続けた。そして、あることに気づく。

「日本で『こうあるべき』と思っていたことが、向こうでは全然通用しないんです」

自由でいいんだ！

だが、それは苦しさだけではなかった。

「逆に、こんな自由でいいんだと思ったんですよ」

その感覚が、日下部の人生を大きく変えていく。大学院修了後、一度は日本赤十字社に就職した。しかし、そこで気づいたという。「僕はオフィスにいるより、現場を歩きたいんだって」

その後研究者の道へ進み、バングラデシュや難民・児童労働問題の研究を続けてきた。2026年2月には、バングラデシュ総選挙の選挙監視団に外務省職員以外では唯一選出された。

「民主化の大事な局面でした。みんな選挙のやり方を手探りで探っている感じだったんです」

研究室にとどまるのではなく、現地の〝今〟に関わり続ける。そこに、日下部の研究者としての姿勢がある。

そんな日下部に、今の夢を尋ねた。

「日本社会の中で息苦しさを感じている若い人に、もっと外の世界を見てほしい」

かつての自分も、日本社会の「こうあるべき」という空気の中で、どこか息苦しさを感じていたという。だが南アジアに出たことで、その価値観は大きく揺さぶられた。

「日本で当たり前だと思っていたことが、向こうでは全然通用しない。でも、それが逆に自由だったんです」

スポーツは言葉を超える

インタビューでは、総明会のポロシャツをバングラデシュの野球ナショナルチームへ寄付する企画についても話が及んだ。現在、バングラデシュ代表監督を務めるのは、ストリートチルドレン支援NPO「エクマットラJAPAN」代表の渡辺大樹氏だ。

「スポーツって、言葉を超えるんですよね。一緒に野球をやるだけで、距離が一気に縮まるんです。ぜひ明高野球部にもバングラデシュに来てほしい」

猿楽町の教室から始まった、一人のブラバン少年の物語。その歩みは、いつか国境を越え、南アジアの最前線へと繋がっていった。だからこそ、今の若い世代にも外の世界へ出てほしいと日下部は願っている。

まだ見たことのない世界へ。自分を縛っていた常識が、ふっと軽くなる場所へ。その先には、きっと今まで知らなかった自由がある。





Profile
日下部尚徳

明治高校在学時代からバングラデシュに興味を持ち、ボランティア活動を開始。高校卒業後は上智大学に進学し、大学院は大阪大学へ。その後様々な大学で教鞭をとり、今は立教大学異文化コミュニケーション学部で准教授を務める。南アジア研究を専門としており、ロヒンギャ難民問題や国際協力の最前線に立つ。



日下部の著書「自分ゴトとして考える難民問題　SDGs時代の向き合い方」が岩波ジュニア新書から発売中。1089円(税込)

姉妹校訪問記

明治高校は、台湾の左營高校と学術交流協定を締結している
その一環として今年の3月、9名の生徒が台湾に赴いた
そこには、現地に行かねば得られない、貴重な学びがあったはずだ

執筆：宮下 崇（明治高校教諭 ―1999年卒）

2024年9月、明治高校は台湾の高雄市立左營高級中学校（日本の高等学校に相当。以下「左營高校」）と学術交流協定を締結し、姉妹校となった。対面での相互訪問を通じて両校生徒の国際的視野を広げ、教員・生徒間の交流を促進することを目的に、隔年で相互訪問を行うこととなった。

2025年9月には左營高校の先生方と生徒が来日。明治高校での学校体験やホームステイを経験した。2026年は明治高校が訪台する番となり、3月11日から16日まで5泊6日の日程で、生徒9名（男子3名・女子6名）が台湾を訪れた。筆者は日台双方に背景を持つことから、2025年度よりこの相互訪問事業に関わっている。

本プログラムは、明治高校に数ある語学研修とは異なり、双方にとって第一言語ではない英語を用いて交流する点が特色。今回は明治高校として初めての訪問であり、国際連携主任の村松教諭と共に引率した。

現地を訪れたからこそ得られた学び

交流プログラムは、ホスト校である左營高校が企画・準備してくださったもので、非常に充実した内容であった。初日は羽田空港から台北松山空港へ向かい、台北から高速鉄道で南部の高雄市へ移動。教職員主催の歓迎夕食会に参加した。2日目は左營高校を訪れ、午前中に授業を体験し、午後は左營高校の生徒の案内で名勝地を見学した。3日目はスクールバディとともに専門の英語ガイドによる市内スタディツアーに参加し、午後はバディたちと市内を散策した。夕方には公共交通機関で学校へ戻り、ホストファミリーと合流してホームステイ。4日目は成果発表の準備を行った後、両校生徒による発表とホストファミリーも参加する歓送会が開かれた。5日目はホストファミリーと過ごし、6日目に台北へ移動して市内を散策し、帰国の途についた。

このプログラムには、生徒にとって大きく二つの学びがあった。

一つ目は、日本では学ぶ機会の少ない台湾の歴史に触れられたことである。日台関係は、日本と諸外国との関係の中でも特別なものだと言える。戦後の台湾社会が経験した国民党による接収と独裁、そして現代に至る民主化の歩みには、日本による約半世紀の植民地統治が深く関わっている。しかし、日本の教科書では「かつて日本だった土地」である台湾について多くのページが割かれておらず、深く学ぶ機会は限られている。日本統治時代を自国の歴史の一部として学ぶ台湾の教育とは対照的である。

スタディツアーでは、専門ガイドが聞き取りやすい英語で、日本統治時代に高雄市のインフラや経済の基礎が築かれたこと、民主主義がいかに重要であるかを熱く語ってくださった。台湾社会が日本統治時代を客観的に自国史の一部として捉えていることを実感する、貴重な学びとなった。

二つ目は、人々との触れ合いを通して、文字どおり異文化理解を深められたことである。高雄到着後は、左營高校の校長先生をはじめ、多くの先生方から盛大な歓迎を受け、台湾らしい心温まるおもてなしに触れた。宿泊先でも、生徒たちが安心して過ごせるよう細やかな配慮をいただいた。

学校初日の歓迎式典では、スクールバディの生徒たちが一人ひとりを温かく迎えてくれた。明高生は英語や体育の授業に参加し、英語や中国語が飛び交う環境に戸惑いながらも、バディの助けを借りて積極的に交流を深めていった。昼食や休み時間も共に過ごし、短い時間の中で、自然な笑顔で会話を楽しむ姿が見られた。

スクールバディは校外活動にも同行し、ホストファミリーも生徒たちを家族同様に迎え入れてくださった。互いにとって第一言語ではない英語を使いながらも、生徒たちは相手を理解しようと言葉を尽くし、多くの友情を育むことができた。台湾の人々が大切にする「愛心（思いやり・善意）」に直接触れられたことは、教室では得られない貴重な学びであった。

「外国」ではなく「友人のいる場所」

私自身にとっても、母校である明治高校と、母の祖国・台湾との交流に携われたことは大きな喜びであった。明高生たちが台湾を単なる「外国」ではなく、「大切な友人がいる場所」として心に刻んでくれているならば、それこそがこの交流事業の最大の成果であると感じている。

今回の訪問では、左營高校が移動や食事、スタディツアーなど、多くの面で手厚く支援してくださった。2026年秋にはオンライン交流を再開し、2027年には明治高校が受け入れ校となる予定だ。今回いただいた温かな歓待に応えられるよう準備を進めるとともに、左營高校との交流が末永く続き、両校の新たな伝統となることを願っている。今後とも、総明会の皆様のご理解とご支援を賜れれば幸いである。







ご退任先生インタビュー

2026年（令和8年）退任 由井将雄先生インタビュー

「地図の向こうへ」 由井将雄先生が歩き続けた34年



由井将雄 先生（地理科）

歩き続けた先に答えがある。「現場に行かないと分からないことがあるんだよ」

34年間にわたり社会科教員として教壇に立ち、地理研究部の顧問として全国を歩き続けてきた由井将雄先生。その教育の原点には、常に現場があった。

由井先生の原点は、教師ではなく研究者だった。明治大学卒業後は東京大学地震研究所に進み、火山研究に取り組んでいた。学生時代から講師として教壇にも立ちながら、研究と教育を両立する日々を送っていたという。

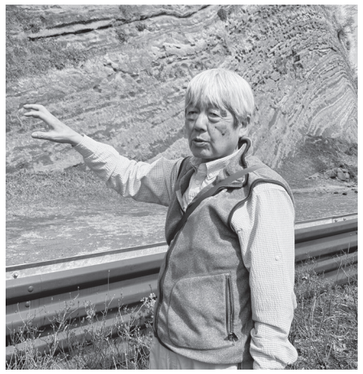
そんな由井先生の人生を大きく変えたのが、1991年の雲仙普賢岳の噴火だった。火山研究に携わる仲間を失った。「子どもも生まれていたし、このまま研究だけを続けるのはどうなんだろうと思った」研究者として生きる道を見つめ直し、本格的に教員の道を歩み始める。そして1992年、明治中学高校に着任した。以来34年間、社会科教員として生徒たちと向き合い続けた。しかし、由井先生の教育は教室の中だけでは終わらない。むしろ、その本領は教室の外にあった。



地理研究部。由井先生と聞いて、真っ先にその言葉を思い浮かべる卒業生も多いだろう。70年以上の歴史を持つ地理研究部は、全国各地を歩き、自分の目で見て、自分の足で確かめることを大切にしてきた。

北海道から沖縄、離島、被災地へ。時には東海道をひたすら歩く。地図の上では一本の線でも、実際に歩いてみると風景も人も歴史もまったく違う。特に印象的なのが、水俣や広島、石巻へのフィールドワークである。水俣病、公害、原爆、東日本大震災。教科書で学ぶことはできる。だが、実際にその場所へ立つことで初めて見えるものがある。「地理研に入部したら6年間のうちに一度は連れて行きたい場所があるんだ」

その言葉には、社会科教師としての強い信念が込められていた。由井先生は、『地理』を「歩く学問」だと考えていた。現場に立ち、その土地の空気を感じ、人々の暮らしに触れる。そうして初めて、本当の意味で『地理』が見えてくるという。



調布移転後も、その考えは変わらなかった。深大寺、神代植物公園、国立天文台、旧陸軍調布飛行場跡地。身近な場所にも、学ぶべき歴史や自然が数多く存在していた。「実は面白い場所がたくさんあるんだよ」

由井先生は生徒たちを教室の外へ連れ出し、この土地に刻まれた歴史や自然を一緒に歩きながら学んだ。だから地理研究部でも、行き先は生徒たち自身が決める。教師が与えるのではない。自分たちで考え、自分たちで選ぶ。そのプロセスを何より大切にしていた。

近年の生徒について尋ねると、「本当に優秀な子が増えた」と語った。そして続けて、「それぞれの時代に面白い生徒がいた」と笑う。地理研究部で全国を歩き、教室で地図を広げ、生徒たちと語り合う。その中で出会った一人ひとりの個性こそが、教師生活の財産だったのかもしれない。退任後の夢を尋ねると、由井先生は少し身を乗り出した。「環太平洋造山帯を一周しようと思っている」



南米から北米へ、アラスカから日本へ。火山研究者として歩み始めた原点を、もう一度たどる旅だ。その計画を語る表情は、34年間教壇に立ってきた教師というより、一人の探究者そのものだった。

火山を追った研究者時代、全国を歩き続けた地理研究部。調布の街を歩きながら行ったフィールドワーク。そのすべてが、「知りたい」という気持ちから始まっていた。

最後に、18歳の自分へ伝えたい言葉を尋ねた。由井先生は少しも迷わなかった。「勉強しろ」

即答だった。大学時代、もっと勉強しておけばよかったと思うことがあるという。だが、その言葉の奥にはもう一つのメッセージが込められているように感じた。学ぶことをやめるな。好奇心を失うな。世界を見に行け。由井先生自身が、そう生きてきたからだ。退任後も、その旅は終わらない。

次の目標は、環太平洋造山帯を巡ること。火山研究から始まり、教師として全国を歩き続けた由井先生が、最後に選んだ場所は、やはり地球そのものだった。

繋がる明治魂・親子インタビュー②

気づけば、いつも明治がそばにあった。

松浦さん親子は二世代にわたって明大明治で学んだ。
ただの２世代ではなく、
息子と娘が揃って明大明治に……
その魅力は”雰囲気”にあった。

かつて神田猿楽町にあった男子校としての明大明治、そして調布に移転し共学となった現在の明大明治……時代と共に姿を変えながらも、それぞれの時代の本校で学んできた松浦さん一家は、父・松浦毅（たけし）さん（平成３年卒）、兄・松浦史明さん（令和４年卒）、妹・松浦礼実（れみ）さん（高校Ⅲ年生）と、異なる環境の明大明治を経験している。それでも三人の言葉からは、変わらず受け継がれている校風が浮かび上がる。

毅さんが礼実さんを明大明治に通わせたいと考えた背景には、自身の経験と長男の在学を通じて得た実感がある。教育内容や設備の充実に加え、部活動や学校行事の活発さ。そうした環境を見てきたからこそ、「安心して任せられる」という思いがあったという。幼い頃から文化祭に足を運んできた礼実さんにとっても、明大明治は自然と身近な存在だった。

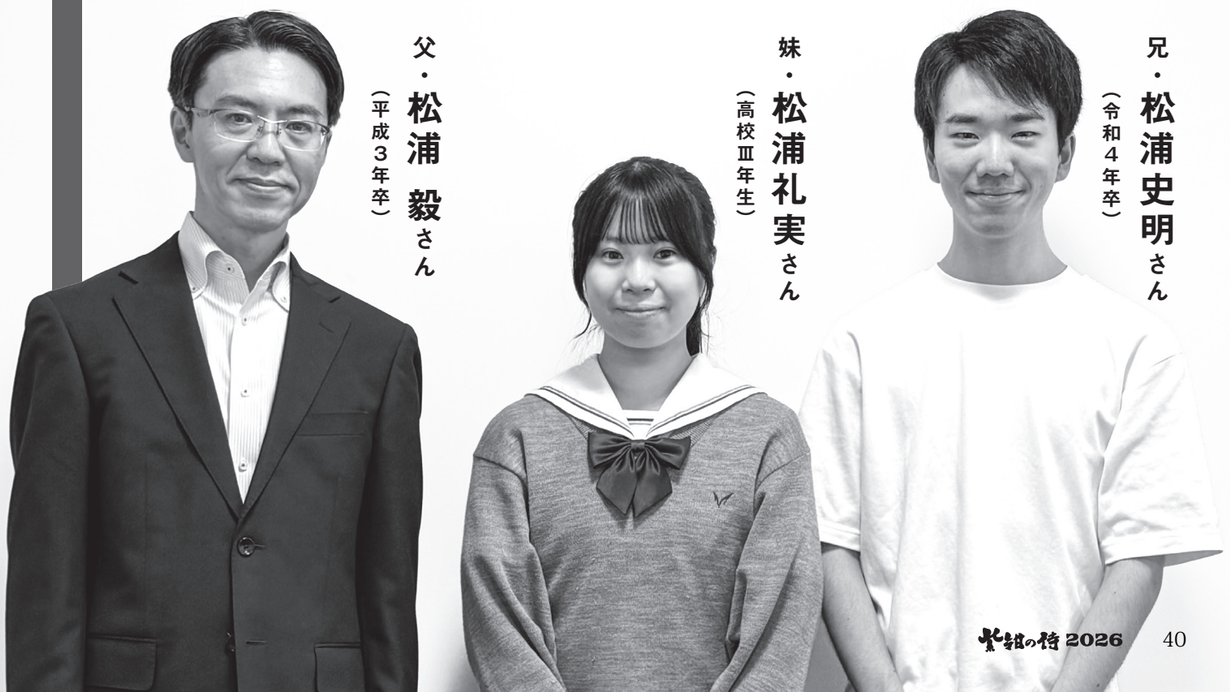
入学後、礼実さんは応援指導班と生徒会本部を兼務し、充実した学校生活を送っている。「高校受験がないからこそ、二つの活動を両立できた」という言葉は、本校ならではの環境を象徴するものだ。

兄の史明さんもまた、その環境の中で自らの可能性を広げてきた。中高時代は生徒会本部の活動を中心に、映像制作などに取り組み、各部のプロモーション動画を企画・制作。その経験は現在大学院で取り組むAI研究の基盤となっている。「6年間あったからこそ、興味のあることに深く向き合えた」と振り返る。

三人に共通するのは、明大明治の魅力を「雰囲気」として感じている点だ。毅さんはそれを「のびのびとした環境」と語り、史明さんは「変化を受け入れる柔軟さ」を挙げる。伝統を守りながらも、新しい挑戦が許される空気があるという。

礼実さんが「入ってよかった」と感じるのは、応援指導班として全校が一体となる瞬間だ。応援歌に合わせて声をそろえるとき、学校全体が一つになる感覚を実感する。

環境は変わっても、受け継がれるものがある。そして礼実さんは父、毅さんについて「とにかく明治への 愛校心が強い」と笑顔で語る。自身の在学に加え、二人の子を同じ学校に通わせ、PTA会長を二度務め、地理研究部のOBOG会にも関わり続けている。その歩み自体が、毅さんの明大明治への思いの強さを物語っていた。



兄・**松浦史明**さん（令和４年卒）

妹・**松浦礼実**さん（高校Ⅲ年生）

父・**松浦 毅**さん（平成３年卒）

き続けてきた由井先生は、これからも新しい土地を訪ね、学び続けていく。地図の向こうには、まだ見ぬ世界が広がっている。

SOUMEI MAGAZINE
No.002-2026

総明会特別企画『ゆい散歩』のご案内

母校が調布校舎に移転後、社会科の授業として巡検が始まりました。深大寺・旧陸軍施設跡地・地層を巡り歴史や地理を学びます。

今回由井先生のご好意により、総明会員の皆様に向けて巡検を開催することとなりました。

総明会当日13時に教職員来客入口より出発となります（雨天決行）。

先着25名様。会報誌32ページのQRコードからお申込みください。

尚、明哲会からの申込完了の返信メールが届きましたら申込成立となりますので、お間違いのないようご注意ください。





浦田敏則 先生（物理科）

2026年（令和8年）退任
浦田敏則先生インタビュー

「迷ったら、一歩前へ」
浦田敏則先生が生徒たちに伝え続けたこと

2026年3月。33年間にわたり明治中学高校で教鞭を執った浦田敏則先生が退任の日を迎えた。

物理教師として、スキー部顧問として、生徒会活動の支援者として。

そして、生徒たちの心に寄り添う教育者として、多くの卒業生の記憶に残る存在である。

浦田先生は長崎県島原市の出身だ。大学では物理学を学び、当初は研究者を目指していた。しかし、自身の進路を考える中で、研究の世界とは別の魅力に惹かれていく。

「人とのつながりが好きだったんです」漁師町で育ち、祭りや地域活動を通じて人と人が支え合う環境の中で育った。その原体験が、後の教師人生の土台になっていた。

大学卒業後は複数の学校で講師を務めながら、自分にとっての教育とは何かを模索した。そして1993年、縁あって明治に着任する。文化祭、生徒会活動、ホームルーム。「生徒と一緒に体を動かして何かを作るのが楽しかった」思い出を振り返る表情は、とても穏やかだった。

一方で、浦田先生の教師人生を語る上で欠かせないのが心理学との出会いである。学校現場で生徒たちと向き合う中で、経験や勘だけでは対応できない課題に直面した。そこで本格的に心理学を学び始める。

平日は授業を終えた後に研究所へ通い、週末はワークショップや勉強会に参加する生活を10年以上続けた。

その学びは、後に明治のカウンセリングルーム設立にもつながっていく。現在では学校にカウンセラーがいることは珍しくない。しかし当時はまだ先進的な取り組みだった。「困った時に相談できる場所を作りたかった」生徒だけでなく保護者も使える仕組みを整えたいという思いがあったという。

教育に対する考え方も年月とともに変化した。若い頃は高校生を教えることが中心だったが、やがて「もっと早い段階で種をまきたい」と考えるようになる。「高校になってからでは遅いこともあるんです」

中学時代に様々な刺激を受けることで、その後の人生の選択肢は大きく広がる。

中高一貫校だからこそできる六年間の教育。それが浦田先生の教育観の中心にあった。海外へ行った時の経験を語り、生徒たちに受験だけではない選択肢を示し続けた。「大変だけど海外は面白い。可能性を広げられる」

そうした話に刺激を受け、実際に海外へ飛び立った卒業生もいる。受験のためだけではない、自分の可能性を広げるための学び。浦田先生が伝えたかったのは、そうした世界だった。

また、近年の生徒たちについて尋ねると、こんな言葉が返ってきた。「今の生徒は本当に優秀なんです」

その一方で、少し寂しさも感じているという。昔はやんちゃな生徒も多かった。成績だけでは測れない個性やエネルギーがあった。「言われたことをきちんとやる子は多い。でも、自分から動く子をもっと育てたいんです」その思いは最後まで変わらなかった。

退任後について尋ねると、浦田先生は笑いながら夢を語った。日本各地を旅し、心理学の学びも続けていきたいという。そして、地域の活動にも関わってみたい。教師という仕事から離れても、学び続ける姿勢は変わらない。

最後に、「18歳の自分に声をかけるなら何と言いますか」と尋ねた。少し考えた後、浦田先生は穏やかに答えた。「そんなに苦しまなくていいよ」高校時代は苦しいことも多かった。浪人も経験し、進路に迷ったこともある。



だが、振り返れば必要以上に思い悩んでいた気がするという。そして、最後にこんな言葉を続けた。「迷ったら、一歩前へ」18歳の自分への言葉として語られたその一言は、浦田先生自身の歩みを振り返った時、最もよく当てはまる言葉なのかもしれない。

研究者を目指した学生時代。講師として様々な学校を経験した若き日々。心理学との出会い。カウンセリングルームの立ち上げ。そして、生徒たちの可能性を信じ続けた33年間。その歩みは、まさに「まず一歩踏み出してみる」の連続だった。

そしてそれは、生徒たちに受け継いでほしいと願い続けた明治の校風そのものでもある。

33年間、生徒たちの背中を押し続けてきた浦田敏則先生。その姿は、「迷ったら、一歩前へ」を体現した教師だった。

SOUMEI MAGAZINE
No.001-2026



白井英輝先生（英語科）

2026年（令和8年）退任
白井英輝先生インタビュー

「好きなものを持ち続けろ」
白井英輝先生が教えてくれた〝人生の楽しみ方〟

「先生、趣味が多彩ですね」そう言われることが、白井先生にはよくあったという。

演劇、映画、美術、コンサート、歌舞伎、文学。だが、本人は少し不思議そうな顔をする。「趣味は一つなんだよ」

映画も演劇も美術も、面白そうなことの延長線上にあるだけだという。

1988年から2026年まで、38年間にわたり明治中学高校で英語を教えてきた白井先生。その教師人生を振り返ると、一貫して流れているものがある。それは、「面白そうなことを追い続ける」という姿勢だった。

白井先生が明治に来たきっかけも少し変わっている。当時勤めていた学校で教えていたある日、当時明治高校で教鞭をとっていた川瀬孟俊先生から突然電話がかかってきた。「今の学校の授業を半分にして、残りを明治で教えてもらえませんか」その時、白井先生はお茶の水にある語学学校のアテネ・フランセでの映画上映会へ通うため、毎週明治の校舎の前を通っていた。

そしていつも思っていた。「ここで働いている先生たちは、この学校がどれだけいい場所にあるか分かっているんだろうか」電話を受けた瞬間、答えは決まっていた。「即決でした」

以来38年。白井先生は講師として教壇に立ち続けた。専任になる道もあったし、実際に採用試験を受けたこともあった。しかし振り返ると、講師という立場だったからこそ、自分らしい教師人生を送れたのかもしれないという。なぜなら、白井先生にとって教えることと同じくらい大切だったのが、「面白そうなこと」を追い続けることだったからだ。演劇との出会いも偶然だった。大学時代、毎日のように通っていた喫茶店の店長が劇団員だった。

「よかったら見に来ませんか」そう誘われて見たアングラ演劇に衝撃を受けた。そこから世界が広がった。一つの芝居を見れば、次の芝居のチラシをもらう。そこからまた新しい作品に出会う。気がつけば何十年も演劇を見続けていた。その好奇心は授業にも表れていた。

卒業生の多くが白井先生を思い出すとき、まず授業中の「雑談」を思い出す。だが、白井先生にとって雑談は単なる脱線ではない。ある生徒はこう書いたという。「白井先生には英語よりも、どう生きるかを教わりました」もちろん本人は苦笑する。「俺からそんなこと学んだら大変だよ」それでも、生徒たちは白井先生の話を楽しみにしていた。映画、演劇、文学、シェイクスピア、時には事件や人生の話。

授業参観で50分まるごと雑談してしまったこともある。教育実習初日も50分雑談した。それでも不思議と生徒たちは耳を傾けた。なぜなのか。インタビューの終盤、白井先生はその理由を語ってくれた。

「大事なのはね、この先生は自分たちに本気なんだって思わせることなんだよ」時にはゴジラの鳴き真似までしてみせる。人前で恥ずかしいことも平気でやる。そうすることで、生徒は感じる。この先生は本気だ、と。「そうすると、授業の内容はともかく、生徒は聞いてくれるようになるんだよね」その言葉に、38年間積み重ねてきた教師としての哲学が凝縮されていた。

では、白井先生にとって明治とはどんな学校だったのだろう。その答えは意外なほどシンプルだった。

「寛大」の一言だった。教師の自主性を尊重してくれる。好きなことをやらせてくれる。そして、生徒たちもまた寛大だという。その象徴的な出来事があった。ある日、大量の返却物を廊下で落としてしまった。

すると何も言わないうちに、生徒たちが駆け寄り、クラスごとに仕分けをしてくれた。「これがこの学校の一番すごいところなんだよ」成績や進学実績ではない。人として自然に動けること。

それこそが明治の良さだという。最後に、卒業生たちへのメッセージを尋ねた。白井先生は少し考えて、こう答えた。「一生かけても悔いがないくらい好きなものを見つけることだね」勉強も仕事も大切だ。

だが、いつか終わりが来る。その後、自分の人生を支えてくれるものは何か。それを見つけておいてほしいという。面白そうなことを追い続けた38年。演劇も映画も文学も、その根っこは同じだった。好きなものを持ち続けること。それが、白井先生が生徒たちに伝え続けた人生の楽しみ方だったのかもしれない。

SOUMEI MAGAZINE
No.003-2026





SCHOOL REPORT 2026

2026年度 学校報告

年間行事 予定・報告

【4月】
- ○入学式（6日）
- ○始業式（7日）
- ○新入生歓迎会（7日）
- ○オリエンテーション（8日･9日）
- ○健康診断（23日）
- ○六大学野球観戦（25日）
- ○第1回 避難訓練（28日）

【5月】
- ○生徒総会（11日）
- ○中間考査（19～22日）
- ○中3･修学旅行（奈良･京都方面）（26日～29日）
- ○高Ⅰ･林間学校（群馬県みなかみ方面）
- ○中1･林間学校（菅平方面）（高Ⅰ･中1:27日～29日）
- ○中2･移動教室（静岡･伊豆方面）（28日～29日）
- ○高Ⅱ･学年学級活動
  （羽田空港、浅草、駿河台方面）（29日）

【6月】
- ○教育実習･前期（1日～20日）
- ○授業参観（5･6日）
- ○高校スポーツ大会（9日）
- ○イングリッシュ･プレゼンテーション
  コンテスト（16日）
- ○オープンキャンパス（20日）

【7月】
- ○期末考査（4日～9日）
- ○終業式（18日）
- ○夏期補習（21日～27日）
- ○高大連携サマーセミナー（～8月）

【9月】
- ○始業式（1日）
- ○教育実習･後期（1日～19日）
- ○実力考査（中学:2日･3日）
- ○文化祭（紫紺祭26日･27日）

【10月】
- ○高Ⅰ特別進学指導講座（生田校舎･2日）
- ○第2回避難訓練（13日）
- ○中間考査（20日～23日）
- ○中学体育祭（29日）

【11月】
- ○高Ⅱ･修学旅行（沖縄方面）（8日～12日）
- ○高Ⅰ特別進学指導講座（駿河台校舎･10日）
- ○芸術祭（17日）
- ○総明会･総会･懇親会（22日）

【12月】
- ○期末考査（9日～14日）
- ○ヨーク大学3か月研修出発（19日）
- ○終業式（24日）

【1月】
- ○始業式（8日）
- ○高校推薦入試（22日）
- ○大学推薦面接試験（23日）
- ○マンドリン部　定期演奏会（24日）
- ○生徒会長･副会長選挙（26日）
- ○スピーチコンテスト（28日）
- ○高校推薦面接試験（30日）
- ○吹奏楽班　定期演奏会（31日）

【2月】
- ○中学入試（2日･3日）
- ○応援指導班「紫紺の下に」（7日）
- ○高校一般入試（12日）
- ○高Ⅲ歓送会（17日）
- ○期末考査（2月27日～3月4日）

【3月】
- ○高校卒業式（10日）
- ○終業式（18日）
- ○中学卒業式（19日）
- ○中学生イングリッシュ･キャンプ（21日～23日）
- ○中大･高大連携スプリングセミナー（3月～4月）

学校ホームページ
QRコード

新任教諭紹介



内山（うちやま） あやこ 先生

●略歴
生年月日：1988年2月29日
出身地：東京都
出身校：東京純心女子高等学校、明治大学文学部史学地理学科アジア史専攻
前職：国際基督教大学高等学校（非常勤講師）
担当教科：社会科
担当クラブ：剣道部、水泳部

●明治中学・高校に赴任しての印象
明るく素直な生徒が多く、学校生活を楽しみながらも、学習や行事には真剣に取り組む姿勢がとても印象的です。

●生徒たちに期待すること
さまざまな価値観に触れ、偏見や先入観にとらわれずに物事を見る力を養ってほしいと思います。
そして、多方面に興味を持ちながら、自分自身の考えや軸を少しずつ育てていってくれることを期待しています。

●自身の抱負
生徒のよき手本となれるよう、私自身もさまざまなことに興味を持ち、何事にも楽しみながら挑戦し、学び続ける姿勢を大切にしています。

●自己紹介
歴史や異文化に触れることが好きです。しばらく中断していた中国語の勉強を今年こそ再開したいと思っています。



山本（やまもと） 頌悟（しょうご） 先生

●略歴
生年月日：1994年6月27日
出身地：静岡県
出身校：オーストラリア・マッコーリー大学
前職：公立高校教諭
担当教科：英語
担当クラブ：スキー部、陸上競技部

●明治中学・高校に赴任しての印象
授業に前向きな生徒が多く、授業をするたびに生徒からパワーをもらえています。

●生徒たちに期待すること
主体的に行動し、日本だけでなく世界でも活躍できる素地を育んで欲しいです。中学・高校生活を通して、様々なことに果敢にチャレンジして欲しいです。

●自身の抱負
「第一級の人物」を育成できるように、生徒に接していきたいです。特に英語の授業では、生徒のコミュニケーション能力が高められるように、日々授業研究に励みたいと思います。

●自己紹介
趣味は読書（洋書）、映画鑑賞（洋画）、海外旅行等と英語に関連したものが多いです。英語以外の趣味を多く見つけていきたいと思っています。



谷口（たにぐち） 楓（かえで） 先生

●略歴
生年月日：2002年9月15日
出身地：東京都
出身校：明治大学付属明治高等学校→明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻
前職：宝仙学園　順天堂大学系属理数インター中学校・高等学校　非常勤講師
担当教科：社会科
担当クラブ：女子硬式テニス部、スキー部

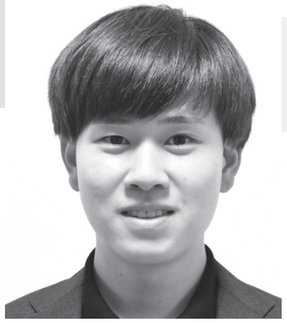
●明治中学・高校に赴任しての印象
母校に帰ってきたという懐かしさを感じる一方で、学生時代から変わった部分もあり、新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。生徒も先生も相手を思いやる優しい方ばかりで、改めて温かい学校だなと感じています。

●生徒たちに期待すること
模範解答どおりに答えられるように暗記するのではなく、学んだことを踏まえて自分の考えを述べられるようになってほしいです。

●自身の抱負
お世話になった先生方、事務員さんやPTAの方々に恩返しができるよう、ひとつひとつ責任感を持って取り組んでまいります。

●自己紹介
学生時代は、応援団長を務めさせていただきました。だからというわけではありませんが、挨拶、礼儀、身だしなみ、提出物など、当たり前のことを当たり前にすることの大切さを伝えていきたいです。

須田 陽太（すだ ひなた） 先生



●略歴
生年月日：２００１年1月28日
出身地：東京都
出身校：日本大学大学院 理工学研究科 物理学専攻 博士前期課程 修了
前職：大学院生（在学中、他の高校で非常勤講師）
担当教科：理科（物理）
担当クラブ：中学野球部、陸上競技部

●明治中学・高校に赴任しての印象
生徒たちが学習においても、部活動や学校行事においても、何事にも一所懸命に取り組んでいるという印象です。日々の努力を惜しまない姿勢が随所に見られ、明治への愛校心の強さも感じています。こうした良き伝統が受け継がれていることに、明治高校・中学校の大きな魅力を感じています。

●生徒たちに期待すること
大学付属校である本校の大きな魅力は、受験勉強にとらわれることなく、多様な経験を通して自分自身を成長させられる環境にあると考えています。生徒の皆さんには、失敗を恐れず、興味を持ったことや挑戦してみたいことに積極的に取り組み、多くの経験を積んでほしいと思います。

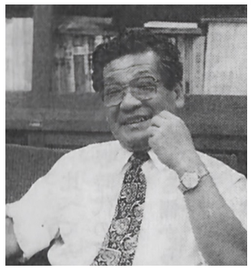
●自身の抱負
生徒の皆さんに新しいことへ挑戦してほしいと願うからこそ、私自身も常に挑戦する姿勢を大切にしていきたいと思います。教員として日々の経験を積み重ねる中でも、現状に満足することなく、授業や生徒との関わり方を常に見直していきたいと考えています。より良い教育を追求し、生徒の皆さんとともに成長できる教員を目指してまいります。

●自己紹介
大学院ではプラズマに関する研究に取り組み、実験や議論を重ねる日々を過ごしてまいりました。そこで得た経験も大切にしながら、これからは明治高校・中学校の一員として、生徒の皆さんと関わり、学校生活を支えていきたいと思います。まだ不慣れなこともありますが、先生方や生徒の皆さんから多くを学び、ともに成長していければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

後藤先生追悼回想録

昭和48年卒業　波の会
1級建築士　富永 栄之進

後藤朋智先生が2026年3月28日にご逝去されました（享年94歳）。謹んでご冥福をお祈りいたします。



過程 41 号より
小岩井賢一氏（明鐘会）撮影

【後藤先生との出会い】

初めてお会いしたのは、化学部に入部した中学1年生の時で先生は化学部の顧問を務められていました。その時の印象は、①体格が良く、それに伴う想定以上の大きな顔、大きな目、大きな鼻 ②印象通りの声質、声量 ③指の違和感 ④トータル的に怖そう、というものでした。

先生の学生時代は戦争中で、学徒動員により戦場には派遣されなかったものの、現在の生田キャンパスの地にあった陸軍登戸研究所で爆薬の製造・実験に携わっておられたそうです。実験中に火薬が暴発し、指をなくされたとのことでした。このことも先生の反戦意識の裏付けになっていると思われます。

当時の生田キャンパスは、帝国陸軍登戸研究所及び同中野学校の関連施設として、高性能爆薬、風船爆弾、レーザー光線銃、毒ガス、偽札製造、帝国海軍からのイルカ水雷実装用火薬等の研究が行われていたそうです。先生からは戦争中の生田キャンパスの様子を細かくご説明いただきましたが、『戦争は絶対にやってはいけない』と強く主張されていました。

【大和煮とコンビーフ】

先生の明大学生時代のお話として、農学部の「食品加工講座」の中の「食品加工実習」がとても人気だったそうです。牛一頭の肉を1週間ほど寝かせてから加工する段取りが、毎日少しずつ食べられてしまい、結局できたのは缶詰「大和煮」5缶と「コンビーフ」3缶。「戦後の食料難の時代、学生には大変なご馳走だった」と笑っておられました。

【半世紀の時を越えて】

今、半世紀を超えて後藤先生のことを考えると
①『反戦』　ご自身が間接的とは言え、爆薬の研究に加担したことについての想い
②『差別』『区別』　男女の性別、宗教、思想、学歴、職業等において、差別はあってはならないが、おのずと区別がある。「どんな勉強でも無駄な勉強は無い」「職業に貴賤は無い」
③『戦争によって技術が進む』　非常に残念なことであるが、事実である

以上が先生の言葉の端々から学んだことであると考えています。学生運動に代表される右寄り、左寄りの考え方が多かった時代に、政治的思想を除き、中立的かつ公平な立場を貫かれた、現代にも通じる素晴らしい教師であられました。

改めて敬意と感謝の気持ちを込めて、ご冥福をお祈り申し上げます。

班・部活動の記録／資格試験・表彰

PTA会報　会報183号・184号・185号より抜粋

バスケットボール部

高校男子第9回武蔵野カップバスケットボール大会
第３位

令和7年度調布市中学校バスケットボール大会
男子の部　準優勝

2025年度東京都U18バスケットボールリーグ戦
T5-Cリーグ　優勝

2025年度東京六大学付属高等学校バスケットボール交流大会
優勝

令和7年度私学1年生親睦バスケットボール大会
準優勝

第22回明治大学付属3高校バスケットボール大会
Aブロック 優勝

陸上競技部

第46回東京都高体連陸上競技専門部
第5･6支部学年別大会

女子5支部共通3000m	第４位	高ⅢB	菊地
男子5支部3年1500m	第８位	高ⅢE	永田
女子5支部2年800m	第１位	高ⅡF	桑原
女子5支部1年1500m	第４位	高ⅠA	井村
男子5支部1年3000m	第８位	高ⅠF	佐々木

第78回東京都高等学校陸上競技対校選手権大会

女子5支部2年800m	第５位	高ⅡF	桑原

第68回東京私立中学高校陸上競技選手権大会

女子高校800m	第６位	高ⅡF	桑原
女子中学800m	第２位	中２B	梅井

第77回東京都高等学校新人陸上競技大会
第5・6支部予選会

女子5支部3000m	第６位	高ⅠA	井村
女子5支部800m	第３位	高ⅡF	桑原

京王駅伝フェスティバル2025

10㎞駅伝女子の部	第３位	高ⅢB	菊地
		高ⅡF	桑原
		高ⅠA	井村
		高ⅠG	杉本
		中２B	梅井

第65回調布市民スポーツ大会

中学2年女子100m	第３位	中２B	山田

硬式テニス部

第64回東京都中学校第9ブロック
テニス選手権大会（東京都中学校体育連盟）

男子ダブルス	第１位	中３B	向當
		中３D	真壁

第52回全国中学生テニス選手権大会　出場
中３B　新井／中３B　向當／中３D　長谷川
中３D　真壁／中３E　藤原／中２B　深谷
中２C　伊藤／中２C　菅野／中２D　澁谷
中１B　神谷／中１C　折間

班・部活動の記録

吹奏楽班

第65回東京都高等学校吹奏楽コンクール
A組　銀賞／C組　銀賞

剣道部

令和7年度文京区民剣道大会

個人戦　高校女子の部	優勝	高ⅠE	石渡
	準優勝	高ⅠA	古野

令和7年度第9ブロック冬季研修大会

経験者女子の部	優勝	中３E	日野

第67回三鷹市春季剣道大会

男子二段以下の部	優勝	高ⅡE	山本
女子二段以下の部	優勝	高ⅠG	日野
	準優勝	高ⅡC	石渡
	第３位	高ⅡB	古野

第64回東京都中学校総合大会剣道大会

女子個人	ベスト16	中３E	日野

中学野球部

第9ブロック中学夏季野球選手権大会
優勝　（都大会出場）

水泳部

東京都十二中学校対抗水泳競技大会

男子200m背泳ぎ	第２位	中３A	竹内
男子50m自由形	第３位	中３A	竹内
男子50mバタフライ	第１位	中２B	盛岡
男子100m自由形	第２位	中２B	盛岡

スキー部

令和6年度東京都高等学校総合体育大会

競技種目スキー選考会男子	第１位	高ⅢG	鶉橋
競技種目スキー選考会女子	第１位	高ⅡD	山北

全国高等学校スキー大会進出
高ⅠA　宮田

関東高等学校スキー大会進出
高ⅢB　田中／高ⅢC　原／高ⅢE　石井
高ⅢE　笠原／高ⅢG　鶉橋／高ⅡD　山北
高ⅡE　北口／高ⅠA　田口／高ⅠA　宮田
高ⅠB　山崎／高ⅠF　謝

卓球部

調布市制施行70周年記念
第65回調布市民スポーツ大会卓球競技

個人戦カデット1年男子の部	第３位	中１D	濱川

バレーボール部

第11回調布市小･中学生バレーボール交流大会
中学生男子の部　優勝
中学生女子の部　第３位

東京都高等学校体育連盟主催夏季大会
高校女子　第３位

第65回調布市民スポーツ大会
中学生女子の部　第３位

総明会

会長 山崎 秀樹 昭和五〇年卒 明紫会
副会長 衛藤 雅一 昭和五六年卒 明翔会
副会長 平野 一哉 昭和五九年卒 明心会
副会長 土田 正昭 昭和六一年卒 新世輝
専務理事 尾崎 博之 昭和六三年卒 昭和戊辰乃会
常務理事 近藤 敏彦 昭和五〇年卒 明紫会
常務理事 島村 武史 昭和五九年卒 明心会
事務局長 小柳 貴裕 平成元年卒 平成改元会
副事務局長 嶋田 剛久 平成元年卒 平成改元会
副事務局長 三谷 知弘 平成六年卒 隆明会
会計 田中 重幸 昭和五九年卒 明心会

環境づくりのパートナー 市原企業株式会社
取締役会長 山崎 敬生（S32卒） 代表取締役社長 山崎 秀樹（S50卒）
〒299-0102 千葉県市原市青柳2−1−23 TEL.0436-21-8100（代）

祝 総明会総会
明治会
昭和32年卒

祝 第62回総明会総会・懇親会
総明会名誉会長（昭和36年卒）
明治大学顧問・名誉教授
（公財）鉄道総合技術研究所 会長
向殿 政男
TEL. 03-3701-1691 E-mail: masao@g03.itscom.net

総明会 顧問 総明会元会長
弁護士 佐久間 洋一
昭和43年卒 紫讃会
事務所
〒104-0061 東京都中央区銀座6-12-1 第2寿ビル7階
電話 03-5568-6646 ファックス 03-5568-6648
URL http://www.ginzamiyuki-law.com

祝 第62回総明会総会・懇親会
総明会顧問（昭和41年卒・41明友会）
明治大学 評議員
尾島 育四郎
〒150−0001 渋谷区神宮前5丁目41−6

明高野球部を甲子園に送る会
会長 山浦 晟暉
（株）東京フジカラー 代表取締役
（昭和29年卒）

昭和34年卒 明高野球部OB

九 マルキユー株式会社
代表取締役会長
宮澤 政信
〒363−8509 埼玉県桶川市赤堀 2−4
TEL:048−728−0909 FAX:048−728−3909
ホームページアドレス http://www.marukyu.com/

宮本卯之助
ホームページQRコード
株式会社 宮本卯之助商店
創業文久元年／太鼓・神輿・祭礼具 製造販売
宮本 卯之助
（昭和35年卒業）
東京都台東区西浅草2−1−1
TEL 03-3844-2141
FAX 03-3844-6730

金の吉田の魚 老舗
創業文政二年

（株）ヨシダ
昭和37年卒 吉田 信行
昭和38年卒 増田 利明
平成29年卒 矢島 泰雅
令和4年卒 矢島 太耀
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩 5丁目14番7号
TEL 03-3694-3751 FAX 03-3694-3753

資格試験・表彰

数学科
校内計算検定 1級合格
中３C 出戸／中３C 橋本／中３D 中山
中３E 内田／中２A 鈴木

第16回 東京理科大学 坊っちゃん科学賞
研究論文コンテスト （高校部門）
入賞 高ⅢA 欒

英語科
PDA全国中学校即興型英語
ディベート合宿・大会2025

3rd prize	中２B	北原
Best debater prize	中２B	北原
Best POI prize	中２B	北原

第9回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会

POI賞	中３C	北原

第17回IIBC高校生英語エッセイコンテスト
奨励賞 高ⅡA 篠原

国語科・情報科
第16回「一緒に読もう!新聞コンクール」

日本新聞協会優秀賞	高ⅠF	泉
東京都優秀賞	高ⅠE	中村
東京都入選	中３A	副島
	中３E	佐々木

社会科
税に関する高校生の作文
武蔵府中税務署長賞 高ⅢC 藤原

調布市人権擁護委員作文コンテスト審査会賞（優秀賞）
中３A 木原／中３D 福原／中３D 大場
中３D 野中／中３E 岩本／中３E 江口

高校協議会
「コンタクトレンズ空ケース」回収に関する感謝状

令和7年度 公認会計士試験合格者
2021年度卒業 西野
2022年度卒業 武井
2023年度卒業 齋藤

令和7年度全国私立中学校テニス選手権
東京都予選大会
男子団体優勝 （全国大会進出）
中３D 長谷川／中３E 藤原／中２B 深谷
中２C 伊藤／中２C 菅野／中２D 嘉敷
中２D 澁谷／中２E 角田／中１B 神谷
中１C 折間

令和7年度 全国私立中学校テニス選手権大会
男子団体 第3位
中２B 深谷／中２C 伊藤／中２C 菅野
中２D 澁谷／中２E 角田／中１B 神谷
中１C 折間

男子個人	第６位	中１B	神谷
	ベスト16	中１C	折間

第51回東京都中学校 第9ブロック新人テニス選手権

男子ダブルス	第３位	中３D	澁谷
		中３E	菅野
男子ダブルス	第９位	中２B	折間
		中２E	神谷
男子シングルス			
	第５位	中２B	折間
	第５位	中２E	神谷
	第９位	中３D	澁谷
	第17位	中３D	深谷

令和7年度第9ブロック研修大会
女子１年団体 第３位
中２A 藤井／中２C 伊藤／中２D 宇田
中２D 梅澤／中２E 見上／中２E 御手洗

ダンス部
第18回日本高校ダンス部選手権東京大会
ビッグクラス 第４位

マンドリン部
令和7年度全国高等学校
ギター・マンドリン音楽コンクール
朝日新聞社賞（全国第2位）・優秀賞

柔道部
第75回文京区民柔道大会
女子中学生の部B 準優勝 中３B 加藤

サッカー部
令和7年度東京都中学校サッカー新人大会
第9支部予選 準優勝 （都大会進出ベスト8）

書道部
第70回全国競書大会（日本書道美術院主催）

特待賞	高ⅡF	石坂	
理事長賞	中２C	吉田	
毎日新聞社賞	高ⅡA	高橋	
全日本書道連盟賞	高ⅠC	鈴木	
	高ⅠD	酒井	

第80回日本書道美術院 教育部展
毎日新聞社賞 中２C 吉田

バドミントン部
東京都高等学校バドミントン 新人Ⅱ部大会
男子シングルス 12組 優勝 高ⅡE 北村

より良き住まいのために
ワイシー企画 株式会社
代表取締役会長
藁谷 豊
昭和44年卒
男坂倶楽部
建物のリフォーム・
新築の設計・施工
〒359-0007 埼玉県所沢市北岩岡263-1
TEL. 04-2990-5111 FAX. 04-2990-5005
e-mail: yutaka0912@ah.wakwak.com

昭和四十四年卒
弁護士
田中 等
丸の内南法律事務所
〒一〇〇-〇〇〇五
千代田区丸の内二-二-三
丸の内仲通りビル七一七
TEL〇三-三二一五-一五一五
FAX〇三-三二一六-〇四〇四

祝 第62回総明会総会
昭和45年卒
獅子の会
【獅子の会ホームページをご覧下さい】
http://www.44nokai.com/

夫婦二人でサービス精神と
元気さを売りにしています。
蛇の目寿司
昭和45年卒 獅子の会
硬式野球部
河田 勇
東京都中央区東日本橋3-10-13
TEL 03-3661-8536

祝 第62回 総明会 総会
昭和46年卒
明潮会
白雲なびく・紫紺魂

株式会社
ライトハウス・コミュニケーションズ
代表取締役
齊藤 公義
k-saito@lighthousecom.co.jp
昭和46年卒「明潮会」
〒135-0042
東京都江東区木場3-10-7-1101
TEL. 03-3641-5986 H.P. 090-3332-8807
Mail : k.sight@lighthousecom.co.jp

花や鉢物のお届けします。
昭和45年卒
株式会社
ポトマックガーデン
代表取締役
平田幸彦
〒107-0052
東京都港区赤坂7-8-13
TEL 03-3589-0687
FAX 03-3583-9423

登録商標 お城 森八

お城森八
銘菓
大粒栗入り最中
大粒栗入り饅頭
㈱森八本舗
HP：morihati.co.jp
〒130-0002 東京都墨田区業平1-3-6
TEL：03-3622-0006 FAX：03-3622-8584

昭和47年卒
五木田・三浦法律事務所
銀座オフィス
弁護士
三浦雅生
〒104-0061
中央区銀座5-4-3 対鶴館8階
TEL 03-6826-1222

HANAWA TRANSPORT
株式会社 ハナワトランスポート
代表取締役社長
塙 直樹
昭和46年卒
中央区日本橋箱崎町１２－２
https://www.hanawa.co.jp


炭遊酒菜
旅籠（はたご）
新宿で一番美味しい炭火鶏焼きのお店
大小7個の個室完備。新宿駅西口徒歩3分
東京都新宿区西新宿1-23-1 かどやホテルB1F TEL. 03-3344-3144
竹川観光株式会社
竹川 茂（昭和47年卒）

古庄一夫税理士事務所
四七四七同志酔会
古庄一夫
（昭和47年卒／吹奏楽班）
東京都墨田区菊川2-5-12
菊川ジョイタワー301号
TEL:03-3635-7070
FAX:03-3635-7081
kazuo.f.ao.2003@fancy.ocn.ne.jp

高い技術と幅広い製品で米粉の可能性を拡げます
株式会社 山口商店
取締役 山口 隆（昭和48年卒）
高エネルギー加速器研究機構 山口孝明（平成26年卒）
〒143-0016 東京都大田区大森北1-17-2 TEL 03-3761-4838
〒308-0101 茨城県筑西市井上385 TEL 0296-37-6716

明治高等学校
昭和49年卒
翼明会
醍醐 敦
醍醐会計事務所
047-355-9301

CH CITY・HOUSING
城南地域で40年 15,000件以上の豊富な管理専任実績
株式会社シティ・ハウジング
代表取締役会長 佐藤 仁（昭和39年卒 三九会＆一一七会）
取締役企画室長 佐藤啓太（平成14年卒）
本社 東京都大田区西糀谷4-28-18 TEL 03-3742-7177
糀谷本店・京急蒲田店・蒲田店・大森駅前店・大森店・大井町店・雪が谷店

小坂法律事務所
弁護士
小坂嘉幸
昭和34年卒
〒112-0011
東京都文京区千石 4-26-1
TEL. 03-3831-6032
FAX. 03-3831-6037



イタリアン
トラットリア リンシエメ
昭和38年卒 二年に一会
石野 隆 水泳部OB
03-6264-8253
東京都中央区東日本橋 3-9-2
サンクビル 1F

昭和37年卒
新麹町法律事務所
弁護士 福島啓充
〒102-0083
千代田区麹町3-7-4秩父屋ビル5階
TEL03-3234-0511
FAX03-3234-0510

（株）グローバル インシュアランス
保険総合コンサルタント
代表取締役
若松弘昌
（昭和39年卒 明雪会）
〒141-0031 品川区西五反田2-9-7
ドルミ五反田アンメゾン1001号
TEL. 03-3491-0900
FAX. 03-3491-0934

JY 上陽テクノ株式会社
代表取締役
阿部正行
（昭和40年卒／明優会）
本社：千代田区外神田 6-10-11
TEL 03（3834）1329
総務部
深井重男
（平成2年卒／明愛会）
東京支店：足立区中央本町 4-10-2
TEL 03（3840）0261

スコッチのシングルモルトと
カクテル中心のお店です。
赤坂 オールドタイム

横瀬 昭夫（昭和42年卒 M41）
東京都港区赤坂5-1-37 SDビル1F TEL. 03-5563-9606



総明会 顧問
昭和44年卒 男坂倶楽部
ミートショップセキヤ
株式会社関谷商店
代表取締役社長 関谷芳久
http://www.1129sekiya.com
足立区西新井栄町3-8-5 TEL.03-3886-3318 FAX.03-3886-5803



中華料理 水新菜館
寺田規行
（昭和43年卒 紫讃会）
東京都台東区浅草橋2-1-1
TEL 03-3861-0577

祝 第62回総明会総会
明治高校
昭和43年卒
同期会
紫讃会

昭和四十三年卒
竹川忠芳法律事務所
弁護士
竹川忠芳
〒一〇五-〇〇〇三
東京都港区西新橋一-二〇-三
虎ノ門法曹ビル四〇八
電話〇三-三五〇四-一三〇八
FAX〇三-三五〇四-一三〇七

肉の田じま
肉の田じま
ネット通販
全国へ配送承ります。
https://www.nikunotajima.com
《東陽町店》松阪牛 田じま TEL 03-6666-2129
《扇町本店》東京都江東区扇橋 1-4-1
Tel. 03-3699-8929 Fax.03-3699-7229
代表取締役社長 田島 実 昭和44年卒 男坂倶楽部
焼肉・すき焼き・しゃぶしゃぶ・ステーキ
3階 個室で接待・会食・お祝いごとに
2階 普段のお食事に（テーブル席のみ）
Tel. 03-3699-8929 営業時間:11～22時 定休日:月（祭日の場合は翌日）
1階 ミート＆デリカ・お弁当
Tel. 03-3649-4419 営業時間:10～19時 定休日:日・祝日

マイケル＆マック
鍼灸・中医学・東洋医学・
脈診・漢方・均整法
千葉県市川市北方2-2-10
TEL＆FAX 047-336-0763
HP:http://michaelmac.jp
鍼醫 松本 和臣
昭和44年卒 男坂倶楽部

ターカム保険企画有限会社
有限会社エヌエスモーターサービス
昭和49年卒
翼　明　会
竹澤　啓
TEL 03-3675-9955 携帯 090-3200-6139

お車のトータルサービス
代表取締役 服部 憲一
（昭和50年卒明紫会）
㈱服部自動車鈑金工業
〒179-0073
東京都練馬区田柄5-22-20
TEL 03-3990-8541
FAX 03-3998-0177
E-mail：ken@hattori-auto.com

豊富なランチメニュー
天ぷら すきしゃぶ 天しゃぶ
田中　純　S50卒 明紫会
文京区小石川3-1-1 小石川田中ビル 2F
傳通院前通り
TEL. 03-3815-3579 FAX. 03-3815-3579
東京メトロ南北線 【後楽園駅】 徒歩8分
東京メトロ丸ノ内線 【後楽園駅】 徒歩9分
都営三田線・大江戸線 【春日駅】 徒歩10分

祝 第62回総明会 総会・懇親会
昭和50年卒
明　紫　会

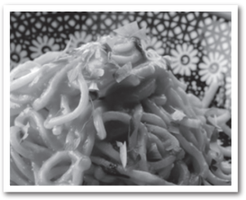
吉武孝生税理士事務所
昭和五十年卒 明紫会
〒121-0813
東京都足立区竹の塚六―九―七
オークビル四〇一
TEL〇三―五八五一―一五二一
FAX〇三―五八五一―一五二九
E-mail:t.y@tax-yoshitake.com

Mahaloa HAWAIIAN DINING BAR
ハワイアンダイニング&バー
マハロア
窪寺弘匡（昭和50年卒 明紫会）
東京都中野区新井1-23-21 プルメリア1F
TEL. 03-5345-5086
ハワイアンダイニング&バー マハロア



DIANA
ダイアナ株式会社
代表取締役会長 髙橋郁夫
（昭和50年卒 明紫会）
www.dianashoes.com

祝 第62回 総明会総会・懇親会
中華麺工場
株式会社 浅草開化楼
昭和50年 明紫会 坂上 進
〒111-0041 東京都台東区元浅草4-8-4
Tel 03-3844-0637 Fax 03-3841-4551
公式 X（旧Twitter）
浅草 開化楼 特製麺



表参道・南青山のイタリアン有名店より
高級生パスタご用命

割烹 魚きく
亀井利一
（昭和50年卒 明紫会）
山岳部OB
Tel. 03-3386-6128
東京都中野区沼袋3-26-12

ろく助本舗
独自の製法で旨みを加え、工夫に工夫を重ね、
精魂込めて作り上げた旨塩と醤油
株式会社アーバンコア
〒134-0083 東京都江戸川区中葛西5-29-11
TEL.03-6808-3176 FAX.03-6808-3177
E-mail：info@urban-core.jp
https://www.rokusuke-honpo.com
代表取締役
衣笠　学
（昭和50年卒・明紫会）

昭和五十一年卒 明々会・バスケ部
総合不動産業
株式会社 エヌエフ・ヴィレッジ
代表取締役
吉田　博
〒177-0033
練馬区高野台一―三―七 NFプラザ
TEL〇三―五九一―〇一〇五
FAX〇三―五九一―〇一〇六

祝 第62回 総明会総会・懇親会
明々会
昭和51年卒

厨房のアメニティを創造する
津守興業株式会社
代表取締役 津守　徹
（昭和51年卒 明々会）
〒332-0001
埼玉県川口市朝日5-5-22
TEL 048―222―6187
FAX 048―222―8584
E-mail:tsumori@luck.ocn.ne.jp

モップ清掃用品・集会用テント・カバー
平シート・袋物から大型テント倉庫まで
株式会社 岡仁
代表取締役 岡本雅仁
昭和51年卒 明々会
〒106-0047
東京都港区南麻布 2-4-12
TEL：03－3451－3671
工場：栃木県大田原市

omori
おかげさまで創業100周年。ご要望の建築資材を、タイムリーに。
オオモリ・マテリクスは、お客様に「信頼」をお届けしています。
株式会社オオモリ・マテリクス
代表取締役 大森清嗣（長男 大森貴之 平成21年卒 硬式野球部OB）
本　社 〒101-0023 東京都千代田区神田松永町18番
TEL 03-3253-9411 FAX 03-3253-9418
営業本部 〒135-0053 東京都江東区辰巳2丁目3番1号
TEL 03-5534-7700 FAX 03-5534-7708



建築設計監理
有限会社 日生建築設計事務所
代表取締役 一級建築士 戸張　毅
（四七四七同志酔会）
〒170-0002
東京都豊島区巣鴨三丁目5番18号
TEL（03）5907-6030
FAX（03）5907-6033
E-mail:nao.111@themis.ocn.ne.jp

祝　第62回総明会総会
波の会
昭和48年卒　卒業生一同
代表者　富永　栄之進
副代表　板橋　純三郎　尾崎　幸平
評議員　海老根　一介　雨海　重明

浅草の隠れた名店
スペシャルヒレカツサンド
KING'S TABLE キングステーブル
昭和48年卒 波の会 剣道部OB
大澤 保男
TEL. 03-5825-4129
東京都台東区浅草 5-71-9

祝 第62回総明会 総会・懇親会
49年卒 翼　明　会
翼明会役員一同

宮沢孝昌
（S59年卒・水泳部）
珈琲亭 ルアン
〒143-0016
東京都大田区大森北1-36-2
Tel: 03-3761-6077
平日　7:00～18:30（オーダーストップ）
土・日・祭日　7:30～17:30（オーダーストップ）
水・木曜定休

PEP-MATES inc. HP-URL www.pep-mates.com
オリジナル!! ネクタイ・クラブタイ、30本から製作致します！
デザインは弊社にて無料で提案します。イメージとなる紋章・カラーをメールまたはFAXでお送りください。
専門のデザイナーがイメージを作り上げます。デザイン確定後、本数をお知らせいただければお見積りをします。
オリジナルグッズ企画・制作
ペップ・メイツ株式会社
〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 14 番 10 号
TEL 03-3663-8827 FAX 03-3663-8828 info@pep-mates.com
代表取締役　大前実之（昭和49年卒・翼明会）

(株)カントー・エステート
不動産賃貸業・管理業
宮下 守正
昭和49年卒　翼明会
東京都荒川区西尾久1-20-12
M2ビル1階
TEL.03-3894-8161
FAX.03-3894-3682

MEIJI UNIVERSITY
明治大学
駿台会計人倶楽部
－会員募集－
会長　岩田俊一　（昭和49年卒 翼明会）
tiwata@silver.plala.or.jp
〒113-0034 東京都文京区湯島4丁目6番11号　TEL 03-3815-1272（代）
湯島ハイタウン A棟502号　FAX 03-3815-1404

包装資材販売・梱包請負
寺村梱包株式会社
代表取締役　寺村一義
(昭和56年卒　明翔会　バスケOB)
東京都台東区東上野 1-22-1
TEL　03－5826－4601
FAX　03－5826－4660
https://teramura-pack.jimdofree.com/

紫魂会
渡辺 裕之

暮しの衣料　まつざわ
株式会社
調布松沢屋
代表取締役
松澤和昌
（昭和54年卒明誠会）
〒182-0026
東京都調布市小島町1－34－12
TEL042-482-2634

昭和54年卒
明誠会
㈱朝倉鋳物
代表取締役
朝倉一寿

かばん・袋物 製造卸し　(ビーボニー)
株式会社 B-BONNY
代表取締役　馬場栄一（昭和55年卒 紫魂会）
本社／〒273-0012 千葉県鎌ケ谷市東中沢4－8－53
工場／〒273-0012 千葉県鎌ケ谷市東中沢4－8－50
Tel & Fax 047-412-3495
mobile 090-8440-7002
E-mail b-bonny@gf7.so-net.ne.jp

ヤマダ社会保険労務士事務所
社会保険労務士
山田 覚
Satoru Yamada
昭和56年卒 明翔会

株式会社東新理興
板硝子・理化学製品は斉木におまかせ!
昭和56年卒 明翔会
代表取締役 斉木 麻州男
〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-4
TEL.03-3814-7565　FAX.03-3818-0208

総合建設・不動産
正宗産業株式会社
代表取締役　市 川 洋 治
(56年卒)
〒210-0834
神奈川県川崎市川崎区大島5-8-13
電 話 044-244-1054(代)

昭和 57 年卒　明 魂 会　岩﨑広人
ガッツリ
全国にG系ラーメン旋風！


埼玉・岩崎食品工業 発！
G系極太麺

祝　第62回総明会 総会・懇親会
男子校根性組
昭和52年卒
http://dankon52.web.fc2.com
題字：小嶋眞作書

銀座線 外苑前駅すぐ
豆菓子・おかきの店
青山但馬屋
太田垣　政紀
(昭和51年卒 明々会)
〒107－0061
東京都港区北青山2－7－11
TEL.03－3401－2843
www.aoyama-tajimaya.co.jp

株式会社 大西静商店
取扱商品：貸事務所・パーティーグッズ
大西静士郎
男子校根性組(昭和52年卒)
〒101-0032
東京都千代田区岩本町2-10-2-1001
TEL. 03-3866-6097
FAX. 03-3866-6098
http://www.rakuten.co.jp/osparty/

練馬　高野台
ネーチャーズフォーレストグループ
代 表　横 山 茂 樹（昭和52年卒男子校根性組）
本店　東京都練馬区高野台１丁目７番３号NFプラザ3－210
TEL03-3996-0612　FAX03-3996-0630
http://www.neritaka.net/ E-mail: nfsy@opal.famille.ne.jp

相続 遺言
行政書士法人 税理士法人 常住事務所
(つねずみ)
☎03-3905-6981
〒115-0055　東京都北区赤羽西1-5-1-606
アピレ・赤羽アボードIビル内　FAX：03-5963-7430
E-mail：yutaka@tokyo.email.ne.jp
代表社員 常住 豊（昭和54年卒 明誠会）
日本行政書士会連合会 名誉会長／東京都行政書士会 名誉会長／公益社団法人成年後見支援センター ヒルフェ 名誉理事長

昭和53年卒　マンドリン部OB
弁護士　髙木　茂
銀座木挽町法律事務所
〒104-0045　東京都中央区築地4-2-11
新橋演舞場別館4F
TEL. 03-6228-4487 FAX. 03-6228-4489
https://kobikilaw.jp

手打ち
如月 德
如月 德（きさらぎ とく）
昭和 52 年卒　男子校根性組
石黒 理樹
TEL 03-3801-9001 荒川区荒川 7-26-9

祝　第62回総明会 総会・懇親会
昭和54年卒同期会
明誠会

米田税務会計事務所
昭和53年卒（バスケット部）
税理士 米田晴彦
〒130-0026
墨田区両国2－17－3
（両国高橋ビル3F）
TEL 03-3631-8878
FAX 03-3632-3346
E-Mail:yonetakaikei@tkcnf.or.jp

矢ノ目忠税理士事務所
昭和54年卒 明誠会
〒135-0048
東京都江東区門前仲町
2－2－16 えとりビル3F
TEL　03-5639-7761
FAX　03-5639-7762
E-Mail : yanome@yanome.jp

愛三電機株式会社
代表取締役
公認会計士
河 合　洋
昭和 54 年卒　明 誠 会
〒101-0021
東京都千代田区外神田 1-12-3
TEL. 03-3253-3611（代表）
https://www.aisan.co.jp

両国
國技堂
有限会社 両國あんこあられ本舗
代表取締役
岩佐浩之
昭和五十四年卒　明誠会
東京都墨田区両国二－十七－三
電話 〇三－三六三一－三八五六

昭和54年卒同期会
壱伍会
SINCE 1980
吉田雅博
埼玉県川口市

有限会社 新星興業
星本 慎児
昭和54年卒（明誠会）
応援指導班OB
千葉県鎌ケ谷市軽井沢2097－3
TEL　047-446-7312

Wako Real Estate Investment Co., Ltd.
和光アールイーアイ株式会社
代表取締役
熊澤正幸
昭和54年卒　バレー部
〒102-0072
千代田区飯田橋4-1-11 六洲社ビル
TEL.03-3512-0750
FAX.03-3512-0753
http://www.wako-rei.co.jp/

志村 和哉
明誠会
昭和54年卒

パートナーズ総合事務所
司法書士 行政書士 菅原　誠
(S52年卒 男子校根性組)
〒110-0001
東京都台東区谷中1-5-9-403
TEL. 090-2674-3281
FAX. 03-5832-9505
E-mail：ZVC00312@nifty.ne.jp



OB・OG 活動報告

ACTIVITY REPORT 2026

毎年恒例で各学年の皆さまから寄稿を頂戴し、近況報告をお聞かせいただいていますが、今回は幹事学年のテーマにちなんだ思い出の先生やエピソードなどについても触れていただきました。

旧雨会（きゅううかい） 1959年卒 昭和34年卒 秋山 義昭



“友情の広場” 旧雨会は87歳の限界に挑戦！

第62回総明会幹事学年の平成11年卒の「明哲会」の今回のテーマは「つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地」を掲げております。さて旧雨会の現在地でありますが、毎年投稿しております先輩は、昭和31年卒「明楽会」・昭和32年卒「明治会」、その次が我が昭和34年卒「旧雨会」となっております。

「つなぐ、つながる」といっても、今年で86歳になり限界に来ております。昨年の旧雨会は京橋モルチェで開催したのですが、直前に緊急手術、孫の結婚式、体調不良などがあり、20名の参加となってしまいました。79歳の時（7年前）は同期のアントニオ・古賀のディナーショーなども織り込み40名参加と盛大なパーティーになったのですが、運営委員会の幹事も7名から3名になり、運営の方も現在地は限界に近づいております。参列した同期の仲間の中には経済学博士、農学博士など2名、弁護士、大物実業家もおります。そして我が学年は甲子園出場も春・夏連続出場と文武両道のユニークな学年です。

“♫おぉ～明治～、その名ぞ吾等が母校”

去年は解散も考えていたのですが、母校の後輩にも「つなぐ」という意味も考えて、これからも限界に挑戦いたします。

来年は5月15日(土)11:00より京橋モルチェで開催予定ですので参加をお待ちしております。酷暑が続きますので、ご自愛ください。

【明治高校昭和34年卒】旧雨会担当窓口　秋山義昭
連絡先：〒164-0011 中野区中央4−42−5
Tel.Fax/03-3382-4187　メールアドレス：aki3583@gmail.com
Twitter handle name：Gongitune3

二年に一会（にねんにいっかい） 1963年卒 昭和38年卒 服部 紀夫



昭和100年　人生100年時代　まだまだ元気

卒業の翌昭和39年、同期会を開こうと有志が集まり発足準備。会名も「2年に1回集まろう」と単純明快に“二年に一会”に決まり、第1回の総会・懇親会にこぎつけた。それから60余年、一度も欠かすことなく続いている。平成20年からは「そろそろ歳だから毎年会おう」と年1回の開催を決めた。

本年総明会のテーマ「つなぐ、つながる明治高校～」のように、八十路を過ぎても私たちは同期会で脈々とつながっている。残念ながらコロナ禍の3年は休会となったが、新型コロナが落ち着いてからは再び毎年開いている。

昨年は節目の第40回総会・懇親会を銀座の中国湖南料理「雪園」で開いた。80過ぎとは思えず、食べて、飲んで、懐かしい仲間が集まり、近況報告では「病院通い」の話ばかり。やはり歳には勝てないのかと思いつつも、笑いの絶えない会となった。

これからも歳に負けず、年1回の集まりを楽しもうと、時、所、テーマを変え、同期会を続けて、つなげてゆく。今秋11月にも第41回総会・懇親会を開催予定。人生100年時代、まだまだ元気な同期生たちだ。

三九会＆一一七会（さんきゅうかい＆いいなかい） 1964年卒 昭和39年卒 佐藤　仁

2025年10月25日　傘寿の会を開催しました。会場は、我が学年の定例会場、同期の北村元嚞君が経営する日本橋のレストラン東洋の2階です。元気な仲間44名が集まりました。東京のど真ん中の会場、いつも北村君には感謝です。大々的に開催するのは、古希（70歳）のお祝い以来10年ぶりです。

司会は、黄綬褒章受章に輝いた海田耀市君が務めます。乾杯は我が学年の象徴である前田忠昭君（元東京ガス副会長）の音頭でスタート。

マンドリンクラブOBの演奏でなごやかに会が始まりました。歓談中に当日の出席者の卒業アルバムの顔写真が次々と写し出され、62年前の自分との対面です。会場のあちこちでは、80歳での再会に喜びの輪が、素敵なコンパニオンさんのお酌にほんのり気分、そして明治大学応援団によるエールとチアガールの元気ハツラツのダンスに一同注目！！みんなで卒業式に歌った「高校三年生」（当時大ヒットしました）を合唱。続いて、校歌「白雲なびく…」、そして記念の集合写真、大変な盛り上がりの中、最後に北村君の挨拶で閉宴となりました。

次は米寿（88歳）何人集まれるか？元気で集まろうと再会を誓って散会となりました。



明楽会（めいらくかい） 1956年卒 昭和31年卒 佐藤 健一



総明会総会開催おめでとうございます。

私共明楽会も60余年となり、同期の会員各位も体調を崩し、他界したり家族の助けを受けたり、大幅に減少してきました。

幹事の皆様も同様に減少しながら会員皆様のご要望に応えるべく、また総明会本部との度重なる連絡を取り、此の小冊子を送り何とか絆を保って参りましたが、行く年波には対応出来なくなり、諸般の状況を踏まえてこれ以上存続する事が出来ず、色々な思いもありますが終止符を打ちたいと思います。

無事米寿も済み会員皆様のご協力があってこそ存続して来ましたが、今期限りで終回を考え、諸兄には感謝を申し上げると共に皆様方の御多幸をお祈りします。

最終回の開催を5月27日（水）明治大学紫紺館に於いて開催したところ、20名程の会員、総明会本部からの参加もあり、盛大に行われ、涙の中散会致しました。

永い間ありがとうございました。

此れからも「明治」の銘の元に皆々様の増々のご発展を祈念して終止符と致します。

ありがとう御座居ました。

明治会（めいじかい） 1957年卒 昭和32年卒 山崎 敬生



今年、米寿を迎える明治会は戦争を知る最後の世代で、厳しい戦中、戦後を知る仲間として友情を大事にしてきた。そのせいか、同期会も三十代で、在籍した者も加えて早くからスタートし、長年に亘り交流を深めてきた。

八十を越してからは、隔年から毎年の開催となり、懐かしのお茶の水で三十名を越して集まってきたが、今年は【物故者や体調不良の者も多く】十五名程に半減してしまった。

ここで少し仲間を紹介しておこう。

2008年、調布に新たに共学としてスタートした母校の新校長として民間から就任したのが同期の小林正三郎君で、明大野球部島岡監督の秘蔵っ子マネージャーであり、日立製作所では宣伝部長として活躍し、柏レイソルの社長も務めた信望厚い人物である。彼と同じ明高野球部から早実の王選手と投げあい、プロ野球の国鉄スワローズに入団、118勝をあげた村田元一君もいる。

また、高校で転校した仲間だが、芸能界のドンとなった田邊昭知君（田辺エージェンシー会長）もいる。伝説のザ・スパイダーズのリーダーであり、【あのタモリを世に出した育ての親】でもある。今も返信してくれるのがうれしい。

獅子の会（ししのかい） 1970年卒 昭和45年卒 米長 博



我々昭和44年度卒業の「獅子の会」は1964年に中学1年生として明治の門をくぐりました。その年はアジアで初めてのオリンピックが開かれ日本中が選手の活躍に沸き立ちました。

当時学校に観戦入場券の割り当てが有り、くじ引きに当たり生で観戦出来た生徒もいました。又翌年春には野球部が選抜野球大会に出場し、甲子園に流れる校歌を聞くことができました。そして巷ではビートルズやベンチャーズの影響もありエレキギターと今のバンドのはしりとなるグループサウンドが大流行しました。

又1968年、高校2年生の頃には学生運動がピークを迎え朝、御茶ノ水駅を出ると駅前は前日の学生と機動隊の衝突の名残の催涙ガスが残っている様な騒ぎの中を登校していました。そして1970年、大阪にて万国博覧会が開催された春に高校を卒業しました。中高在学中に色々な出来事があった世代ですが、今年度にはいよいよ後期高齢者の仲間入りとなります。

まだまだ元気な仲間達と年に何度か同期の三宅裕司君の観劇や季節ごとに中野君のお店での飲み会等をして親交を深めて（安否の確認をして?）います。

明潮会（めいちょうかい） 1971年卒 昭和46年卒 木村 茂



昭和46年卒の明潮会は、当時の福島校長先生から「新しい社会の潮となれ」と命名されました。

卒業時には274名の会員がいましたが、55年後の現在では、連絡がつく会員は170名となり、年に一回の懇親会や数回の幹事会、各グループの飲み会などの活動を行っております。

残念なのは、物故者が判明しているだけでも32名を数え、減ることはあっても増えることのないことを実感しております。

しかし、それでも元気なうちは頑張って集まろうと、昨年も10月25日にロッテシティホテルにて懇親会を開催しました。恩師の清水紀夫先生を囲み、41名が参加して楽しい会となりました。

今年は10月31日に新橋にて、懇親会を予定しております。歳に負けないよう、頑張って続けるつもりです。

四七四七同志酔会（よなよなどうしようかい） 1972年卒 昭和47年卒 戸張 毅

明哲会の皆さま、幹事学年担当、おめでとうございます。総明会は、今年のテーマ「つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地」そのものです。卒業生が後輩達への贈り物として、このような仕組みを築き、受け継いでいることは、学校関係者にとって大きな宝物です。

私は建築設計に携わってまいりました。その中で公的機関である建築設計事務所協会にて、子どもたちに建築設計のおもしろさを伝える役目を仰せつかり、小中学生向けの体験学習を行ってきました。その経験を母校の生徒達にも届けられないかと考え、同期で明治高校教員の田中徹太郎先生に相談したところ、学校での実施になりました。この取り組みも今年で10年目を迎えます。

昨年は原宿駅から広尾駅までの建物探訪を実施、建築設計の魅力を体感してもらいました。20数名の生徒が参加し、楽しんでもらえた様子が印象的でした。企画実施にあたり、井家上校長先生、齊藤先生には多大なるご尽力を賜りました。また総明会から中河監事、遠藤理事、委員の皆さまにご協力いただきました。紙面をお借りして心よりお礼申しあげます。

結びに第62回総明会総会・懇親会が盛会となりますことをお祈りしております。



永平寺同心閣 設計者 戸張毅

M41（えむよんじゅういち） 1967年卒 昭和42年卒 伊藤 謙一



今年2026年はM41同期会がなく、2年に1回開催していますので来年2027年になります。従来は6月に駿河台「紫紺館」で開催しています。

近年の地球温暖化の為、気温35度以上やら、ゲリラ豪雨など気象変動が激しく、来年開催時期を春か秋にするなど検討をしなくてはならないのではないかと考えています。

猿楽町の明治中高校跡地（?）には大学のプロジェクトにより、新しい建物が計画されています。共学のため調布に移転し、旧校舎は新しく生まれ変わろうとしています。それだけ時間が経過していると言う事です。

「つなぐ」と言えば、同期とのつながりが第一になりますが身近なところでの後輩とのつながりも大事なものでしょう。落語家になった、議員になった、教授になった、OB会の役員になったなど挙げればきりがありません。普段あまり意識をしていませんでしたが、「つながる」を意識したいものです。

10年ひと昔と言いますので、2016年の同期会スナップを掲載して「つなぐ」を表したいと思います。

来年2027年にまた集まりましょう!!

幹事団:朝貝省吾・伊藤謙一・倉又光仁・後藤孝男・佐藤茂和・町田菊男・村西一郎

紫讃会（しさんかい） 1968年卒 昭和43年卒 志村 一夫



令和8年5月のゴルフ会

今年は明高を卒業して58年、喜寿の年を迎えた。

令和2年に発生したコロナの影響で、それまで実施してきた行事（年1回の総会、毎月の定例飲み会等）が実施できなくなってしまった。

ただ、有志によるラインなどのやり取りで、いろいろな会合等が行われ、仲間の絆は保たれている。

この1年間の実施状況を見ると、総会を6年ぶりに「銀座アスター御茶ノ水賓館」で開催し、本年11月14日に喜寿のお祝い会をすることを決定した。

また、ゴルフ好きの仲間が月1回のゴルフ会を行い、総明会開催のチャリティーゴルフにも毎年参加している。

飲み会は、以前定例飲み会を実施していた同級生が経営する「水新菜館」に仲間が集まりはじめ、この1年間で4回行った。

12月には有志5人でベトナムダナンの海外旅行を行い、明大マンドリン倶楽部の演奏会にも誘い合わせて観劇した。

ラインによる情報交換も仲間の繋がりを強くしており、病気の情報があると経験者から注意事項のアドバイスや激励の言葉が飛び交う。

社会の状況や我々の年齢が変わろうと同期の繋がりは変わるものではない。これからも楽しい酒を酌み交わすこととなるだろう。

男坂倶楽部（おとこざかくらぶ） 1969年卒 昭和44年卒 島根 勇一



―絆は永遠に―

今から52年前の3月17日に、山の上ホテルで挙式・披露宴（司会は、現男坂倶楽部 会長 藁谷豊）を行いました。一昨年休館した同ホテルを明治大学が取得し、改修工事ののちに公開するとの朗報に安堵しました。

藁谷とは、明治中学1年時から爾来60有余年にわたる付き合いです。

我が家の餅つきの手伝いに来てくれたり、二人で旅行にも行きました。藁谷は、旅先や仕事先で、80過ぎのご婦人に気に入られることが多々あり、母親同行の50過ぎの娘さんともすぐに打ち解ける特技を有しています。そういえば、昔から親子丼ぶりが好物だったかも…(笑)。

毎年男坂倶楽部の総会・懇親会を開催しておりますが、乾杯の前に併せて献杯することが多くなりました。すでに60名を超える同期の仲間が、虹を渡って行きました。

“HERE and NOW”今、この瞬間を真摯に生きることが肝要です。

死は、いずれは必ず誰にも訪れます。しかしながら、虹の向こうへ渡っても、妻や、男坂の仲間たちと再会し、楽しく語り合える世界へと誘ってくれることでしょう。

私は、このように考えております。

男子校根性組（だんしこうこんじょうぐみ） 1977年卒 昭和52年卒 佐野 敦司



【友人との交流】卒業からおよそ50年経っても、今なお定期的に集まり、酒を飲みかわす友人がいることは人生の財産です。近況報告から他愛もない話まで、いつまでも続けたいと思っています。同期全体では、60歳（還暦）、66歳（緑寿）のお祝いで集まることができ、幹事の皆さんに感謝しています。次の70歳（古希）も一緒に動きますのでよろしくお願いします。

【スキー】明治中学1年生のスキー学校、スキー教室に参加し、雪山の雄大さ、滑走の爽快感が忘れられず、50年以上スキーを続けています。少なくともあと10年は続けていきたいと思います。

【登山・マラソン】マラソン大会やチータ（松枝先生）の冬の体育は、体力のない私にとって最も苦手な学校行事でした。そんな私が47歳頃に健康管理に目覚め、青梅マラソン、東京マラソン、いすみマラソンを走り、日本百名山（現在58座）に登り始めました。

【世界遺産の旅】高校時代の英語力で布施君とヨーロッパを旅できたことに味を占め、進歩はしないものの退化しないよう努めています。これまで16か国を訪問し、世界遺産や雄大な自然から地球のパワーを吸収することは至福の時間であり、実現できたことに感謝しています。

明誠会（めいせいかい） 1979年卒 昭和54年卒 星本 慎児



令和8年7月4日の土曜日、取り壊しになるらしい母校を見学の為、男坂に集結。

共に青春をスタートした『男坂』、高齢者のリスタートも、この『男坂』から始めましょうと同期が集まりました。

50余年前、五分刈り頭で毎朝掃除をした男坂。三角牛乳の空箱を踏んづけて、破裂音を楽しんだ3号館エントランス。チーター（松枝先生）に熱血的なご指導を頂いた校庭、50年前にタイムスリップして思い出が甦り、大盛り上がりです。

リバティタワー23階に移動し同期会、ここでも昔話と近況報告、孫の話と薬の数自慢、実年齢は当年66歳、でも心は16歳。総明会幹事学年（明哲会）の箱崎君、小島君から、『先輩たち若いですね』とお褒めの言葉を頂きニッコリ。

同期応援団長、水上君のリーダーで校歌を熱唱。3時間があっという間でした。

まだ別れたくなくて二次会へ、ここでのお話は文章に出来ません。当然、翌朝は二日酔いと声枯れ、また総明会で会いましょう。みんな健康に気を付けて長生きしましょう。明大明治でよかったなぁ。

明翔会（めいしょうかい） 1981年卒 昭和56年卒 蓬田 裕一



令和8年6月20日（土）、明治大学紫紺館「ラウンジ明治」に於いて、昭和56年卒明翔会総会・懇親会が開催されました。当日はあいにくの梅雨空の中、25名の仲間が集いました。

総会では蓬田会長より今年度の活動報告と来年度の事業計画、鴨下会計より会計報告と予算案が発表され、全会一致で可決されました。懇親会は飯野善明君の乾杯で始まり、久々に鈴木一洋君、竹田君、白畑君も参加。参加者全員が18歳の高校3年生に戻ったかのように、同級生との懐かしい思い出や怖い先生、クラブ活動の楽しい話で盛り上がりました。一方で、来年から65歳になるにあたり年金の話題になると、社労士の山田覚君が人気者に。終盤には幹事学年「明哲会」の大室君と上野君より11月22日の総明会総会のお知らせがあり、タオル・マグカップ・靴下などのグッズ販売にも協力しました。

2時間はあっという間に過ぎ、鈴木望文君の中締めでお開きに。還暦を過ぎ、あっという間に64歳。古希まであと6年、もう一度明中に入学したつもりで、毎年楽しい明翔会を長く続け、元気に集まりましょうと確認しました。夜な夜な顔を赤くして楽しい夜の街に消えていく仲間も…。

翼明会（よくめいかい） 1974年卒 昭和49年卒 竹澤 啓



私達翼明会も卒業して52年、2001年に東京ドームホテルで開催された総明会幹事学年を担当してから早くも四半世紀が経ちました。当時を振り返れば、卒業後20数年間、一度も同期会を開いていない状態でした。

1997年の暮れ、同期の谷田君（書道部）が「4年後の総明会幹事学年だから、生徒会長だった君が委員長をやれ」と私を口説きに来ました。しかし後日、それは半分嘘だと判明。谷田君は獅子の会でジャンケン大会に勝ち、新車のカローラをもらった際、「4年後の委員長になれ」と先輩方から言われていたそうです。

私は固辞し、当時明高の教師だった栗野哲也先生にもお願いしましたが、「教職員は委員長になれない」と断られ、結局今も翼明会の代表を務めています（笑）。

余談ですが、当時二人いた事務員（うち一人は娘）を公私混同して総会準備に駆り出した結果、総会終了後に二人とも退職し、会社存続の危機に陥りました。

これから幹事学年を担当される方は十分お気を付けください。昨年11月には古稀を記念して紫紺館で同期会を開催し、45名が集まりました。明楽会の先輩方を目標に、これからも二年に一度同期会を続けていきたいと思っています。

明哲会の「哲」が栗野哲也先生のお名前に由来すると聞き、同期の私も感激しています。総会、懇親会、会報、頑張ってください。

明紫会（めいしかい） 1975年卒 昭和50年卒 世古 俊之

伝統を繋ぎ・未来へ託す

期待と夢を膨らませ、ドキドキしながら神田駿河台の男坂のある母校の門を55年前にくぐり、汗と泥にまみえ乍ら、島岡吉郎御大・卯木敏夫監督の薫陶を受け、白球を追いかけすごした3年後、卒業して早52年が経過し我々同期は今年、70歳の古希を迎えることに成りました。

時代は大きく移り変わり、社会の景色も変わりましたが、母校の校訓「質実剛健・独立自治」と、そこで培った不屈の精神は、今も私達の胸の中に脈々と生き続けています。

伝統とは、ただ守るものではなく、次の世代へと「繋ぐ」ものです。私達が先輩方から受けたバトンを、今度は私達が現役の生徒達や、これから同窓会・総明会を支える若い世代へと繋いで行く責任があります。

同窓会は、その縦と横の糸「意図」をしっかりと織りなす大切な場所です。久し振りに集う同胞の皆様と、懐かしい恩師の先生方と共に、これまでの歩みを称え合い、これからの母校の発展と、私達の絆を更に強固に繋ぐ有意義な場所と時間を提供してくれるものです。

今一度、総明会に大いなる感謝の意を表したいと思います。今から遡る事10年前、平成改元会の会報に寄稿させて頂いた同期の仲間、第2の「ふるさと」として帰郷できる「明治郡・明紫会村」に帰れば友と昔を懐かしみ、酒を酌み交わし、又気持ち良く元の生活に帰っていける、そんな場所が理想です。

今一度、基本理念に立ち返り、新たな村作りにスタートします。最後になりますが、私達「明紫会」が総明会の伝統を繋ぎ未来へ託す「伝道師」として、微力ながら尽力させて頂きます。

明々会（めいめいかい） 1976年卒 昭和51年卒 萩原 秀紀



昭和51年卒の同期会「明々会」の総会・懇親会は、7月11日（土）、清水紀夫元校長先生に出席していただき、会員26名が参加し、上野の中華「蓬莱閣」において開催されました。

我々が高校を卒業したのはちょうど50年前になるので、来年度は全員が古希以上を迎えることになります。そこで、本総会においては、来年7月の第二土曜日（7月10日）、これまでの無事な人生を神様に感謝し、今後の健康長寿と厄災消除を祈願する古稀の参拝を、神田明神において行うことが決議されました。9年前には浅草神社で還暦参拝を行いましたが、そのときを超える多くの会員が出席することを期待しています。

卒業後50年の明々会を振り返ってみると、高校時代や総明会幹事学年当時の思い出のほか、会員それぞれの仕事、家族、趣味、遊びなど様々なことを話題に盛り上がりました。昨年は、同期の物故者の紹介があったためその思い出が大きな話題になり、今年は、会員自身の「終活」が話題に上るようになりました。このようなところからも卒業して50年という時の流れを感じますが、総会に出席した会員は皆元気です。今回出席できなかった会員にも声をかけ、来年も元気に古希の参拝でお会いしましょう。

闘紺会（とうこんかい） 1985年卒 矢澤 徹 / 昭和60年卒 和田 直弘

我々の母校である猿楽町校舎で高校3年間又は中高6年間を過ごした明治高校を卒業して早41年、今年、我々の代はようやく還暦を迎えます。無事に還暦を迎えることができ、うれしくもあり、寂しくもあり、少し複雑な気持ちです。同期の皆さんお元気でお過ごしでしょうか。

明治高校も現在は調布市に広大で立派な校舎に移転し、男女共学の学校となりました。我々が猿楽町校舎で過ごした男子校時代の6年間又は3年間は、母校の思い出とともに、みんなが心の還る場所として今でも一生忘れない学び舎になっています。

今の現在地はいつでも、これから迎える未来の出発点です。過ぎてしまった過去と他人は変えることはできませんが、自分自身のことは自分の努力次第でいくらでも変えることができます。歳を重ねるにつれ、体力と気力は衰えていくばかりですが、まだまだこの先の短いようで長い人生、ますます元気で大いに楽しもうではありませんか。

令和8年7月11日（土）に予定していた同期会は、諸般の事情により残念ながら中止となりましたが、集まれずとも互いを鼓舞し合う心は一つです。今後も毎年同期会は予定しています。今回は再会が叶いませんでしたが、同期の絆を改めて再認識する契機にもなります。次回こそは、これまで参加したことがなかった方もぜひ気軽にお越しください。また、連絡のつく同期への声がけもお願いいたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

新世輝（しんせいき） 1986年卒 昭和61年卒 本間 潤



7月の土曜夕刻、墨田区石原にトックントックンと集う初老のオヤジ連中…そう、今年の弊会は8年ぶりの「鳥義」、同期柔道部・氏家君のお店です。同世代の皆さまには、紫紺祭の出店で焼き鳥をパックンパックンとおクチに含んだ記憶がおありでは?本日のメニュー、ちゃんこ鍋をメインに鳥料理をたらふくいただき、一同すっかり満腹モード。

さて二次会へ、と両国界隈を象さんのごとくさまよう十余名。500席を誇るチェーン居酒屋になぜか断られ、いよいよ絶望フラグ点灯…とその時救世主キタ〜!長いリーマン生活で鍛えた嗅覚を持つ面々、土曜夜にガラ空きのスナックを発見。80分飲み放題4千円で交渉成立って、控えめに言って神!二次会から参戦くださった恩師・柴田幹治先生も、美人ママさんとのトークにご満悦でありました。

さて来年は、幹事学年のごとく順番に訪れる還暦学年。我らがツッチー、なにやらオモシロ企画を検討中とのウワサ…ぼちぼち老後を考えるお年ごろ、職場でなんちゃらハラスメント網にウンザリの貴兄、治外法権エリアで飲み仲間を増やすチャ〜ンス! 来年は、さらにたくさんの同期が集うことを首を長くしてお待ちしております。

明猿会（めいえんかい） 1987年卒 昭和62年卒 河原田 敏之



6月27日、場所はいつもの江東区森下「桜なべ みの家」(永瀬君のお店)に同期が集結。

今年の幹事学年「明哲会」からも2人が参加、聞けば我々と同じ申年の学年（勝手な親近感）とのこと。そして昔話やら近況やらに美味しい料理とお酒が加わり楽しい時間。

その席で会報への原稿執筆を頼まれ、翌日、「俺たちも近いうちにAIに仕事取られちゃうな」と定年ちらつく年代の少し乾いた笑いを思い出し、生成AIにテーマやらを指示すると、ほんの数秒で出来上がり。

近年は仕事や家庭の状況が多様化する中でも、同期同士の交流を続けています。小規模ながら集まりを重ね、近況を語り合い、母校で過ごした日々を懐かしむ時間を持っています。社会の変化が大きい時代にあっても、明治高校で培った仲間との絆は変わらず、互いの現在地を確かめ合う貴重な場となっています。一方、母校には新しい世代が学び、未来へ向けて歩み始めています。彼らの感性や価値観はさらに広い世界へ向かい、…。一般的ながらも「そうだな」と思える内容。

猿楽町に通っていた頃には想像すらできなかったスゴイ時代になったことを実感。

最後に、今後の明哲会の発展、そして総明会総会・懇親会の盛会を祈念しております。

明魂会（めいこんかい） 1982年卒 昭和57年卒 菊池 正純



令和8年度の「明魂会」総会・懇親会は、6月27日（土）、昨年と同じく明治大学アカデミーコモン内の「カフェパンセ」にて開催しました。当日は、2つの台風が関東に接近し、開催が危ぶまれましたが、会員の普段の行いが良いためか大きな影響はなく、会員19名のほか、幹事学年「明哲会」からの2名を含め、出席者総勢23名の会となりました。

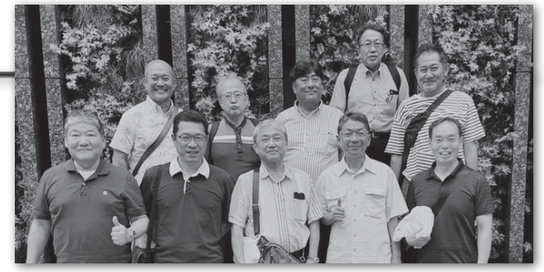
会の運営や総会・懇親会の開催に尽力してくれていた池田賢一君が、昨年の総会・懇親会から2ヶ月も経たない令和7年8月に急逝されました。賢一君は生前、何かにつけご家族に「明魂会」の話をしていたそうで、今回、賢一君のご長男が、父上の会への思いを胸に出席してくれました。

賢一君の生前の姿を偲びつつ、「どうしたら明魂会の出席者を増やせるだろうか」と熱く語っていた故人の意を汲んで、今後もしっかりと明魂会を支えていきたいと考えています。

恒例の「近況報告」では、「60歳を過ぎてから生活環境や職場環境が変わった」といった話が多く聞かれ、お互い健康に留意して頑張っていこう、と語り合いました。

また来年も、多くの会員と笑顔を交わせますように!!

明輪会（めいわかい） 1983年卒 昭和58年卒 八町 博之



令和8年7月12日（日）の明輪会総会にて、今年度から副会長を仰せつかった八町と申します。60歳まであまり明治に関わってきませんでしたが、地元に戻ったのを機に、明輪会や総明会ゴルフに参加しています。還暦を祝う会以降は、平日に同期会を開くなど、地道な活動を続けています。また、我孫子地域支部でも活動しています。

「つなぐ、つながる」にちなみ、昨年経験したことをお伝えします。大学校友会の行事で「手賀沼かっぱまつり」に出店し、明治大学グッズを販売しました。紫紺の旗をかざし、紫紺の法被を着ていたところ、宣伝をしていない中、お祭りに来られた方々から「懐かしい」「さすが明治」とお声がけをいただきました。お互い誰も知らないのに「紫紺の旗の下」に集い、つながるという素晴らしい出来事でした。

山田寿一新会長をはじめ、新役員のもと、明輪会の旗の下に同期の皆さんが集い、つながることができるよう、定年の会や年金の会など、年齢相応の新たな試みも実施し、相互親睦を図ってまいります。同期の皆様もぜひご参加ください!

また、宮浦太志前会長をはじめとする前役員の皆様にも、今後ともご協力いただければ幸いです。同期みんなで明輪会並びに我が母校を盛り上げていきましょう。

明心会（めいしんかい） 1984年卒 昭和59年卒 河原 勢朗



現役時代のつながりが強いほど、61歳になってもすぐに昔に戻れる!

それは、今では考えられないような出来事や、少々やんちゃな思い出も含め、様々な時間を共に過ごしてきた分、つながりが深いということなのだと思います。

さて、昨年の還暦祝いでの神田明神参拝から早1年。

今年は私の地元:浅草での開催。並木先生をお招きして、総勢28名が日本最古のバー:神谷バーに集まりました。司会と開会のあいさつは、卒業後東京大学へ進学した後藤君と新井君。乾杯は並木先生のご発声で、電気ブランで乾杯。ちょっとして各人の近況報告。「みんな様々なところで面白い人生を送っているな」と盛り上がりました。2次会にも国際通りのスナックで17名が参加し、大カラオケ大会で盛り上がりました。

また、我々はゴルフの会「ボーリーズ（会長:赤堀）」も定期的に開催。その成果か、渡辺君が先日の総明会コンペで優勝、ありがとうございました。

最後に、総明会役員の皆様、今年度幹事学年:明哲会の皆様に感謝を申し上げると共に、益々の総明会の盛り上がりを祈念しております。

明仁会（めいじんかい） 1991年卒 平成3年卒 山口 一郎



われら平成3年卒・明仁会は、言わずと知れた安部友己先生の門下である。卒業後も折に触れて先生の薫陶を受けてきたが、ご退任やコロナ禍の影響もあり、近年は少々ご無沙汰気味。そこで考えた。こんな時こそAIだろう、と。

AIに安部先生になりきって、同期に檄を飛ばしてもらった（扇子にまつわる逸話など、懐かしいエピソードまでは入力していないので、ご安心いただきたい）。

「おい、野郎ども！　53歳だと？　何を人生の守りに入っていやがる。世間の荒波にもまれて、礼節や男気を忘れてきた奴はいないか。白髪が増えようが、腹が出ようが関係ねえ。明治の男なら、ここからが本当の勝負どころだ。周囲への感謝と筋道を忘れず、自分の信じた道を泥臭く突き進め！」

AI、すごいな……。これ、まんま安部先生じゃね？

さて、去る7月18日（土）、安部先生と松田孝志先生、幹事学年・明哲会のお二人をお迎えし、今年も明仁会を無事開催した。久しぶりに顔を合わせた同期は皆元気そのもの。懐かしい思い出や近況報告に話は尽きず、あっという間に時間が過ぎた。最後は近いうちの再会を約束して散会。ご尽力いただいた明哲会の皆さまに心より感謝申し上げるとともに、その活動が大きく実を結ぶことを願っている。

快汗、どすこい塾（かいかん どすこいじゅく） 1992年卒 平成4年卒 小畑 啓



明哲会の皆さん、幹事活動お疲れ様です。「快汗、親方」こと小畑です。

今年のテーマは「つなぐ、つながる」。私たちが幹事を務めた2019年のテーマも「つなぐ」でした。あれから7年。今度は明哲会の皆さんが、さらに「つながる」まで広げてくれたようで、なんだか勝手に嬉しく思っています。

先日、明哲会の宮原奨伍くんが手掛ける演劇プロジェクト「つかこうへいを知る旅」に、少しだけお手伝いをする機会がありました。私はグッズ制作で関わらせていただいたのですが、宮原くんは舞台公演だけでなく、関係者へのインタビューや書籍紹介などを通じて、つかこうへい作品やその哲学を次の世代へ伝えようとしています。まさに「知る旅」ですね。

そして原稿を書いている今、宮原くんはNHKのサッカーワールドカップCMに出演中です。テレビを見ながら勝手に親戚のおじさん目線になっています。

振り返ると、同窓会ってこういうことなんでしょうね。卒業したら終わりではなく、ときどき思いがけない形で線がつながる。我々の代のお化け屋敷もいまだに語り継がれて……はいませんね。少なくとも宮原くんの舞台の方が、よほど後世に残りそうです。

明鐘会（めいしょうかい） 1993年卒 平成5年卒 横尾 克久



本年のテーマにあたり、投稿の機会をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。幹事学年の皆様、大変お疲れ様です。

明鐘会は変わらず、よく交流（＝飲み会）しています。地域や趣味ごとの集まりもさらに広がり、それぞれのペースで心地よく続いているのが、なによりうれしいところです。最近では、一部メンバーの間で釣りやお菓子作りなど、新たな趣味もじわじわと広がり始めています。特に釣りは、釣った魚をきちんと食べるという、自然からいただいた命をありがたくいただく楽しみ方で、思いのほか奥深い世界になっているようです（笑）。

昨年は三鷹会をご紹介しましたが、今年は大袋会の勢いがさらに増している話題から。開催回数を重ねるごとに参加メンバーも広がり、明鐘会を代表する集まりの一つとなりつつあります。そこから派生した「南越谷会」も着実に回を重ね、独自の盛り上がりを見せています。集まれば近況報告と昔話、そしてなぜか毎回同じ話題で盛り上がる不思議な安定感。もちろん、細かい内容は翌日にはほとんど覚えていないのですが（笑）。

卒業33年、52歳を迎える今年。健康に気をつけつつ、近いうちにまた元気にお会いしましょう。

昭和戊辰乃会（しょうわぼしんのかい） 1988年卒 昭和63年卒 石田 昌義



昭和戊辰乃会 同期会を開催しました!

6月13日(土)、山田伸夫先生と柴田幹治先生をお迎えし、八丁堀の「桜橋丸屋」さんで同期会を開催!丸屋さんのご厚意で貸し切りにしていただき、20数名の仲間と最高の時間を過ごしました。

毎年集まるたび、一瞬であの昭和の時代にタイムスリップ。最後はエールと校歌の熱唱で、最高潮の盛り上がりのまま幕を閉じました。

昭和で言えば今年は101年目。昭和最後の卒業生として、これからもこの絆と昭和の思い出をずっと繋いで行こう!

来年も再来年も、みんなで元気に集まりましょう!よろしくお願いします!

平成改元会（へいせいかいげんかい） 1989年卒 平成元年卒 田中 潤二



いよいよ四捨五入すれば還暦。我々は“アラカン”と呼ばれる年齢に差しかかり、いい具合に枯れてきました。

「終幕を意識し始めたとき、人は過去を振り返るようになる」先日読んだ心理学の本には、そんな言葉が記されていました。読んだ瞬間、「まさに今の自分だ」と思い、なるほどと腑に落ちました。

実際、最近の自分の心に去来するものと言えば…。選んだ道、選ばなかった道。挑戦したこと、できなかったこと。成し遂げられなかった思い、今でも胸が痛む選択。ふとした時間に、さまざまな記憶が静かに浮かび上がってきます。

そんな中で、10年ほど前にこの同期会に参加し、今の役割を担ったことは、自分の人生の中で思いのほか大きな意味を持つ出来事だったと評価しています。だからこそ、年に一度の同期会と総明会の総会を、心から楽しみにしています。

もしよければ、皆さんもこの同期会に参加して、“ライフレビュー”をしてみませんか。

過去を見つめることは、未来を照らすことでもあるのです。来年5月最終週（前後の週末）、一緒に今までとこれからを語らいましょう。なお2026年の様子はQRコードをご覧ください。

明愛会（めいあいかい） 1990年卒 平成2年卒 吉田 信彦



夜、机に向かって仕事をしていると、昔勤めていた損保会社の同期から、会社を退職するという知らせがグループチャットに入った。私は明治大学を卒業してから十三年半ほど損保会社に勤め、その後会社を辞め、今は弁理士として仕事をしている。会社を去ってからずいぶん経つが、ありがたいことに、今でも同期のグループチャットの末席に加えてもらっている。

その知らせを読んで、私はしばらく手を止めた。なぜ、今になって退職するのだろう。考えてみると、私が勤めていた損保会社では、五十五歳で役職定年を迎えることになっていた。その節目に会社を辞め、第二の人生を歩もうとしているのだろう。

私は明治中学から明治大学を卒業するまで、都合十年間、明治に世話になった。あのころの私は、自分が社会の中をどのように泳いでいくのか、まるで見当がついていなかった。その自分と同じ時代を歩いてきた者たちが、今や社会人生活に一区切りをつけ、次の人生へ進もうとしている。

社会に出たばかりの頃は、これくらいの年齢がどこかゴールのように思えていた。けれども、いざ自分がその年齢に近づいてみると、案外、普通に忙しい日々が続いているし、まだ体を動かせる。それはそれで、悪くない。

紫雲会（しうんかい） 1997年卒 平成9年卒 小谷 健志



一昨年、幹事学年の大役を終えて「ここから本当の同期会が始まるんだよ」と諸先輩方に言われ、当時は理解がおよびませんでしたが、ようやくその意味が分かった気がします。

今年48歳となる学年、12年を一回りとすれば人生5巡目に入る年波で、身体にもガタが来るようになりました。かくいう自分も「フッ軽」を取り柄に精力的に活動していますが、昨年は出張中の鹿児島で倒れて救急搬送され、総明会の懇親会を欠席しました。学生時分に机を並べた同窓は一生の宝。会えるときに会っておかないと。その気概で毎年同期会を続けることを誓い直しました。

8月14日（金）、熊本の大地震、千葉の豪雨と自然災害が続く中、心穏やかなお盆ではありませんでしたが、同期12名が新宿に集まりました。昨年の中学3年間の学年主任・安部友巳先生に続き、今年は高校3年間の学年主任で「紫雲会」の名付け親でもある山田伸夫先生をお迎えし、旧交を温めました。

また、幹事学年「明哲会」から式典委員長の山岸裕也さん、ゴルフ委員長の白川誠さんにもご参加いただきました。11月の総会・懇親会は2年ぶりに調布の本学で開催とのこと。もちろん参加し、当日の盛会を祈念しています。

紫98倶（しくはっく） 1998年卒 平成10年卒 椎名 俊仁



7月31日、明治大学リバティタワー側にある中華料理店「一正」にて、今年度の同期会を開催いたしました。

今回は、昨年度幹事学年として同期会を大きく盛り上げ奮闘してくれたメンバーのみならず、昨年度は残念ながら参加できなかったメンバーも含め23名が参加。さらに大変嬉しいことに、恩師である前島先生と由井先生にもご出席いただくことができました。

多くのメンバーとは前回の開催から約半年ぶりの再会となりましたが、店内に足を踏み入れれば一瞬で当時の空気に戻ってしまうのが同期の心地よさです。美味しいお酒と料理に舌鼓を打ちながら、思い出話や近況報告に花を咲かせ、会場は終始にぎやかな笑顔で満たされました。恩師のお二人を囲んで語り合うひとときは、変わらぬ温かさに触れることができ、胸が熱くなる時間となりました。

懐かしさに浸りつつも、楽しいうちに宴はあっという間に終了。高校時代からの変わらない絆の深さを再確認できた、熱い一夜となりました。

今回参加いただいたメンバー、そして何よりご出席くださった先生方に心より感謝申し上げます。また一年後、同期の皆と笑顔で再会できる日を楽しみにしております。

明哲会（めいてつかい） 1999年卒 平成11年卒 石川 一仁



総明会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。平成11年卒明哲会の石川一仁です。去る4月8日に幹事学年運営メンバーの顔合わせでお茶の水に行きました。卒業以来の同期と再会し、当時の懐かしい思い出を語り合いました。

明哲会は幹事学年ですが、私は諸事情あり運営へはほとんど参加できておりません。そこで、一歩引いた目線で、幹事学年の意義について考えてみました。効率性や即効性が求められる現代社会において、幹事学年の運営は驚くほど泥臭く、手弁当の奉仕で成り立っています。年齢も職業も異なる諸先輩方のお力を借り、利害関係のいっさいない「母校」という共通点だけで集まり、知恵を絞り汗を流す。その姿は、一見すると不条理のようでありながら、実は非常に贅沢で純粋な人間関係の営みであると感じました。世代を超えた参加者が交わす言葉の中に、単なるノスタルジーではない、互いを認め合う緩やかな連帯感があります。こうして代々の幹事学年が守り育ててきた総明会は、卒業生が「つながる」場になっているのです。この泥臭く温かい繋がりを、時代に応じて変化させながらも維持し、次世代へ「つなぐ」こと。それこそが、私たち幹事学年の存在意義なのだと、運営に臨む同期の姿を見て、今改めて実感しています。

隆明会（りゅうめいかい） 1994年卒 平成6年卒 三保谷 建介



2021年、私たち隆明会は幹事学年として総明会総会の運営を担当いたしました。

当時はコロナ禍の真っただ中で、先行きが見えない中、試行錯誤を重ねながらオンライン開催という今までに無い形に挑戦したことが、今でも鮮明に思い出されます。

あれから5年。現在の隆明会は、グループLINEを通じた日々の交流をはじめ、飲み会に加えてゴルフや登山など活動の幅も広がり、同期の絆は年を重ねるごとに深まっています。

幹事学年として共に汗を流した経験も、今のつながりを支えるとても大切な財産になっていると改めて実感しています。

今年のテーマ「つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地～」は、私たちにも大変共感できるものです。

総明会は母校とのつながりだけでなく、人と人との縁を育み、新たな交流へと広がっていく場でもあります。

その積み重ねが、世代を超えたこの会の魅力につながっているのではないでしょうか。幹事学年を務める明哲会の皆さんは、準備や調整などご苦労も多いことと思います。

しかし、その経験はきっと同期の皆さんにとってかけがえのない財産になります。

総会・懇親会の成功を心よりお祈りするとともに、益々のご活躍を期待申し上げます。

紫縁会（しえんかい） 1995年卒 平成7年卒 森平 伊織



早いもので幹事学年から4年の月日が流れました。今年の紫縁会同期会は、同期の金子敦史さんが大学4年間アルバイトをしていた新宿プリンスホテルで7月11日に松田先生をお迎えして開かれました。今年は、参加者が12名とちょっぴり寂しい会になりましたが、和やかな雰囲気の中で、旧交を温めました。幹事学年も来臨いただきありがとうございます。（人数が少なかったので寄付が集まったのか心配です。）　会の締めは、いつも通り、藤田央さんのリードによる校歌を斉唱しました。（ホテルの方も明治大学の学生さんで、一緒に歌いたかったそうです。世間は狭いですね。）

今年は、同期会だけでなく総明会ゴルフコンペに備え、事前にゴルフ会を開催しました。ぎっくり腰で私は残念ながら参加できませんでした。秋もゴルフ会開催の声が上がっています。

紫誠会（しせいかい） 1996年卒 平成8年卒 関川 明生



今年も締め切りをしっかり過ぎて、うんうん唸りながら原稿と向き合っている関川です。さて、本校同窓会組織である総明会には20名の理事がおります。その理事として同期の宮嶋優光君と小林達也君、酒井康生君の3名が選ばれ、このボランティア活動を献身的に支えています。さらに役員として参加している同期も。思春期が恋しくなりましたら、ぜひ総会・懇親会に顔を出してください。同期や恩師とつながるチャンスです。先生方は定年退職が間近となり、学校での教師姿を見る最後のチャンスかもしれません。

昨年は定年退職を迎えられたばかりの吉田重幸先生をメインゲストに、粟野哲也先生や西村英之先生、山口弘先生もお迎えし、張春穎君の御実家の「銀座東興楼」で同期会を開催いたしました。吉田先生の名言「OK VERY GOOD!!」のタオルを製作し、山崎政彦君のリーダーで校歌斉唱するなど、騒がしくも楽しい一夜となりました。同期会の情報はLINEで流しています。ぜひ参加を!（現在、85名まで増えました）

以上、「つなぐ、つながる、明治高校」をお題に一席御披露いたしました。私も先日男の子を授かり、次につなぐことが出来ました。親業の先輩の皆様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

応援指導班OB・OG会　幹事長　三谷 知弘 平成6年卒


新団旗

本年度の幹事学年「明哲会」の皆さまにおかれましては、第62回総明会活動にご尽力いただき、誠にありがとうございます。本年も総会・懇親会が開催されることにつきまして、大きな喜びを感じております。

さて、我々応援団OB・OG会より、総明会会員の皆さまに2点ほど報告がございます。

1点目は、本年6月21日（日）に開催しました定時総会において会則を改定し、会の別名・略称を名誉顧問である山田伸夫先生より命名いただきました**「紫紺乃会（しこんのかい）」**といたしました。

2点目は、現役活動において50周年団旗が経年によりその役割を終え、新たに学校にて団旗を新調しております。3月25日に50周年団旗の抜魂と新団旗の入魂を神田明神にて執り行った上で、去る4月1日の春季東京都高等学校野球大会にて、その雄姿を初披露しております。

皆さまも、是非野球応援や紫紺祭、紫紺の下になどに足をお運びいただき、新団旗をご覧ください。

それでは、皆さま、来たる11月22日に母校で行われる総明会総会・懇親会にてお会いしましょう!昨年の懇親会では、サプライズのレア曲として「仰げば栄冠」を披露いたしました。今年も皆さまの明治魂に触れる何かを!と、弊会役員で飲んだ際に相談しておりますので、お楽しみにしていただければ幸甚です。最後は皆さまと声高らかに校歌を斉唱できることを、心より楽しみにしております。

吹奏楽班OB・OG会　福田 哲史　平成7年卒



今年も熱い熱い吹奏楽コンクールの夏がやってまいりました。

8月11日（火・祝）、第66回東京都高等学校吹奏楽コンクールA組の部において、吹奏楽班は鈴木正人先生の指揮のもと、自由曲にS.プロコフィエフ作曲「ロミオとジュリエット」を演奏いたしました。筆者も33年前、高校Ⅱ年生の時に同じ曲をコンクールで演奏しており、思い出深い曲です。当時とはまた違った素晴らしさを感じさせる演奏でしたが、結果は惜しくも銀賞となり、都大会本選進出はかないませんでした。

続いて8月14日（金）には、当班OGの野田みなみ先生の指揮のもと、C組の部にてF.エリクソン作曲「序曲祝典」を演奏。中学生や初心者を中心としたメンバーが素晴らしい演奏を披露し、金賞を受賞しました。双方の演奏ともに「明治サウンド」を十二分に感じ取る事ができました。

鈴木先生のご指導のもとでのコンクール出場は次回がラストとなり、定期演奏会も残すところあと2回。次回こそ有終の美を飾っていただきたいものです。定期演奏会はクラシック音楽に詳しくない方でも楽しめる内容となっておりますので、ぜひご来場ください。

また、本稿をお読みの若いOB・OGの皆さん、ぜひこれからのOB・OG会に力を貸していただければと思います。

放送班OB・OG会　宮田　健　昭和57年卒



放送班OB・OG会のうち、故田村晴彦先生に教えを受けた有志（田村会）で、毎年命日の5月17日に近い5月第3土曜日、田町駅前に16時集合と決め、先生の眠る港区三田の長久寺へ墓参りと懇親会を行っています。

今年は5月16日。田町駅前に集まったのは、今年度幹事学年の銭谷君、森田君を含め10名。最近少しだけ下の世代にも広がる傾向は続き嬉しい限りです。毎年のメンバーに、久しぶりのメンバー、幹事学年と、一年ぶりでも初対面でも同窓会らしく一瞬で打ち解け、賑やかに話の花を咲かせながらお寺に向かいます。

お墓を掃除しながら今年が37回忌であることに気づきました。もうそんなになるんだなぁ。お墓を綺麗にした後は、それぞれに先生への報告や想いを胸にお参りしました。

墓参のあとは恒例の懇親会へ。長久寺の裏の下町だった所は再開発で通行できなくなり、少し回り道をしながら麻布十番へ。完成する令和10年にはどんな景色がみられるのか楽しみです。懇親会も楽しい時間はあっという間。毎年この楽しい時間を作っていただける故田村先生に感謝しつつお開きとなりました。

次回は令和9年5月15日（土）です。田村先生にゆかりのある方は、いきなりのご参加でも結構です。お待ちしています!

明寅会（めいとらかい）　2005年卒 平成17年卒　室井　純



明治高校2005年卒業生237名は、中高6年間を御茶ノ水の旧校舎で過ごしました。男坂を上り下りし、運動部は大回りで身体を鍛え、文化部は好きなことに打ち込み、帰宅部はよく学びよく遊んだ、まさに「ザ・男子校」の世代です。卒業式では全員が壇上に上がり、校歌を斉唱したことも忘れられない思い出です。

卒業から20年を迎えた2025年、高校軟式野球部の福田賢治さんを発起人に、当時のクラス幹事と有志9名で同窓会開催に向けて動き始めました。大規模な同期会は初めてだったため、途切れていた連絡先をたどりながら、同期の「つながり」を一つひとつ結び直していきました。

そして7月18日、リバティタワーの宮城浩蔵ホール・岸本辰雄ホールに、同期76名と、山口弘先生、由井将雄先生、矢田理世先生、吉川末恒先生の4名をお迎えし、総勢80名で盛大に開催することができました。会の名称は、明治の「明」と、私たちの世代にあたる36年に一度の「五黄の寅」にちなみ、「明寅会」と決定しました。

40代を迎えた今、明治で育まれた絆の温かさを改めて実感しています。今回参加できなかった皆さんも、次回はぜひご一緒ください。

2023年卒 令和5年卒　香阪 成洸

私たちも大学四年生になりました。中学から明治に通う私は、今年で明治一筋十年目を迎えます。十二歳で明治中学校に入学した私も、気がつけば二十一歳になりました。

入学前の私は、幼く気弱な性格でした。しかし、「朱に交われば赤くなる」という言葉があるように、この十年間で高貴なる紫紺に染まり、以前先生方にお会いした際には「大人になったね」とお声をかけていただきました。

同期の多くも就職活動を終え、最近では「明明飲み」が私たちの代の流行りになりつつあります。これから全国各地へ羽ばたく者も少なくなく、皆で集まれる機会はそう多くありません。そのため、一度一度の集まりをみんなが大切にしています。久しぶりに顔を合わせる同期は、学業や就職活動に真剣に取り組み、それぞれが立派な大人へと成長していました。明明時代、あれほど一緒に馬鹿なことをしていた仲間たちが、いつの間にか頼もしい社会人の顔つきになっていることに、時の流れを感じます。

私事ですが最近、高校時代に付き合っていた恋人と四年ぶりに再会しました。まるで、幼い頃に大切なものを詰め込んでしまっておいた宝箱を、部屋の片づけをしている最中に偶然見つけた時のそれでした。

少し埃をかぶったその宝箱を開けた瞬間、当時の思い出や記憶だけでなく、その頃の空気や温度までもが鮮やかによみがえりました。

明治中学・高校で何気なく過ごした日々も、振り返ってみれば、その宝箱にそっとしまっておきたくなるような大切な思い出ばかりです。しかし、時が経つにつれて、その宝箱をどこにしまったのか忘れてしまうこともあります。

だからこそ、そんな時はみんなで「明明飲み」を開き、それぞれの心の中にある宝箱をもう一度開けられたらいいなと思います。

生徒会本部 平成有志の会　森平 伊織　平成7年卒



こんにちは。紫緑会の生徒会本部OB森平です。「生徒会本部 平成有志の会」は、紫緑会での総明会幹事学年の活動を通じて、紫緑会の中の生徒会本部OB櫻井さん、春日さん、清水さん、森平で、生徒会本部で集まりたいねということで、先輩・後輩方にお声がけし、スタートした会です。平成2年度卒の先輩から平成12年度卒の後輩に参加していただいています。

念願である我々世代付近で生徒会本部の顧問や生徒指導主任として、また顧問を退任されてからも合宿に帯同していただくなど大変お世話になった元副校長の田中徹太郎先生をお招きしてのOB会を7月に開催予定でしたが、あいにくの台風接近に伴い、延期を余儀なくされましたが、秋再度調整して開催予定です。

平成有志の会にご参加いただける方は、下記にご連絡いただければと思います。

櫻井 勝也（平成4年度、平成5年度生徒会本部会計長）
sakuraikatsuya22@gmail.com

森平 伊織（平成4年度生徒会本部総長、平成5年度生徒会長）
kui.morihira@gmail.com

スキー部OB・OG会 明雪会（めいせつかい） 事務局長　南谷 吉貴　平成6年卒

平成11年卒「明哲会」の皆様におかれましては、日頃より実行委員会の諸活動にご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

我がスキー部は1951年の創部以来、本年で76年目を迎えました。これもひとえに、学校、教職員の皆様、現役部員、保護者の皆様、そして諸先輩方の温かいご支援の賜物と深く感謝しております。

現役時代を振り返りますと、冬・春合宿は志賀高原、中学夏合宿は月山、高校夏合宿は立山で行われました。体力錬成を兼ねてゲレンデを自らの足で上り、一本一本を大切に滑った日々、また残雪を求めて長い道のりを歩み、先輩方の板も担ぎながら厳しくも温かいご指導を受けた経験は、今なお忘れ得ぬ思い出です。そうした日々を通じて培った忍耐力や規律、先輩・後輩の絆は、卒業後三十余年を経た今も公私の礎となっております。

時代は移り、現役部員はサマーゲレンデ等で練習に励んでおりますが、後輩を思う諸先輩方の温かな伝統と強い絆は、今も変わることなく受け継がれております。

明雪会では、新年会、暑気払い、総会・懇親会、忘年会、ゴルフ会（年二回）を開催しております。今後も若いOB・OGが参画しやすい環境づくりに努めてまいります。本年も皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。結びに、スキー部の永続と発展を支えてくださるすべての皆様に、厚く御礼申し上げます。

ソフトテニス部OB・OG会 山形 厚生　昭和48年卒



ソフトテニス部OB・OG会は、毎年秋に母校のコートに集結して現役学生と共に交流試合を行い、その後総会及び懇親会を開催して参りましたが、コロナ禍により中断され、以後活動が滞り現在に至っておりました。そこで、今後の活動方針を検討すべく総会を本年4月4日(土) 17:00 より新宿かどやホテル 会議室 で18名の参加者にて開催しましたので、ご報告させて頂きます。

議題

1 会の在り方及び規定について

2 運営について

3 現在の残金が尽きた場合の対応

4 役員改選について

従来同様の活動をしても、参加者は限られたメンバーしか見込めない為、各年代の有力者を中心として集いを企画して親睦を深めて頂き、上下の連絡が必要な場合にOB・OG会事務局にご連絡下さい。新たに役員は選任せずに事務局中心に進める事と致します。

現在事務局で把握している名簿は、平成31年卒までの約300名で、それ以降は個人情報の関係で学校より収集できていません。

これを機に、今後本会の連絡を電子化したく、本文をご覧になられたソフトテニス部すべてのOB、OGの皆様、下記事務局リンク先にご連絡お願い致します。

https://forms.gle/vQexzZrPFWovQ7jh9
E-mail: meijihs.stc.obog@gmail.com

バレー部OB・OG会 事務局長　樋田 哲次　昭和52年卒

皆さん、こんにちは。私は、バレー部OB・OG会の事務局長を務め、名簿を管理しています。また、52年卒同期の名簿も管理しています。一番忙しくなるのは、訃報の連絡です。

特に、昨年から今年にかけて、バレー部OBの逝去が相次ぎ、悲しい日が続きました。昭和27年卒の長坂進氏、同30年卒伊藤寿氏、同32年卒当間堅一朗氏のレジェンドの方々です。また、最近のOB・OG会を推進していた同40年卒飯田宏氏、同56年卒安蒜信夫氏、そして前顧問の故松枝先生の奥様、好子様の逝去も続きました。

最近の訃報連絡は、電話ではなく、メールの送信やLINEの投稿、総明会の掲示板への投稿などで行っています。当間氏は大学バレー部でも活躍されたので、大学バレー部のHPに投稿すると、マネージャーさんからお礼メールも届き、新たな人の輪のつながりも感じました。



この原稿を書こうとしたとき、後藤先生の訃報が届き、バレー部だけでなく同期にも知らせました。すると、お礼の返信も多く、遣り甲斐を感じ、思い出話に花が咲き、涙が溢れました。明治高校卒業生でよかったと実感する時です。

写真は、昨年9月16日に行われたOB・OG会でのバレーボール大会の時のものです。

剣道部OB・OG会 見心会（けんしんかい） 幹事長　嶋田 茂之　昭和61年卒

今年度より「見心会」の幹事長を務めさせていただくことになりました、昭和61年卒の嶋田茂之です。歴史ある本会の幹事長を務めることとなり、その責任の重さに身の引き締まる思いでおります。

私自身、現在は竹刀を握ることから遠ざかっておりますが、母校の剣道部で汗を流し、仲間とともに切磋琢磨した日々は、今も色あせることなく、私の原点として心に刻まれています。時代が移り、生活や環境が変化しても、あの道場で培った絆や精神は、世代を超えて変わらず受け継がれていると感じます。

卒業後も稽古を重ねていらっしゃるOB・OGの方々はもちろん、私のように20年以上竹刀を握っていないOB・OGの方々も、同じ見心会の仲間として交流できる機会を増やし、より活発な活動につなげていきたいと考えております。

現役生たちが安心して日々の稽古や試合に打ち込める環境を支えるとともに、OB・OGの皆様が世代を超えて気軽に集い、思い出や近況を語り合える、温かく活気あふれる会を目指して、さまざまな活動を行ってまいります。

皆様のご参加を心より楽しみにしております。

見　心　会

明治高校剣道部OB・OG会

会　長	鈴木　幸男	副幹事長	石戸　謙二
副会長	木村　　茂	会　計	須志原法和
幹事長	嶋田　茂之	監　督	中山　　将

硬式野球部OB・OG会 明球会（めいきゅうかい） 篠田 守建　平成元年卒

―母校と歩むそれぞれの現在地―



白球を追いかけた日々は、終わったはずであった。中学・高校と身を置いた野球部。大学では学生監督・コーチとして母校に立ち続けた。しかしその後の20代は、資格試験への挑戦が実を結ばず、塾講師として生活をつなぐ日々であった。同期に励まされながらも、社会に踏み出せない焦りと挫折を抱え、いつしか母校との縁も遠のいていった。

転機は30代である。同級生が差し伸べてくれた手によって転職し、その後、縁あってインフラ企業で街づくりの仕事に携わることとなった。試行錯誤を重ねながら20年。ようやく、自分自身の歩みを少しずつ肯定できるようになった気がしている。

そして今、再び母校とつながっている。先輩から声を掛けていただき、野球部OB会広報に携わることとなった。SNSでの情報発信や支援体制の整備を進める中で、OB同士もまた「つなぐ・つながる」ための挑戦を続けている。夢を追いかける後輩たちの力になれればと思う。

途切れたように見えた縁も、どこかでつながっている。母校という原点を通じ、それぞれの現在地が再び交差し、未来へと紡がれていく。その一端に関われることに感謝している。

水泳部OB・OG会 明水会（めいすいかい） 折原 忠夫 昭和58年卒

プールのない水泳部、当初衝撃的でした。

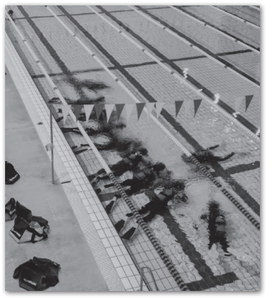
下校後、毎日のように千駄ヶ谷まで電車移動し、東京体育館屋内プールで泳いでいました。

当時の水泳部は上下関係がしっかりしており、その後の人間関係形成にかなり役立ちました。「先輩から教わり、そして後輩へ伝える!」

その後、明治大学へ進学し昔からの夢であったダイビング部へ入部しました。こちらは水泳部以上の上下関係でしたが、明治高校での部活が役に立ちました。

縁あってプロの道を目指すことになり、大学3年の時にスクーバダイビングのインストラクター資格を取得し、スポーツクラブのアルバイトでダイビングの指導をしていました。

そこに母校明治高校の恩師が2名受講しに来て、そのことを授業で話したそうです。



それを聞いた明治高校水泳部の後輩が大学へ進学し、ダイビング部へ入部するという流れが生まれ、今もそのつながりは続いています。

私は現在もダイビング部の指導を続けており、明高水泳部の後輩も多数入ってきています。そんな100年以上続く伝統ある水泳部も来年度廃部となります。

写真は令和8年6月明治大学和泉校舎の室内プールでの指導風景です。

地理研究部OB・OG会　川村 一人　平成10年卒



2026年3月22日、明治大学駿河台キャンパスの教室をお借りし、地理研究部OB・OG会を開催しました。今回は、3月末で定年退職された三代目顧問・由井将雄先生の最終講義とご退職を祝う会を兼ねての開催となりました。

当日は、現役部員による直近3年間の合宿での研究成果の発表もありました。現役部員からは、楽しい「地理研ライフ」を送っているという発言もあり、我々OB・OGにとっても嬉しい活動報告となりました。

由井先生による最終講義（つぶやき）は、「なぜ地理学徒になったのか」「行ってみたいなよその国」「地理研とともに30年」をテーマに、由井先生のライフワークである火山研究と、地理研顧問として指導された30年を、撮りためた沢山の写真や地図とともに振り返る内容で、時折話が脱線しながらも終始笑いありの最終講義でした。

その後、場所をホテル東京ガーデンパレスに移し、明治高校社会科との共催による由井先生ご退職を祝う会が終始和やかに執り行われました。

2026年度からは、地理研OBでもある四代目顧問・和田康喜先生のご指導の下、由井先生のモットー「行って観て考える」を継承しつつ、更に素晴らしい地理研ライフを後輩達に繋げていくことを願っています。

歴史研究部OB・OG会　事務局　山下 征隆　昭和63年卒

1947年の創部から約80年になる我が歴史研究部は、2年ぶりとなるOB・OG会を今年7月18日に開催しました。今回も二部制の形式を取り入れ、第一部は、明治大学の教室にて現役生による研究発表、第二部は紫紺館椿山荘にて懇親会を開催。新旧OB・OGたちが親交を温める場としました。

文化部の雄である歴史研究部として特色が色濃く出たOB・OG会を開催する事が出来ました。

現役生により発表された内容はどれも研究論文の域に達するような内容で、中学生高校生による発表とは思えないほど、高度なものでした。発表後も出席者との間に活発な質疑応答が交わされ盛会のうちに閉幕しました。

今回は、第一部・第二部ともに粟野先生、田中先生をはじめ42名の若手から大先輩まで、幅広い年齢層のOB・OGに参加していただく事ができました。特に若手の参加率が高く、また



幹事会に携わってくれる若手も現れ、会として良い意味での新陳代謝が活発になってきたことを強く感じることができました。

歴史研究部OB・OG会としては、今後も現役生による活発な部活が継続されることを心から願うと共に、我々OB・OG会が先輩、後輩間の橋渡しができる存在としてあり続けられるよう今後も活動してまいりたいと思います。

高校山岳部OB・OG会 明山会（めいざんかい）　（設立準備中）　林　直幸　平成9年卒



明治高校山岳部の顧問を長く務められていた大変に人望の厚い山口弘先生と小柴仁美先生の下に山岳部OBが再び集い、平成5年卒明鐘会の阿部先輩を中心にこの度山岳部OB・OG会「明山会」の立ち上げを準備する運びとなりました。

高校山岳部は活動の危険度から文字通り高校からの部活で、北岳・奥穂高岳・槍ヶ岳・八ヶ岳・飯豊山など日本アルプスほか天下の秀峰名峰の頂を数多踏破するという苛酷極まりない部活動であり、日々のトレーニングも皇居周りや男坂をゆっくり激走する他、険しい山岳地帯での生命維持と栄養補給のために生徒ホール裏で美味しいお料理を作る練習にも余念がありませんでした。

そんなOB達が今夏、久しぶりに集まり、山口先生と楽しい登山談義に興じ、大いなる山岳への思慕を再確認することが出来ました。

これを機に旧交を温めさらなる縁を拡げて参りたいと思いますので山岳部OB・OGは総明会HPのリンク集より事務局までご連絡下さい。共に白雲なびく稜線と雲海に再び想いを馳せましょう。

フェンシング部OB・OG会　中村 信也　昭和45年卒

＜後藤朋智先生とフェンシング部＞

フェンシング部元顧問の後藤朋智先生が3月にご逝去（94歳）されたとの訃報が今年6月に入りました。最近はOB・OG会に出席していただけず心配しておりましたが、訃報をお聞きし非常に残念に思っている一人です。

後藤先生は昭和35年頃から昭和47年頃までクラブの顧問として、大会や合宿の帯同等、長きに亘りクラブを支えていただきました。その間、同好会から部への昇格、高校総体や関東大会での優勝等、輝かしい成績を収めることができました。

ところで学生時代に後藤先生のご自宅を2回もお邪魔したのは多分、我々の代ぐらいではないでしょうか。1回目は昭和44年の関東大会が柏市の高校であり、後藤先生のご自宅が高校近くの豊四季団地でしたので、お邪魔しジュース等をいただきました。そして2回目は昭和45年3月の卒業後、読売ランド前駅近くに引っ越しされたご自宅に押し掛けて、奥様の手料理とドリンクをご馳走になったことを今でも鮮明に記憶しております。



令和8年3月は10年前に復活を果たしたフェンシング同好会が廃部となり、くしくも元顧問の後藤先生も亡くなられたことには深い感慨を覚えます。

あらためてご冥福をお祈りいたします。

陸上競技部OB・OG会　銭谷 俊宏　平成11年卒

OB・OGの皆さまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。陸上競技部OB・OG会では、20代から40代のメンバーを中心に、駿河台・調布世代の交流を深めることを目的として活動しています。2024年には新宿で懇親会を開催し、世代を超えた交流を楽しみました。今年2026年も開催を予定しており、現在日程を調整しております。

今回は、陸上競技部創立の立役者のお一人である大先輩が東京へ戻られたこともあり、ご勇退後の上小牧先生にもご参加いただき、久しぶりに皆さんで集える機会になればと考えています。

上小牧先生は現在、YouTubeで数学講座を配信されており、すでに46本もの動画を公開されています。当時の授業を思わせる板書や軽快な語り口はそのままで、動画を見ていると学生時代を懐かしく思い出します。数学が苦手な中学生・高校生にも分かりやすい内容ですので、お子様の学習はもちろん、ご自身の復習や「先生の授業が懐かしい」という方にもおすすめです。ぜひ「【中学/高校】鞠本先生の数学レッツゴー」をご覧ください。

また、陸上競技部OB・OG会では、卒業後も交流を続けられるようLINEグループを運営しています。2028年のロサンゼルスオリンピックの年には、さらに多くのOB・OGが集えることを願っております。まだご参加いただいていない方は、ぜひお気軽にご連絡ください。

【実行委員会・問合せ先】

櫻井 勝也（平成7年卒）	**sakuraikatsuya22@gmail.com**
瀧澤 我路（平成14年卒）	**g8121229t@gmail.com**
吉田　遥（平成23年卒）	**kinawowow@gmail.com**

バスケットボール部OB・OG会　中村 茂一　平成10年卒

私たちの恩師である谷伸彦先生が、1996年4月に明治大学付属明治高等学校・中学校へ赴任されてから、今年で教職生活30周年を迎えられました。長年にわたり、変わらぬ情熱でバスケットボール部をご指導くださった先生への感謝を込め、2026年2月28日（土）、アルカディア市ヶ谷にて記念式典を開催しました。

当日は、先生のご指導を受けたOB・OGから大学生まで総勢97名が集まりました。式典では前島先生より、谷先生の人柄と指導の積み重ねを称えるスピーチをいただき、続いて登壇された谷先生は、「バスケットボール部の第一印象はとにかく元気がよい。そして、ここまで先輩後輩や同期のつながりが強い部活は他にない。その一員として携われたことが何よりの喜びです」と穏やかな笑顔で語られ、会場は大きな拍手に包まれました。



その後、各学年代表が思い出を語り、先生との多くのエピソードが披露されました。会場全体が温かな空気に包まれ、改めて谷先生とバスケットボール部の深いつながりを感じる会となりました。OB・OG会ではFacebook等で試合予定や結果を周知しております。ぜひ応援に足を運び、後輩たちへ温かい声援をお願いいたします。

ヤマダ大感謝祭

大掛 勇人　平成６年卒

来年度のヤマダ大感謝祭の予定は下に掲出されている広告をご高覧ください。(2027年4月24日(土)開催予定)

本年度の幹事学年「明哲会」の皆さまにおかれましては、総明会活動にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

ヤマダ大感謝祭も今回で第13回。参加者の高齢化には歯止めがかかりません(あ、私もか)。とはいえ、皆さんまだまだご壮健。

山田先生が挨拶に立ち、相変わらずの怪気炎を上げれば、先生と共に闘った戦友たち、薫陶を受けた教え子たちから、愛あるツッコミが飛び交います。かつてのわんぱく小僧たちは、あの頃の勢いそのまま。会場は大騒ぎです。声が枯れている人もいれば、疲れて寝ている人もいる始末。

あっという間に時間は過ぎ、宴の最後は恒例、全員で肩を組んで校歌を斉唱。終始大盛り上がりとなりました。っていうか皆さんホントにお元気ですね。私があの年になっても、あれだけ飲んで食って騒げるのだろうか。あのエネルギーは、もはや伝説的存在です。ユニコーンかも。

あ、私の記憶も曖昧ですので、多少の脚色がありましたらご容赦ください。

こうして毎年笑顔で集まれるのも、山田先生が築いてくださったご縁の賜物です。先生、いつまでもお元気で。また来年も、皆さんで大笑いしましょう。来年の大感謝祭も、皆様のご参加を心よりお待ちしております。





ヤマダ大感謝祭

4月の第4土曜日

第14回は令和9年(2027年)4月24日(土)開催予定
楽しい企画を用意して皆様のお越しをお待ちしております。

■お問合せ先 藤田　央(平成7年卒 紫緑会) fujita.hss@gmail.com

Pelican
ペリカンパン売っています
藤田商店
東京都台東区浅草橋 3-27-13
TEL 03-3851-1558

祝 第62回 総明会 総会・懇親会
明輪会
昭和 58 年 卒
こころのわ

白木そば
文京区本郷1-33-7
TEL:03-3812-4488
井上直樹
(昭和58年卒 明輪会)
都営三田線 水道橋駅
A6出口 徒歩5分

祝 第62回総明会 総会・懇親会
明心会
昭和59年卒

めっき加工のエキスパート
有限会社 共栄化工
代表取締役
岩井 孝之
昭和59年卒 明心会 バレー部OB
〒131-0041
墨田区八広2-18-13
TEL 03-3617-6050

伊東電機株式会社
電設資材、設備機器、家電製品の卸販売
http://www.ito-den.com
代表取締役 伊東　稔 (昭和59年卒 バスケット部OB)
本社所在地 〒132-0031 東京都江戸川区松島3-34-21
TEL. 03-3654-9241 FAX. 03-3654-9256
松戸営業所 〒270-0025 千葉県松戸市中和倉159-2
関連会社:千葉伊東電機(株) 〒273-0002 千葉県船橋市東船橋5-26-1

お薩様で131年
丸喜株式会社
河原 勢朗
昭和 59 年卒　明心会
台東区浅草6−4−12
s-kawahara@maruki-net.com

一般社団法人 相続を考える会
あなたの相続に関するお悩み、弁護士・税理士らの専門家が一緒に考えます。
昭和59年卒 税理士 田中重幸
〒279-0002 浦安市北栄3-30-23-205
TEL 047-712-8170

SHIMAMURA DESIGN
ホームページ・パンフレット制作
お客様のイメージをカタチにします。ご相談下さい。
グラフィックデザイナー 昭和59年卒 明心会
島村 武史
ロゴマークデザイン
商品カタログ制作
広告・会社案内制作
その他いろいろ制作します。
〒171-0052 豊島区南長崎3-31-14
TEL.03-5996-6828
E-mail.take-457@netjoy.ne.jp
http://www.shimamura-design.com/

有限会社忠建商事
不動産の有効活用 売買・賃貸・企画・管理
昭和59年卒 明心会 硬式野球部OB
代表取締役
渡辺 憲一
〒224-0001
横浜市都筑区中川7-17-18
TEL. 045-911-3011
http://www.chukenshouji.com/

昭和59年卒
大山 輝芳
明心会
硬式野球部OB
株式会社 横濱屋

昭和59年卒
エグゼクティブ ライフプランナー
渡邉 文夫
ソニー生命保険株式会社
新宿ライフプランナーセンター第9支社
東京都渋谷区代々木2−1−5
JR南新宿ビル 15F
電 話 03−5358−1709
携 帯 090−4376−6146

著作権契約書なら
駒沢公園行政書士事務所
行政書士 大塚 大
(昭和60年卒 闘紺会)
柔道部OB
大田区上池台1-34-2
www.ootsuka-houmu.com

広告のご協賛大変ありがとうございました。
皆様のご好意によって
会報は支えられております。

祝 第62回 総明会 総会・懇親会
昭和60年卒 闘紺会

明治大学付属明治高等学校応援団OBOG会【紫紺乃会】
祝 第62回 総明会総会 懇親会

会　長：	鈴木　重之	(昭和60年卒)		
副会長：	米持　貴史	(昭和63年卒)	柳澤　菜摘	(平成27年卒)
幹事長：	三谷　知弘	(平成６年卒)		
事務局長：	熊木　達朗	(平成６年卒)		
副幹事長：	良峰　太郎	(平成８年卒)	関　佑宇斗	(平成20年卒)
	外山　潤	(平成26年卒)	高松遙之介	(平成29年卒)
	高橋　寿人	(平成29年卒)		
副事務局長：	新川　雅之	(平成８年卒)		
会計幹事：	藤田　央	(平成７年卒)	高畠周太郎	(平成22年卒)
監　査：	渡辺　裕之	(昭和55年卒)	荘司　康夫	(平成４年卒)

株式会社さくら航産
代表取締役 熊木達朗
(平成6年卒)
〒105-0012
東京都港区芝大門1-5-2
須田ビル3F
TEL 03-5472-7400
FAX 03-5472-3500

税理士法人 狩野会計社
www.kanou-kaikeisya.com
代表社員　税理士
狩野 智雄
(昭和56年卒)
〒114-0002 東京都北区王子2丁目28番2号 Tel:03-3913-1964 Fax:03-3912-0835
Mobile:090-1534-8396 E-mail:tkanou@kanou-kaikeisya.com

紙一般包装資材企画販売
近代紙業株式会社
〒340-0834埼玉県八潮市大曽根1420
http://www.kind-ai.co.jp
昭和５７年卒　明魂会
地理研究部ＯＢ会
小林　謙之
KENJI KOBAYASHI
k-koba@kind-ai.co.jp

総明開発株式会社
昭和57年卒 明魂会
硬式野球部OB会
代表取締役
染谷 貴男
〒340-0022
草加市瀬崎1-9-1 谷塚コリーナ102号
TEL 048-960-0606 FAX 048-960-0805

祝 第62回総明会総会・懇親会
明魂会
昭和57年卒
http://www.meikonkai.com

日本料理　手打ちそば
浅草 十和田
冨永龍司
昭和58年卒　明輪会
台東区浅草1-13-4
TEL. 03-3841-7375

祝 第62回
総明会 総会・懇親会

今年も新世輝は、
幹事学年 明哲会を
応援致します。

新世輝（しんせいき）
（昭和61年卒）
49/101
http://sinseiki.jimdo.com

新世輝（昭和六十一年卒）
俳優（小浅千）
高橋信康
（歴史研究部OB）

代表取締役
土田正昭
（昭和61年卒 新世輝）
〒103-0002
中央区日本橋馬喰町1-3-5
TEL. 03-3664-0810
FAX. 03-3664-0033
mail: toei@beach.ocn.ne.jp

創業 昭和参拾年
帽子製造卸
株式会社 東栄

ふぐ ちゃんこ
焼き鳥
鳥義
氏家喜久雄
（昭和61年卒 新世輝）
墨田区石原3-17-3
TEL.03-3626-4466

MEIJI
明猿会 めいえんかい
祝 第62回 総明会 総会・懇親会
ガンバレ!! 明哲会
〈昭和62年卒 明猿会一同〉

両国力士最中
年生業子司
両国 てし田
年田善政
（昭和62年卒 明猿会）
〒130-0026
東京都墨田区両国4-32-19
TEL: 03(3631)5928
FAX: 03(3631)5919



火曜定休（その他不定休あり）
桜なべみの家
https://www.e-minoya.jp
電話 03-3631-8298（ばにくや）
永瀬 守
（昭和62年卒 明猿会 水泳部OB）

営業時間
平日 12:00〜13:50／16:30〜20:50
土曜 12:00〜13:50／16:00〜20:50
日祝 12:00〜20:20
※ご来店の際は「総明会」とお声掛けください。
都営地下鉄 大江戸線 新宿線「森下」下車

昭和60年卒 矢澤 徹
YAZAWA
理化学器械・器具製造販売
株式会社 矢沢科学
https://yazawakagaku.co.jp/
東京都文京区本郷2-13-8

家庭文化用品 荒物雑貨
輸出入竹工芸品全般 総合卸
株式会社 大園
代表取締役 大園正純（昭和60年卒 闘紺会）
本社 〒130-0014 東京都墨田区亀沢1丁目12番8号
電話 03(3624)5366(代)
FAX 03(3624)5368



和食 玉寿司
東京シティ信用金庫新小岩支店前・定休日木曜日、第三水曜日
☎3691-3088
手束 謙一（昭和60年卒 闘紺会）

鈴木税務会計事務所
税理士 鈴木博史
（昭和61年卒 新世輝）
〒133-0053
江戸川区北篠崎2-19-12
TEL 03-3670-1430
FAX 03-3676-1440



耐洗ラベル シェアNo.1
nlc 貼ればできる!
闘紺会 昭和60年卒業 植村成典

計量システム・計量機器の総合商社 ハカリは共栄
共栄衡器株式会社
代表取締役 大森規雄（昭和61年卒）
東京都足立区千住河原町45番6号
TEL.（03）3882−8101
FAX.（03）3882−8172
https://kyoei-koki.com/



高島屋さん真裏通り
日本橋
吉野鮨本店
中央区日本橋三−八−十一
電話 〇三−三二七四−三〇〇一

昭和六十一年卒 新世輝
吉野正敏











ふぐ・和風居酒屋
民芸茶屋 佐留丹
〒120-0034 足立区千住1-33-8
03-3882-7229
http://r.gnavi.co.jp/g418500/
http://www.facebook.com/sarutan1971
61年卒・新世輝 猿田尚弘



pizzeria Robertino
昭和63年卒 昭和戊辰乃会
安齋 聡
ピッツェリア ロベルティーノ
ご予約 044-788-5757
神奈川県川崎市高津区久末402

みとしろ法律事務所
弁護士
山﨑雄一郎
（昭和62年卒 明猿会）
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町2−1−8
竹橋ビル2階
TEL 03-5282-3216
FAX 03-5282-3217
E-mail qwp01536@nifty.com
http://mitoshiro-law.jp/

岡崎正和税理士事務所
OKAZAKI TAX ACCOUNTS
岡崎正和
昭和63年卒
昭和戊辰乃会
マンドリン部OB
東京都墨田区横川2-2-10
岡崎ビル301 〒130-0003
TEL: 03-6240-4262
FAX: 03-6240-4263
okazaki@setsu-zeirishi.com

祝62回 総明会 総会･懇親会

MEIJI UNIV. PHY. COMMITTEE AMERICAN FOOTBALL CLUB
GRIFFINS

明高出身 明治大学体育会
アメリカンフットボール部OB有志

村嶋 健児
（H元年卒 「平成改元会」 硬式野球部）
嶋田 剛久
（H元年卒 「平成改元会」 吹奏楽班）

ゴム金型 設計･製作 短納期対応
有限会社 三友金型
代表取締役 小柳貴裕
バスケット部OB
改元会（平成元年卒）
東京都墨田区東向島6-25-13
TEL. 03-3617-6683
FAX. 03-3610-1299

株式会社
レストラン･ピガール
明大1号店
ケータリング パーティー
各種お弁当承ります。
〒182-0033
東京都調布市富士見町4-23-25
明治大学付属明治高等学校･中学校内
TEL. 03-5858-9909
担当総括支配人 山口剛志

祝！第62回 総明会 総会・懇親会
皆様の人生のPRのお手伝いを致します！
企業PR動画・ホームページ制作
株式会社 MT SOLUTION
代表取締役 加藤 雅樹
平成元(1989)年卒 平成改元会
二等無人航空機操縦士
Adobe Certified Professional in Photoshop
明球会(硬式野球部OBOG会)
大学時代：体同連 サーフィン部
HomePage
Line
神奈川県藤沢市辻堂太平台1-13-3
TEL: 090-7739-9639
e-mail: masaki.kato1108@gmail.com
https://mtsolution-shonan.com

株式会社オガワ
横浜でエクステリアのデザインから施工まで
横浜の中心部に、スピーディな生コンの供給
代表取締役 小川和弘
（平成元年卒 平成改元会）
横浜市保土ヶ谷区宮田町2-155-10
TEL：045-332-1411（代）
FAX：045-335-2421



日本産業規格表示認証工場
高強度コンクリート大臣認定取得
https://ogawa-yokohama.com





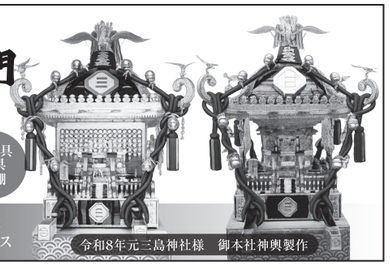

人と緑をつなぐ
日章造園株式会社
〒153-0064 東京都目黒区下目黒３丁目８番５号
TEL. 03-3716-3221 FAX. 03-3716-3226

自然や緑を通じ
そこに住む皆様の心豊かな生活をご提案します。
代表取締役社長 澤村大樹
（平成改元会 硬式野球部ＯＢ）

第62回 総明会総会･懇親会 母校調布校舎での開催おめでとうございます！
明愛会
第53回幹事学年 平成二年卒業 明愛会（めいあいかい） I♥Meiji
嗚呼なんと、人の心の「やさしさ」よ 人の心の「あたたかさ」よ
幹事学年から10年。明愛会 同期諸君、55歳の今を謳歌しようではないか！

進化するぬくもり。
JP POST 郵便局
日本郵便株式会社
晴海西郵便局長 遠藤 克彦
〒104-0053
東京都中央区晴海 5-5-5
HARUMI FLAG
Sun Village E 棟
TEL 03-6910-1915

太鼓・神輿・祭礼具・神具の製造販売
創業元禄二年 南部屋五郎右衛門
平成2年卒 明愛会 歴史研究部OB 石渡浩司
南部屋五郎右衛門 検索
神輿 太鼓 祭礼具 神具 神棚
〒111-0041 東京都台東区元浅草2-10-10
TEL.03-3843-3335 FAX.03-3843-3336
新調制作、販売
修理･メンテナンス



日本酒を試して選べる専門店
合資会社 日本屋
平成２年卒 明愛会 鈴木宏房
JR柏駅前東口にて営業中！
ファミリかしわ1階
エックス（旧Twitter）
@NIHONYA

祝 第62回 総明会 総会・懇親会
昭和 63 年卒同期会
昭和戊辰乃会
しょうわぼしんのかい

感性豊かで高品質なカットソー製品を
新しい切り口でご提供致します。
株式会社
ティアンドティ
代表取締役 安川琢哉
（昭和63年卒 昭和戊辰乃会）
東京都江戸川区北篠崎2-3-23
電話 03-3677-1801

アパレル・ファッションの資材サポーター
株式会社 クロップオザキ
クロップオザキ 検索
代表取締役社長 尾崎博之（昭和63年卒 昭和戊辰乃会）
〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル（4F・5F）
電話 03-5820-0741（代） FAX 03-5820-0742（代） http://www.cropozaki.com

---

祭・踊衣裳
日本の歳時記®
製造・発売元
株式会社佐藤万
代表取締役 佐藤 武
（昭和 63 年卒 昭和戊辰乃会）
東京都中央区日本橋久松町6番5号
TEL 03（3664）3611（代）
http://www.nihon-no-saijiki.co.jp

下町の住まい選びに夢を・・・
不動産の山下商事
ポータルサイト未掲載の当社物件を多数掲載!!
〒116-0012 東京都荒川区東尾久1-1-6
電話 03-3895-9494 FAX 03-3809-7779
http://www.yamashitashoji.jp
代表取締役 山下征隆
（昭和63年卒 昭和戊辰乃会）
歴史研究部 宅地建物取引士
2級ファイナンシャルプランナー技能士

不動産売買 仲介 管理
川口市・蕨市のお部屋さがしは当店へ
株式会社 八光商事
代表取締役 田中一任
（昭和63年卒 昭和戊辰乃会）
（硬式野球部OB）
〒335-0002 埼玉県蕨市塚越２－３－１
電 話 ０４８－４４１－８５８３
hks8583@warabi.ne.jp

弁護士 三神光滋（水泳部OB）
野本・吉葉法律事務所
昭和63年卒 昭和戊辰乃会
〒102-0084 東京都千代田区二番町４番地３
二番町カシュービル7階
TEL 03-3511-1111 FAX 03-3511-0222
mikami@nomotolaw.com

ムーンレイクゴルフクラブ
茂原コース
圏央道茂原北ICで降りて車で約７分
ムーンレイク
ゴルフクラブ
茂原コース
〒297-0073
千葉県茂原市長尾1647
TEL 0475-26-5500
FAX 0475-26-5152
www.pacificgolf.co.jp/moonlake_m/
Love Life. Love Golf. ゴルフは、もっと、素晴らしい。 PGM®

祝 第62回総明会
総会・懇親会
明哲会
応援してます!!
平成改元会（吹奏楽班OB）
総明会 副事務局長
株式会社嶋田プランニング
代表取締役社長 嶋田 剛久



祝　第62回 総明会 総会懇親会

快汗、どすこい塾

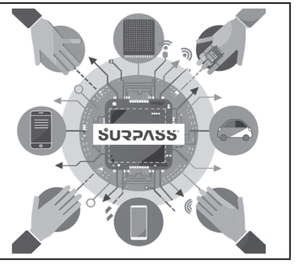
平成４年卒　同期会

不動産売買・仲介・管理
太明地所株式会社
代表取締役 浅倉太明
（平成３年卒　スキー部）
東京都中央区銀座8-8-15 青柳ビル5F
TEL 03-3571-0655
FAX 03-3571-0615
ginza@taimeijisho.jp

下町の小さな飾り屋さん
美を結ぶ
むすびの
～MUSUBINO～
下町の小さな飾り屋さん 髪飾品製造卸 有限会社 大野商店®
代表取締役 大野光照 平成4年卒 快汗、どすこい塾
〒111-0054 東京都台東区鳥越 2-7-12
TEL & FAX 03-3851-9929

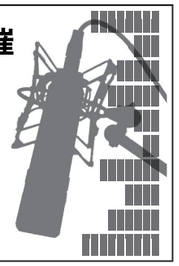
amazon店
BASE店
たま～に更新してます
Instagram

サーパス工業は、
現代の社会を支え、
人々を“つなげる”ことで、
幸せな世界の創造に
貢献しています。



代表取締役 今井 高志
平成5年卒 応援指導班OB
www.surpassindustry.jp

祝　第62回総明会 総会、懇親会開催



平成8年卒業
令和5年幹事学年 紫誠会
マンドリン部OB
紫誠会

髙橋潤士
クラシック録音、小規模イベント音響
有限会社 JHT
〒136-0072 東京都江東区大島 5-42-３大高ビル２階
Mail：jht@kj9.so-net.ne.jp Tel：090-3204-6528

太平洋セメント株式会社特約店
生コン・壁材料・左官工具及機械
有限会社 福田商店
代表取締役 和田康正
（平成5年卒・バスケ部）
東京都墨田区押上2-7-8
TEL 03-3625-3309
FAX 03-3625-8395

祝　第62回 総明会総会・懇親会

平成6年卒同期会

隆　明　会

頑張れ!!　明哲会

祝
第62回総明会総会・懇親会

地理研究部
OB・OG会

連絡先（事務局・和田）
yasunobu@meiji.ac.jp

SKC
三共化成株式会社

代表取締役社長 森平伊織
平成７年卒（紫縁会）
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋二丁目6番6号
E-MAIL: i.morihira@sankyokasei.or.jp

STEP
国際特許事務所
STEP INTERNATIONAL PATENT OFFICE
アイデアは、チカラ
代表 弁理士 高橋 豊
（平成６年卒　隆明会　物理部 OB）
新宿区市谷船河原町１番地
www.step-pat.com

司法書士事務所 法研
司法書士 山本基樹
（平成6年卒　隆明会）
東京都千代田区鍛冶町2-8-11
U-BOATビル4階
TEL. 03-6206-9400
FAX. 03-6206-9401
m-yamamoto@legal-labo.com

祝　第62回 総明会 総会・懇親会

平成7年卒　紫　緑　会

これからも母校を支援（しえん）していきます

京成上野駅から徒歩 30 秒
大小宴会承ります
蓬莱閣
張 春穎（平成８年卒 水泳部・山岳部）
東京都台東区上野2-14-29
TEL 03-3831-1763
www.houraikaku.jp

祝 第62回総明会総会・懇親会開催

Meiji
平成2年卒（明愛会）
硬式野球部OB一同

桜井　敦、桑名　徹、木下英樹
松尾健司、川辺康二

祝 第62回総明会総会・懇親会開催

Meiji
平成元年卒（平成改元会）
硬式野球部OB一同

田中博樹、村嶋健児、澤村大樹、篠田守建
美濃部健太郎、筧崇彦、吉井昭、四手宏尚

筒井綜合法律事務所

代表弁護士 筒井　剛（平成2年卒 明愛会）
〒271-0092 千葉県松戸市松戸 1336-7 東風園ビル 4 階
Tel. 047-308-5050　Fax. 047-365-2210
E-mail : tsutsui@tsutsui-lawoffice.com

M
平成4年卒（快汗、どすこい塾）
硬式野球部OB

寺土　博昭／石山　賢／浦　和正／大山　聡
栗生　孝雄／佐々木敦史／福田　浩茂／藤井　広之
森　直樹／相良　明／今本　辰広／安達　幸彦
高橋　信秀／佐藤　英雄／牧野英太郎

祝 第62回 総明会 総会・懇親会

平成３年卒
人生の名人たれ　明仁会

ONE MEIJI　～ 明治はひとつ ～



建設・不動産駿台会
有志一同

大久保俊治　平成3年卒
浅倉　太明　平成3年卒
富沢　康弘　平成3年卒

Lightec
SINCE1937

創造と挑戦

Creation and Challenging

ライテックは、令和の時代をリードする「灯り」、社会・環境を優しく導く「灯り」になれるよう全社員一丸となって商品開発、サービスの展開に努めてまいります。

株式会社 ライテック
代表取締役社長 廣田拓郎

倉持法律事務所
弁護士 倉持政勝
（平成3年卒・硬式野球部）
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-13-3
興和日本橋ビル2階
電話： 03-5614-1420
FAX： 03-5614-1421
http://www.kuramochi-law.jp

坂田税理士事務所
税理士 坂田　覚
（平成3年卒 明仁会）
〒173-0004
東京都板橋区板橋 3-41-3
都営三田線「板橋区役所前駅」徒歩6分
TEL 03-3962-6164

有限会社 東宏商事
取締役 青木貴史
（平成３年卒 明仁会）
〒171-0033
東京都豊島区高田 3-10-21 東宏ビル
TEL. 03-3200-1370
Takashi.Aoki@toko-shoji.com

Law Office SORA
法律事務所 空
弁護士 栗田　隆
（平成3年卒 明仁会）
東京都千代田区神田神保町2－2
新世界ビル601号室　〒101-0051
TEL 03-3556-3035　FAX 03-3556-3036
kurita.t@lawoffice-sora.jp

昌平坂特許事務所
代表／弁理士 特定侵害訴訟付記 吉田信彦
（平成2年卒 明愛会）
yoshida@shohey.com
https://shohey.com/
〒101-0021
東京都千代田区外神田4-14-2-906
TEL 03-5295-0115

日本蕎麦堀留町
尾張屋
藤﨑 信
（平成3年卒　バレー部）
東京都中央区日本橋堀留町1-11-7
TEL 03（3661）4488

不動産管理・賃貸業 有限会社 明克
MEIKOKU
https://www.meikoku.co.jp
代表取締役 櫻井　崇
（平成3年卒 明仁会）
川崎市川崎区日ノ出2-16-1
TEL　044 (266) 8111

SPC サポート業務・ワンストップサービス・カスタマイズサービス

AOJ税理士法人
10th anniversary

代表社員
出澤 貴人 H3卒
いでさわ たかひと
税理士・不動産証券化協会認定マスター

東京都中央区京橋2-12-6
東信商事ビル 6F
TEL 03-5542-0137
FAX 03-5542-0138
mail: t-idesawa@aojtax.or.jp

すべてを突破する。

TOPPA!!! TOPPAN

笠原 謙介（昭和58年卒）　山本 伸幸（昭和60年卒）　永井　聡（昭和63年卒）　定谷 正春（平成元年卒）
今泉　仁（平成2年卒）　山本 洋貴（平成5年卒）　水野 泰博（平成8年卒）　竹村 圭史（平成12年卒）
木村　啓（平成15年卒）　新藤 良亮（平成18年卒）　川村 実穂（平成23年卒）　中島 多朗（平成26年卒）

TOPPAN株式会社 https://www.toppan.com/ja/

弁護士・通関士
増井陽一
（平成12年卒 バスケ部OB）
横木増井法律事務所
東京都港区虎ノ門5丁目2-6
虎ノ門第2ワイコービル 5F
TEL：03-6277-6359
https://ym-partners.com/

バスケ部
伝説の
消防
清水裕貴士

祝 第62回総明会総会・懇親会
図書班
OB・OG会
連絡先 平田 幸彦
TEL：03-3589-0687
連絡先 大西 静士郎
TEL：090-2243-2135

明治高校バスケットボール部 OB・OG会
バスケ部OB・OGの皆さま
現役チームは、夏は北志賀、春は静岡で合宿を行い、日々練習に励んでいます。夏合宿は毎年8月3日から7日間の固定日程で実施しています。OB・OGの皆さまには、ぜひ合宿や試合会場へ足をお運びいただき、後輩たちに温かいご声援をお送りください。ひたむきにプレーする姿に、現役時代の自分も思い出され、きっと胸が熱くなるはずです！

明治中学・高校水泳部OBOG会
明水会
会長 佐藤 敏雄（S58年卒）

祝 第62回総明会総会
明卓会
明治高等学校・中学校卓球部OB・OG会
会長 前原正浩（昭和47年卒）

祝 第62回総明会総会
明治高校バレー部
OB・OG会
顧問　山中禎一郎 先生
会長　石田 元伸（S51卒）
副会長　岩崎 広人（S57卒）
副会長　岡永 健二（H4卒）
事務局長　樋田 哲次（S52卒）
役員　加藤 裕司（H8卒）
役員　山本 直之（H8卒）
役員　阿部 徹也（H11卒）
バレー部 OB・OG会 ホームページ

祝 第62回 総明会 総会・懇親会　がんばれ！ 明哲会
平成10年卒 紫98倶

広告のご協賛大変ありがとうございました。
皆様のご好意によって会報は支えられております。

千賀貴生公認会計士事務所
千賀貴生　平成7年卒　紫緑会（JRC・IAC OB）
〒150-0031
渋谷区桜丘町15番地14号フジビル40 9階（スパイラル内）
080-3367-6652　takao.senga@ms01.jicpa.or.jp

全国の企業・学校の監査専門
明石公認会計士事務所
（千葉県市川市）
明石直樹
平成11年卒（マンドリン部）
naoki.akashi@gmail.com

祝
第62回総明会
市川市役所
明治高等学校
卒業生有志

祝　第62回総明会 総会・懇親会開催
平成8年卒業 紫誠会
頑張れ明哲会！
応援しています!!

松島俊行
税理士事務所
代表社員
松島俊行
平成8年卒
吹奏楽班 OB

原田 崇
Takashi HARADA
（H8年卒・水泳部OB）
1976
TANAKA KENSO
田中建装株式会社
https://tanakakenso.co.jp
東京都杉並区高円寺南1-22-6
T.0333150280

総合建設業
株式会社吉田工務店
代表取締役 吉田浩士
平成8年卒　吹奏楽班OB
〒331-0052
埼玉県さいたま市西区三橋6-152-10
TEL. 048-623-4711
FAX. 048-623-8944


かやぶき蕎麦 やぶ
新松戸・南流山駅界隈で蕎麦を楽しむ
千葉県松戸市新松戸7-61
TEL.047-342-8103
Googleマップ

祝
第62回 総明会
総会・懇親会 開催
がんばれ！
明哲会!!
60th 紫雲会ゴルファーズ

がんばれ 明哲会！ 祝・狭山セコムラガッツD2昇格！
セコム、してますか？
Security by SECOM
小谷健志
平成9年卒 卓球部 OB
E:MAIL：brabula39@icloud.com
60th 紫雲会


明日をつなぐ、色の世界へ
MARUSHIN
株式会社マルシン
代表取締役 近藤 旭
（平成9年卒 紫雲会 バスケ部）
〒340-0002
埼玉県草加市青柳 2-11-39
TEL：048-931-5200
HP↓

魅せろ！明治魂 私達は明治高校を応援しています！

石川　恵資	昭和58年卒	木村　允	平成 8 年卒	櫻井　亮	平成20年卒
髙橋　浩	昭和58年卒	佐藤　潤	平成 9 年卒	平野　慎	平成21年卒
服部　裕之	昭和59年卒	角　祐二郎	平成13年卒	松本　直子	平成25年卒
増岡　寿	昭和60年卒	鈴木 亮輔	平成13年卒	三苫　美鈴	平成25年卒
松尾　智己	昭和60年卒	寺田　雄太	平成13年卒	吉光寺美和子	平成27年卒
松嶋　俊行	昭和61年卒	瓜生　泰三	平成14年卒	下田　祥之	平成27年卒
菅　和禎	昭和63年卒	土方　博史	平成14年卒	山中　友貴	平成27年卒
山本　幸一	平成 2 年卒	密岡　祐樹	平成14年卒	彦惣　俊人	平成28年卒
滝　晋敏	平成 4 年卒	高井　洋	平成15年卒	熊坂　美穂	令和 2 年卒
寺土　博昭	平成 4 年卒	川原　健	平成17年卒	内山　萌佑	令和 3 年卒
高橋　建太	平成 5 年卒	小堀　良樹	平成17年卒	鈴木　友也	令和 4 年卒
近藤　裕樹	平成 6 年卒	山本　康太	平成19年卒		



明治高校卒明治大学職員有志一同

歴研

祝 第62回総明会総会 がんばれ 明哲会

歴史研究部OBOG会

会　　長 鴨下 裕彦（昭和56年卒）
副 会 長 白畑 尚志（昭和56年卒）
副 会 長 安達 俊幸（昭和57年卒）
会　　計 土田 正昭（昭和61年卒）
事 務 局 山下 征隆（昭和63年卒）
事 務 局 最上 達也（平成19年卒）

祝　第62回総明会総会、懇親会開催

M.H.M.C

明治高校マンドリン部 OB・OG会

明雪会 スキー部OB・OG会

会　　長 五十嵐公一（昭和54年）
副 会 長 菅野 栄一（昭和55年）
〃 狩野 智雄（昭和56年）
〃 鳴海 浩樹（昭和57年）
相 談 役 若松 弘昌（昭和39年）
〃 堀 眞壽（昭和46年）
〃 沼田 哲明（昭和50年）
幹　　事（総明会担当）
顧　　問 岡本 雅仁（昭和51年）
〃 佐藤 健一（昭和31年）
〃 大出 育男（昭和31年）
〃 山田 和孝（昭和36年）
〃 小山 雅司（昭和37年）
〃 井上 進治（昭和38年）
〃 戸張 毅（昭和47年）
事務局長 服部 憲一（昭和50年）
事務局員（ゴルフ部会担当） 鏑木 祥介（昭和63年）
事 務 局 富沢 康弘（平成3年）
〃 浅倉 太明（平成3年）
〃 南谷 吉貴（平成6年）
〃 長谷川海平（平成7年）
〃 印田 誠（平成10年）

がんばりました!!
インターハイ　女子1名
関東大会出場
男子4名　女子7名

硬式野球部OB・OG会

明球会HP
※一部会員専用

明　球　会

会長　原　健治（昭和60年卒）

公式LINE

祝 第62回総明会 総会・懇親会

吹奏楽班OB・OG会

会 長　斉木 麻州男
（昭和 56 年卒）

たかす タロ ファーム

2016年某製薬会社を脱サラし北海道上川郡鷹栖町へ移住しました。後継者の居ないお米農家さんへ弟子入りし、2022年に「株式会社たかすタロファーム」を設立いたしました。愛情込めて作ったお米を皆さまにお届けしたいという気持ちで日々精進しております。こんなたかすタロファームのお米を手にとって頂けたら幸いです。

代表取締役　平林　悠（平成 12 年卒）

〒 071-1260 北海道上川郡鷹栖町 20 線 14 号 4 番地
TEL 090－1122－9378　FAX 0166-87-5595
mail : takasu_tarofarm@yahoo.co.jp

北海道鷹栖町産

お任せ 3 種詰合せ

髙野猶幸

Takano Naoyuki
Clarinet / Saxophone / Arrangement

最近は Jazz と AI で
あれこれ実験中！
詳しくは QR の先で。

第62回総明会総会・懇親会　幹事学年　平成11年卒

明　哲　会

2026.11.22 明治高校（調布市）へ 集え！ 同期！

祝 第62回 総明会 総会・懇親会

海外提出書類の認証手続きを代行いたします

アポスティーユ／領事認証／公証手続き

葩島亮行政書士事務所
行政書士 葩島 亮 (平成11年卒・明哲会 会報委員長)
〒102-0093 東京都千代田区平河町1-5-15 VORT平河町304
E-mail haishima@da2l.com (2の後は小文字のエルです)
URL: https://certification.jp

同期・サッカー部OB集合!

11月22日(日)
調布校舎で会おう!!

平成11年卒　明哲会
大室 智

タイマッサージ リラリラ

Since 2008

神田本店
浅 草 店
銀 座 店
リラリラ 検索

代表
林 泰之
（1999年卒）

――埼玉県川口市で設備設計・施工45年の実績――

トミタ設備工業株式会社

常務取締役　富田皇一　平成11年卒

〒333-0801 埼玉県川口市東川口5-3-12　TEL: 048-296-3653

給排水設備
空調設備
換気設備
設備設計

鮨處 おざわ

東京都中央区銀座8-5-9
Tel 03-3572-0792
小澤　学
平成 11 年卒　明哲会

THREE GROUP

THREE GROUP 会長
三浦 啓次朗
Keijiro Miura

〒151-0066 東京都渋谷区西原 3-14-10
TEL 03-6770-9813
Email info@3-threeinc.jp
URL https://3-three-inc.jp/

マーケティング事業部：PR / タレント・インフルエンサーキャスティング / AIコンサルティング
SNS運用(企画,撮影,編集)+SNS広告 / WEB広告全般(リスティング広告etc)
LP・HP制作 / 動画制作（SNS・TV・CM・PROMOTION動画） / TVer / 地上波CTV / タクシー広告他 主要媒体代理店

メーカー事業部：電子書籍 / 動画（Tseries / IFlab）/ スーパーフード Drink（有機JASマーク）
オーガニック珪藻土（塗り壁）Third wall

エンターテインメント事業部：★エンターテインメント事業
イベント制作 / 運営+物販 / 企画制作販売
TikTok LIVE代理店（LIVECommerce・LIVE配信）
★マネジメント事業
タレント・マネジメント業務 / アーティスト・マネジメント業務
SNSインフルエンサー / TikTokライバー（エージェント業務）
★メディア事業
A True Story ～挑戦者の真実～（ドキュメンタリー経済番組）

販売代理事業：Airdog販売一次代理店/コンテンツ国内海外配信代行
不動産事業：売買/賃貸/レンタルスタジオ
飲食事業：飲食事業：高級割烹 赤坂「和史」

THREEであなたの挑戦が未来をつくる。
全職種随時募集中!
秘書　経理　総務　営業　制作
● 総明会員とご応募時に伝えて頂ければ雇用時に優遇します
ご応募・お問い合わせはこちら　info@3-threeinc.jp

ドキュメンタリー経済番組
A True Story -挑戦者の真実-
挑戦する人々の真実に迫るドキュメンタリー番組。
https://a-true-story.jp
番組詳細はこちら

宮原奨伍

会計報告

総明会　令和6年度　一般会計報告

（自）令和6年9月1日～（至）令和7年8月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	22,493,730　円	会議費	249,650　円
新入会員入会金	2,800,000　円	交流費（学校、他）	1,825,220　円
新入会員終身会費	4,200,000　円	会報発送費用	2,359,612　円
学年会費	255,000　円	事務通信費	70,476　円
利息その他の収入	872,707　円	各委員会活動費	1,437,241　円
		基金へ組入れ	0　円
		次年度繰越金	24,679,238　円
合計	30,621,437　円	合計	30,621,437　円

総明会　令和6年度　基金会計報告

（自）令和6年9月1日～（至）令和7年8月31日

基金区分	令和5年度残金	令和6年度増減額	摘要	令和6年度残金
事業遂行基金	15,000,000　円	0　円		15,000,000　円
財政基盤基金	11,203,487　円	14,644　円		11,218,131　円
合計	26,203,487　円	14,644　円		26,218,131　円

上記のとおり報告致します。

令和7年8月31日　　会長　山崎秀樹　　会計　田中重幸

上記のとおり報告致します。

令和7年10月3日　　監事　中河孝樹　　監事　関川一浩

総明会　令和7年度　一般会計予算

（自）令和7年9月1日～（至）令和8年8月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	24,679,238　円	会議費	330,000　円
新入会員入会金	2,680,000　円	交流費（学校、他）	1,520,000　円
新入会員終身会費	4,020,000　円	会報発送費用	2,440,900　円
学年会費	900,000　円	事務通信費他	180,000　円
雑入（寄付金・利息）	305,000　円	各委員会活動費	2,521,500　円
	円	基金へ組入れ	0　円
	円	次年度繰越金	25,591,838　円
合計	32,584,238　円	合計	32,584,238　円

総明会　令和7年度　基金会計予算

（自）令和7年9月1日～（至）令和8年8月31日

基金区分	令和6年度残金	令和7年度増減額	摘要	令和7年度残金
事業遂行基金	15,000,000　円	－　円		15,000,000　円
財政基盤基金	11,218,131　円	－　円		11,218,131　円
周年事業準備金	26,218,131　円	－　円		26,218,131　円

第61回　総明会　特別会計報告

（自）令和7年4月1日～（至）令和8年3月31日

収入の部		支出の部	
総会懇親会収入	2,073,000　円	総会懇親会関係費R7.11	4,912,332　円
寄付広告収入	7,605,955　円	会報関係費	2,894,355　円
その他（利息）	1,261　円	運営関係費（就活会含）	1,873,529　円
合計	9,680,216　円	合計	9,680,216　円

2026年度（令和8年度）総明会活動報告

令和８年度 総明会 役員一覧

（敬称略）

委員会・役職	年卒	氏名
名誉会長	昭和36年	向殿　政男
名誉顧問		柳谷　孝
名誉顧問		上野　正雄
顧問	昭和51年	井家上哲史
顧問	昭和29年	山浦　晟暉
顧問	昭和32年	山崎　敬生
顧問	昭和41年	尾島育四郎
顧問	昭和43年	佐久間洋一
顧問	昭和44年	服部　雄二
顧問	昭和44年	関谷　芳久
会長	昭和50年	山崎　秀樹※
副会長	昭和56年	衛藤　雅一※
副会長	昭和59年	平野　一哉※
副会長	昭和61年	土田　正昭※
専務理事	昭和63年	尾崎　博之※
常務理事	昭和50年	近藤　敏彦※
常務理事	昭和59年	島村　武史※
会計	昭和59年	田中　重幸※
事務局長	平成元年	小柳　貴裕※
副事務局長	平成元年	嶋田　剛久※
副事務局長	平成6年	三谷　知弘※
総会委員会　委員長	平成7年	金子 敦史※
副委員長	平成4年	牧野英太郎
副委員長	平成8年	高橋　潤士
広報委員会　委員長	平成2年	遠藤　克彦※
担当理事	平成9年	小林　達也※
副委員長	平成3年	山口　一郎
副委員長	平成5年	小岩井賢一
副委員長	平成9年	林　直幸
副委員長	平成23年	三浦　直人
企画委員会　委員長	昭和54年	志村　和哉※
担当理事	平成2年	松尾　健司※
担当理事	平成4年	荘司　康夫※
副委員長	昭和63年	安川　琢哉
副委員長	平成2年	今泉　仁
副委員長	平成5年	南谷　吉貴
副委員長	平成9年	木本　隆史
組織委員会　委員長	平成元年	福島　維規※
担当理事	平成8年	酒井　康生※
副委員長	昭和58年	高橋　浩
副委員長	平成7年	遠藤　智史
副委員長	平成8年	木村　允
副委員長	平成8年	関川　明生
総務委員会　委員長	平成8年	宮嶋　優光※
副委員長	昭和61年	野津　真男
副委員長	平成22年	高畠周太郎
名簿委員会　委員長		
共学推進委員会　委員長	昭和61年	土田　正昭 兼任
副委員長	昭和56年	衛藤　雅一 兼任
財務委員会　委員長	平成元年	嶋田　剛久 兼任
副委員長	平成6年	三谷　知弘 兼任
監事	昭和44年	中河　孝樹
監事	昭和57年	関川　一浩

【備考１】※印は理事
【備考２】名簿委員会は事務局預かりとする。
【備考３】財務委員会として副事務局長中心に活動していく。

令和８年度 総明会 評議員一覧

同期会

卒業年	名称	氏名	氏名
S12年		中富　光国	
S15年	明中２６会		
S19年	明中２８会		
S21年	午巳の会		
S24年		内藤　功	
S25年	明二会		
S26年	猿楽会	熊井　実	
S27年	明高会	米山　耕右	
S28年	明窓会	戸田　一郎	
	八明会（八丈島高校）		
S29年	２９会		
S30年			
S31年	明楽会	R8解散	
S32年	明治会	嵯峨　徳治	太田　喜久
S33年	三三会	鈴木 寿雄	藤田　義茂
S34年	旧雨会	秋山　義昭	希代　章
S35年	珊瑚の会	北室　清市	山縣　常浩
S36年	明駿会	R6解散	
S37年	３７会	福島　啓充	石井嘉一郎
S38年	二年に一会	渡辺　昭宏	関戸　淳一
S39年	三九会	佐藤　仁	
S40年	明優会	阿部　正行	大関　清人
S41年	四一明友会	濱田　豊	角田　敏彦
S42年	M41	伊藤　謙一	
S43年	紫讃会	志村　一夫	小田嶋保男
S44年	男坂倶楽部	島根　勇一	藁谷　豊
S45年	獅子の会	比留間竹郎	上野　隆史
S46年	明潮会	木村　茂	金子　敏一
S47年	四七四七同志酔会	戸張　毅	内田　茂
S48年	波の会	海老根一介	雨海　重明
S49年	翼明会	佐藤　眞弘	大前　実之
S50年	明紫会	三森　勲	町田　純一
S51年	明々会	小林 祥悟	島田　一
S52年	男子校根性組	佐藤　大英	有田　幸訓
S53年	紫友会	加藤　裕之	竹越　利之
S54年	明誠会	荒井　信之	熊倉　章雄
S55年	紫魂会	吉口　市郎	渡辺　裕之
S56年	明翔会	寺村　一義	蓬田　裕一
S57年	明魂会	田中　幹浩	菊池　正純
S58年	明輪会	宮浦　太志	高橋　浩
S59年	明心会	伊東　稔	渡邉　文夫
S60年	闘紺会	和田　直弘	矢澤　徹
S61年	新世輝	栗本　宜長	高橋　誠
S62年	明猿会	赤岩　大輔	中澤彰次郎
S63年	昭和戊辰乃会	諸井　右一	大川　直樹
H01年	平成改元会	横島　高之	杉山　純也
H02年	明愛会	吉田　信彦	神保桂一郎
H03年	明仁会	山口　一郎	斎藤　直宏
H04年	快汗､どすこい塾	小畑　啓	福田　浩茂
H05年	明鐘会	安藤　高利	長野　吉克
H06年	隆明会	三保谷建介	熊木　達朗
H07年	紫緑会	千賀　貴生	森平　伊織
H08年	紫誠会	関川　明生	高橋　潤士
H09年	紫雲会	小谷　健志	香川　満洋
H10年	紫98倶	秋山　光億	平田　健
H11年	明哲会	石川　一仁	戸邊　寛
H12年	明瀑会	玉木万理夫	保科　大輔
H13年	明治２１	大橋　弘頌	岡庭　朋威
H14年		上原　康仁	下田　良征
H15年		大川　康介	武　雄一郎
H16年		杉田　将平	徳竹　正憲
H17年		室井　純	荒川　佳史
H18年	白雲会	山崎　裕貴	角田　隆悟
H19年	昭成会	平井　隆太	大竹　惇
H20年		渡辺　圭	早川　慎吾
H21年		加藤　敦	大森　貴之
H22年	明雄会	亀屋　将紀	佐藤亨太郎
H23年	共楽会	平田　裕貴	三浦　直人
H24年		三浦　彩	市川　陸
H25年		師岡　忠寛	佐藤　華穂
H26年	ゆいまーる	岡田　尚也	柴田加菜子
H27年		柳澤　菜摘	渡邉　直人
H28年		田勢　也子	少弐　光
H29年		佐藤　陸	小栗　未琴
H30年		今井　紗紀	山田　崇人
H31年		染谷　早咲	關口　哲平
R02年		千鳥　紗英	浦山　和之
R03年		中村　勇太	岩崎　夏音
R04年		蓮池　龍慈	井上　朝陽
R05年		香阪　成洸	信田悠里加
R06年		髙嶋　実海	岩崎　美桜
R07年		八木　樹己	瀬々倫太郎

班クラブOB・OG会

名称	氏名
生徒会本部	
アイスホッケー愛好会（明氷会）	
ＪＲＣ	横谷　昌明
柔道部	小川　洋一
卓球部（明卓会）	小谷　健志
新聞班	
地理研究部	堀井　雅俊
フェンシング部	中村　信也
化学部	森　八一
応援指導班	鈴木　重之
硬式野球部（明球会）	篠田　守建
スキー部（明雪会）	岡本　雅仁
物理部（明物会）	上野　雅宏
図書班	大西静士郎
剣道部（見心会）	嶋田　茂之
バレー部	樋田　哲次
囲碁部	田島　弘資
庭球部	林　伸光
吹奏楽班	斉木麻州男
放送班	宮田　健
バスケットボール部	並木　功
マンドリン部	
水泳部（明水会）	芳澤　徹
歴史研究部	山下　征隆
サッカー部	大室　智
陸上競技部	櫻井　勝也

評議員の変更、連絡先の変更等ございましたら、総明会事務局までご連絡を頂けますようお願いいたします。

令和8年度 活動報告

総明会 専務理事
尾崎 博之

やはり昨年もメインのイベントとなったのは第61回総会懇親会です。総会懇親会は幹事学年の**紫98倶（H10卒）**が主催し、明治大学のアカデミーコモンにて11月24日に開催されました。テーマは**「Innovation of MEIJI ～ いざ撞かん、時代の暁の鐘～」**。幹事学年の「新しい一歩を歩み出す」という思いが込められたイベントが行われ、大変盛り上がりました。参加者総数252名の内、学生の参加が30名あり、若い人の参加も確実に増えてきています。

総会においては、会長・副会長の改選が行われ、これまで会長、副会長を務めてきた4名が賛成多数で再任されました。会長 山崎秀樹（S50卒）、副会長 衛藤雅一（S56卒）、平野一哉（S59卒）、土田正昭（S61卒）となりました。引き続き、会の運営にご協力いただけますようお願いいたします。

新年度から新たな委員会が2つ設置されました。共学推進委員会と財務委員会です。2008年に高校の共学化により今後OGの参加も増えてきます。共学推進委員会は共学校のOBOG会としての基礎を作ることと若手会員の参加を増やすことを目的に活動しております。財務委員会はこれまで幹事学年が行っていた寄付広告活動を本部としてサポートしていく役割と財務基盤の強化を目的として活動しています。

例年の活動として、9月紫紺祭へのブース出展、10月明朗会（新宿そっくり館キサラ）開催、12月幹事学年引継ぎ式、2月顧問会開催、武陵会・戸富貴会との三校懇親会に参加、3月明高卒業式に参列、総明会新入会員歓迎会開催、4月明高入学式に参列、5月武陵会総会懇親会に参加、チャリティーゴルフ開催、6月PTA同窓会白駿会懇親会に参加。7月は学年評議員・班クラブ評議員懇親パーティーの開催を予定しています。

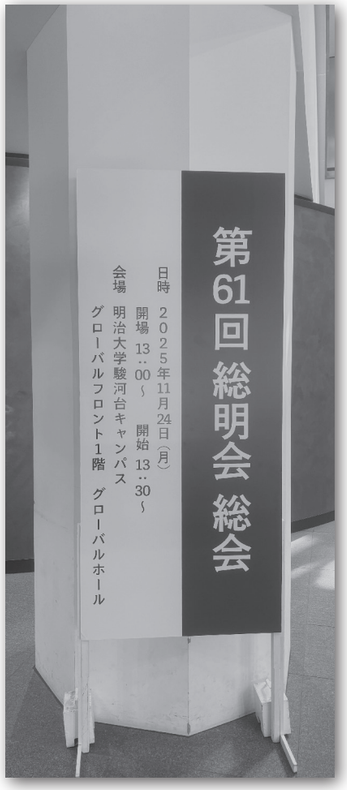
本年度の**幹事学年（H11卒）**は**「明哲会（めいてつかい）」**です。年間活動テーマ**「つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地」**です。「伝統・歴史」があり、「現在」があり、「未来」があります。若い世代に「つなぐ」意思と年代を問わず「つながること」を目指しています。今年度の総会懇親会は11月22日（日）に調布の明治高校での開催を予定しています。お一人でも多くの方に総会・懇親会にご参加いただけますようお願い致します。

総会委員会 活動報告

総会委員会 委員長
金子 敦史

令和7年度の総会・懇親会は明治大学駿河台キャンパスのアカデミーコモンにおいて開催されました。開催に際しまして、多大なるお力添えを頂きました関係者各位、ご参会下さったご来賓並びに総明会員各位に改めまして心より御礼を申し上げます。

そして、幹事学年の紫98倶の皆様、本当にお疲れさまでした。アカデミーコモンでの開催は10年ぶりとなりましたが、当時から継承できること、今回新たに検討や対応をしなければならないことなどがあり、開催準備には相当な力量を要するものであったことと思います。私たちが慣れ親しんだ場所での開催による安心感や居心地の良さなどに対して、学問の場での開催による緊張感などもあったのではないでしょうか。盛会のうちに滞りなく無事に終了し、幹事学年の引継式も終えることが出来たこと、今回も大成功だったと言えるはずです。本当にお疲れさまでした。



さて、本年度の総会・懇親会は11月22日（日）に母校明治高等学校・中学校の調布校舎において開催致します。本年度幹事学年の明哲会の皆さんも強い想いをもち、テーマに沿って考え抜いた企画などでご来賓並びに総明会員の皆さまをおもてなしすべく、準備を進めております。私ども総会委員会と致しましても、全力でサポートをして参ります。

本年度、私ども総会委員会には昨年度幹事学年の紫98倶より、大関委員、古宇田委員、那部委員が新たに加わりました。皆さま、今年度のフィナーレ、集大成となる第62回総明会総会・懇親会へ、是非とも足をお運び頂けます様、お願い致します。幹事学年明哲会と総会委員会一同、心よりお待ち申し上げております。

広報委員会 活動報告

広報委員会 委員長
遠藤 克彦

年の瀬も押し迫る2025年12月、各委員会役員および幹事学年が集合形式にてオリエンテーションレクチャーを実施し、総明会各委員会の活動方針や会報の編集工程等について共有いたしました。時代の変化に対応しながら調和を図り、総明会の基幹を担う広報委員会として新たなステージへ進化してまいりたいと考えております。

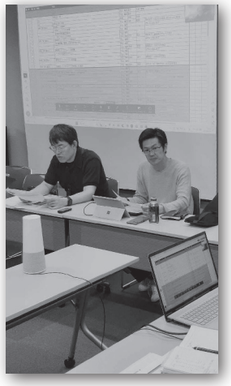
「紫紺の詩」発刊活動

年初より平成11年卒「明哲会」が幹事学年として会報制作活動を進めてまいりました。

本年の幹事学年活動テーマは、**「つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地」**です。歴史や伝統を現在へ、そして未来へと「つなぎ」、世代を問わず「つながる」ことを目指しています。そして母校を共通の座標軸としながら社会の多様なフィールドで活躍する卒業生の今（現在地）と共に歩んでいく姿勢を示すことを主題としております。駝鳥会報委員長を中心に企画・取材を進め、「夢、つかもうぜ」という会報テーマのもと、各分野で活躍する卒業生および現役生の特集を組みました。ぜひご高覧いただけますと幸いです。

「M」発刊活動

三浦副委員長を中心に、若手会員の皆様に楽しんでいただける誌面を制作しております。平成23年卒から平成31年卒までの13人（林田こずえさん、高橋凌士さん、三浦直人さん、朝倉貴紀さん、土屋弦さん、岩田澪夏さん、坂本駿太さん、塩出研史さん、垣日菜子さん、髙波茉生さん、井畔杏里紗さん、橋本大輝さん、小林麻衣さん）が企画・編集を担当しており、本年はスポーツ界で活躍する卒業生の記事を掲載いたします。例年通り、「紫紺の詩」に同封してお届けする予定です。



「ホームページ」運営

林副委員長を中心に、総明会活動および幹事学年活動などについて、タイムリーな情報発信を行っております。本年度も動画コンテンツ「SOUMEI MAGAZINE」を掲載し、会員の皆様に活動内容をより分かりやすくお伝えしてまいります。

最後になりましたが、各インタビュー等の取材協力やご寄稿、情報提供に多大なるご理解とご協力を賜りました皆様、編集・校正・印刷・発送作業にご尽力くださった皆様、ならびに学校関係者各位に、心より御礼申し上げます。

総務委員会 活動報告

総務委員会 委員長
宮嶋 優光

総明会会員の皆様、いつも総明会活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

総務委員会は総明会の裏方として、現在4名で担当させていただいております。

委員会の活動内容につきまして、ご存じない方もいらっしゃるかと思いますので、簡単にご報告させていただきます。

1.評議員会の準備・運営
◆評議員会の案内状送付、出欠管理、当日の受付業務、議事録作成

2.学年・班クラブ評議員懇親会の準備・運営
◆会場選定、案内状送付、出欠管理、会場との調整

3.総会での議事録作成

4.忘年会の準備・運営
◆会場選定、案内状送付、出欠管理、会場との調整
活動内容は以上となります。

本年度の幹事学年は、活動テーマとして**「つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地～」**を掲げています。

母校という共通の原点を大切にしながら、世代を超えた交流を深め、それぞれの活躍を認め合い、未来へつないでいくという想いが込められています。

総務委員会としても、担当する各会が卒業生同士の「つながる」機会となるよう、伝統を大切にしながら、より魅力ある総明会づくりに努めてまいります。

ぜひ、各会へのご参加はもちろんのこと、各種ご案内へのご返信・ご協力も賜れますようよろしくお願い申し上げます。

なお、7月第1週の土曜日には紫紺館6階ラウンジ明治にて、「学年・班クラブ評議員懇親パーティー」を開催し、総明会理事を含む42名の皆様にご参加いただき、盛大に開催されましたことをご報告いたします。

同会は毎年7月第1週の土曜日を開催予定日としております。来年もぜひご参加ください。



企画委員会 活動報告
チャリティーゴルフ

平成11年卒　明哲会ゴルフ委員長
白川　誠

２０２６年５月16日、千葉県茂原市にあるムーンレイクゴルフクラブ茂原コースにて、第30回総明会チャリティーゴルフ大会が開催されました。当日は雲ひとつない青空が広がり、爽やかな風が吹く絶好のゴルフ日和となりました。予定どおり早朝よりスタートし、総勢１０５名の総明会ゴルファーの皆さまにご参加いただき、大変盛況な大会となりました。

今回は昭和39年卒の大先輩から令和３年卒の若手ＯＢまで、実に57年の世代差を超えてご参加いただきました。令和の卒業生が初めてチャリティーゴルフ大会に参加してくださったことは大変印象的であり、総明会の伝統が着実に次の世代へ受け継がれていることを実感いたしました。

また、恩師である吉田重幸先生、並木啓先生にもご参加いただきました。先生方を囲んで懐かしい思い出話に花を咲かせる姿も多く見られ、会場は終始和やかな雰囲気に包まれておりました。

幹事学年である明哲会からは、私を含む６名が初めてプレーに参加し、３名が運営サポートとして大会を支えました。大会準備を進める中では、企画委員会に限らず多くの先輩方から温かいご指導とご助言をいただきました。

当日は不安と期待が入り混じる中でのスタートとなりましたが、先輩方からのお声掛けや励ましに支えられ、総明会の懐の深さと結束の強さを改めて感じることができました。

競技は例年どおり新ペリア方式で行われ、各部門で熱戦が繰り広げられました。個人戦では昭和59年卒の渡邊文夫氏が見事優勝されました。誠におめでとうございます。

また、名人戦は昭和43年卒の小田嶋保男氏、学年・クラブ対抗戦は闘紺会の皆さまが優勝されました。その他にも各賞を受賞された皆さま、誠におめでとうございます。

プレー終了後の表彰式・懇親会は、今回初めてビュッフェ形式で開催いたしました。参加者の皆さまには食事を楽しみながら交流を深めていただき、校歌斉唱では大きな歌声が響き渡り、第30回の節目にふさわしい盛り上がりを見せました。また、第30回の記念大会という節目を迎えるにあたり、参加者の皆さまへオリジナルのネームプレートを記念品としてご用意いたしました。当日は多くの方にお喜びいただき、自身の名前が刻まれたネームプレートを手にされる皆さまの笑顔が印象的でした。

振り返りますと、このチャリティーゴルフ大会の魅力は、世代や立場を超えて同じフィールドに立ち、一日を共に過ごせることにあると感じております。昭和・平成・令和の卒業生が集い、恩師の先生方とも交流できるこの大会は、総明会ならではの大切な財産であると改めて実感いたしました。

また、本大会に際しましては、多くの皆さまよりご寄付、ご協賛ならびに賞品のご提供を賜りました。おかげさまで学校へのチャリティー金額は11万円となりました。皆さまからの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

最後になりますが、第30回総明会チャリティーゴルフ大会の開催にあたり、ご参加いただいた皆さま、そして大会運営にご尽力いただいた全ての関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

今後も総明会の絆を深める場として、本大会が末永く続いていくことを願っております。来年もより多くの総明会ゴルファーの皆さまにご参加いただけますよう、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。


個人戦優勝　明心会の渡邉文夫 氏


学年対抗戦優勝の闘紺会　左から山口達明 氏、宮島賢 氏、星野高士 氏

寄付ご報告

佐藤　健一	明楽会	金一封
大出　育男	明楽会	金一封
尾島育四郎	四一明友会	金一封
栗田　茂	男坂倶楽部	賞　品
比留間竹郎	獅子の会	賞　品
堀　眞壽	明潮会	賞　品
山崎　秀樹	明紫会	金一封
近藤　敏彦	明紫会	金一封
平野　一哉	明心会	金一封・賞品
田中　重幸	明心会	金一封
土田　正昭	新世輝	金一封
宮嶋　優光	紫誠会	賞　品
木本　隆史	紫雲会	賞　品
ムーンレイクゴルフクラブ茂原コース	様	賞　品

学校チャリティー金額　11万円

		氏名	卒業年	OUT	IN	グロス	HDCP	ネット
個人戦	優勝	渡邉　文夫	明心会	44	40	84	13.2	70.8
	準優勝	宮島　賢	闘紺会	40	39	79	7.2	71.8
	3位	木内　貞和	明鐘会	43	42	85	13.2	71.8
	ベスグロ	衣笠　学	明紫会	36	41	77	4.8	72.2

		氏名	卒業年	OUT	IN	グロス	HDCP	ネット
名人戦	優勝	小田嶋 保男	紫讃会	46	46	92	16.8	75.2
	準優勝	木村　茂	明潮会	41	44	85	9.6	75.4
	3位	斎藤　公義	明潮会	42	40	82	6.0	76.0

		チーム名	代表選手			ネット
学年対抗戦	優勝	闘紺会	宮島　賢	星野 高士	山口 達明	221.6
	準優勝	明輪会	齊藤 俊英	大野 久芳	小泉　穣	223.8
	3位	明愛会	河合 広明	小山 和久	斉藤　康弘	224.8

企画委員会 活動報告
明朗会

企画委員会　担当理事
荘司 康夫

２０２５年度明朗会（60歳以上の先輩方をもてなす会）は、10月５日（日）に、新宿のものまねショーレストラン「そっくり館キサラ」を貸し切って開催されました。

ねんねん、ビスケッティ佐竹、小岩ケン、小川美佳、ジョーク東郷、立川真司の６名が、ＴＶのものまね番組で披露しているネタで存分に楽しませてくれました。井家上校長には、ジョーク東郷のネタで快く（？）標的になっていただき、会場を盛り上げていただきました。お礼申し上げます。

今回は、明治大学校友会全国大会と重なってしまったにも関わらず、60歳以上の先輩24名、平野副会長にお声掛けいただき、今回初参加していただいたＰＴＡ関係の方々６名を含め、合計52名に参加頂き、皆さん、笑顔で大いに盛り上がったイベントとなりました。ご参加いただいた皆様、有難うございました。企画委員会を代表し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、今回も多くの方からご寄付をいただきました。近藤敏彦様（Ｓ50年卒）、岡本雅仁様（Ｓ51年卒）、土田正昭様（Ｓ61年卒）、尾崎博之様（Ｓ63年卒）。また、平野一哉様（Ｓ59年卒）には、参加者の募集に大変お世話になりました。

この度は、過分なるご支援を頂き、誠に有難うございます。

今後も「明るく朗らかな」会を企画して参りますので、ご支援ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



組織委員会 活動報告

組織委員会　委員長
福島 維規

今年の組織委員会の行事も差なく行うことができました。活動の中心である就活会は、10年を迎え、すでに定番行事となりました。昨年の就活会は、アカデミーコモンでの開催という利点がある一方、学校授業日なので学生が集まりにくいという欠点を抱えており、学生をいかに呼び込むかについて、紫98倶の皆さんが知恵を絞ってくれました。その結果、今までにない、出入り自由の交流会形式という新しいスタイルに挑戦してくれました。また懇親会へも多数の学生が来て下さり、とても良い会となりました。３月の総明会新入会員歓迎会では、12名の高Ⅲ卒業生が参加してくださいました。例年通り懇親を深めることができたうえに、平野副会長からお土産のプロテインまでいただき、皆さんとても満足そうでした。最近の課題である高校卒業から、切れ目なく総明会の行事に参加して頂けるようなことについては、ＰＲ活動を行い、強化していきたいと思います。

さて、今年の就活会は、初の明治高校での開催となります（一昨年の就活会は別会場でした）。場所や先生方など利点が多いと思いますので、利点を生かし、多くの学生に参加いただけるような内容にしたいと考えています。



また法曹部会も活発な活動を行っております。昨年度に引き続き、今年も２名の明高ＯＧの新人弁護士が入会いたしました。８月の高大連携サマーセミナー模擬裁判では、明治高校ＯＢで帝京大学准教授の長島光一先生にも参加して頂きました。秋の裁判傍聴は、９月29日と10月１日の２日に分けて開催、両日合わせて生徒31名、保護者11名にご参加いただきました。参加者には中学１年生もおり、非常に関心の高い行事となっていると感じております。また卒業を控えた２月の実用法律講座では、高Ⅲ卒業生に向けて、「大学生活におけるトラブル実例と解決策」というテーマで、若手の弁護士の方にご講演頂きました。このほかにもインターンシップ等も行っており、法曹界を目指す生徒と保護者にとって、有意義な活動を続けております。

組織委員会、法曹部会ともにＯＢＯＧ会として、現役の中高生、若い卒業生のためになる活動を行っておりますが、自分達でできることは多くなく、幹事学年の皆様、学校関係者、諸先輩方のお力をお借りすることで成り立っていると感じております。この場にて改めて御礼申し上げるとともに、これからの活動についても、よろしくお願いいたします。

名簿委員会 活動報告

副事務局長（名簿担当）
三谷 知弘

名簿委員会は、毎年会員の皆様へお届けしております会報『紫紺の詩』をはじめ、評議員会やゴルフ、明朗会等への宛名シール、情報の提供を行っております。

名簿委員会は事務局の管轄となっており、私の方で対応しておりますが、名簿の管理に関しては引き続き尾崎専務理事が行っております。

これまで評議員会、チャリティーゴルフ、会報の寄稿依頼、評議員会の宛名シールの発行、本年度高校を卒業した新入会員のデータの名簿へ追加などの業務を行ってきました。中でも大事な仕事が、名簿の内容変更連絡に対する名簿の修正です。会報や各ご案内が一人でも多くの会員の皆様に届くように名簿の更新を随時行っております。しかし、この名簿の更新はご連絡をいただかないと行うことができません。つきましては、会員の皆様において転居等情報の変更がございましたら、ご一報いただけますようお願い致します（下部に連絡先記載）。

また、各学年、班クラブOB・OG会において名簿のアップデートをご希望される場合、代表の方からご連絡をいただければ、こちらで管理している最新情報との突き合わせも可能ですのでお声掛けください。

さらに、同期会の案内を出されます幹事の皆様においては、ご要望いただければ宛名シールの出力も有料になりますが対応致します（1回1、000円）。

名簿は大切な個人情報ですので、これからもプライバシーポリシーのもと厳格な管理を心掛けて参ります。引き続き皆様のご協力をお願い致します。

住所変更・宛名シール出力等の連絡先
総明会専務理事　昭和63年卒　尾崎博之
メールアドレス：hcozaki@cropozaki.com
FAX：03-5820-0742

※口頭での誤認防止のため、恐れ入りますが
FAX、メールでのご連絡をお願いします。

※また、同期会の宛名シール出力は、1回1,000円
となります。ご了承ください。

寄付金　協力者一覧（2026年8月31日現在）

第62回総明会　御寄付者一覧

◎個人寄付
金　十万円　上野　文男　昭和35年卒
平野　一哉　昭和59年卒
金　五万円　山崎　秀樹　昭和50年卒
近藤　敏彦　昭和50年卒
金　一万円　栗田　茂　昭和44年卒
羽生　光宏　昭和47年卒
廣野　宏士　昭和47年卒
岡本　雅仁　昭和51年卒
淺香　晃房　昭和57年卒
染谷　貴男　昭和57年卒
眞野　大　昭和58年卒
尾崎　博之　昭和63年卒

◎総明会行事
チャリティーゴルフ大会参加者有志一同
金　三十二万二千五百円
学年・班クラブ評議員懇親パーティー
金　三万七千五百円

◎学校関係
明治白駿会有志一同　金　十五万千五百円

◎同期会・班クラブOB・OG会等
明紫会（昭和50年卒）　金　十万三千五百円
明々会（昭和51年卒）　金　十万三千五百円
明誠会（昭和54年卒）　金　十六万三千円
明翔会（昭和56年卒）　金　五万七千円
明魂会（昭和57年卒）　金　十四万八千円
明輪会（昭和58年卒）　金　五万四千円
明心会（昭和59年卒）　金　一万八千円
新世輝（昭和61年卒）　金　五万二千円
明猿会（昭和62年卒）　金　六万五千円
昭和戊辰乃会（昭和63年卒）　金九万千円
平成改元会（平成元年卒）　金　三十五万八千五百円
明愛会（平成2年卒）　金　十三万六千五百円
明仁会（平成3年卒）　金　二十二万二千円
隆明会（平成6年卒）　金　三万一千円
紫縁会（平成7年卒）　金　六万四千円
紫誠会（平成8年卒）　金　十万円
紫雲会（平成9年卒）　金　二万三千五百円
紫98倶（平成10年卒）　金　十七万四千五百円
白雲会（平成18年卒）　金　六千円
ヤマダ大感謝祭　金　五万一千円
放送班OB・OG会　金　五万三千円
明水会　金　四万五千円
応援指導班OB・OG会　金　八万三千五百円
歴史研究部OB・OG会　金　四万四千円
サッカー部OB会　金　一万五千円
明球会　金　十一万三千円
平成4年卒硬式野球部OB会　金　二万七千円

御　礼

寄付広告委員長を務めました加山です。寄付広告の募集活動を、皆様のお力添えにより無事に終えることができました。心より御礼申し上げます。

募集活動は、多くのOB・OGの方々に連絡を取って広告掲載のお願いをしたり、いくつもの同期会に顔を出させていただく活動でした。これまでお会いしたことはないけれど、中学・高校を明大明治という同じ場所で過ごした方々との出会いは、不思議であり面白くもありました。連絡を差し上げたOB・OGの皆様からは、幹事学年への数々の励ましのお言葉を頂戴し、そのたびに、つながりの温かさが胸に沁みました。

この活動は、一人では到底できません。我々は、二十数年ぶりに同期の有志が集まり、皆で作業を分担しながらプロジェクトを進めました。三十年前、同じ教室で同じ授業を受け、同じ制服を着て、窓から同じ景色を眺めていた同級生と、こうして肩を並べて一つの仕事に取り組む時間には、何ともいえない高揚感がありました。見た目はすっかりおじさんになっていましたが、それぞれ社会に揉まれながら、皆きちんと社会人をやっているんだなと感じました。

ご協力いただいた全ての皆様に、改めて感謝申し上げます。総明会のさらなる発展に、微力ながら貢献してまいります。

明哲会　寄付広告委員長
加山　綾一

総明会（明治大学付属明治高等学校同窓会）会則

第1章　総　則

（名称）
第1条　本会は、総明会と称する。

（目的）
第2条　本会は、会員相互の結束と親睦を図り、且つ母校のためにこれを賛助することを目的とする。

（事業及び会計処理）
第3条　本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
1　母校に対する賛助活動を推進すること。
2　会員名簿を整備・管理すること。
3　会報などの広報物を発行すること。
4　同期会の結成を助成し、奨励すること。
5　班部OB会の開催を助成し、奨励すること。
6　その他、本会の目的を達成するために必要なこと。
②　前項に定める事業はすべて一般会計として処理する。ただし、会長は、理事会の議決と評議員会の承認を得て、前項1号ないし6号に定める一部もしくは全部を特別会計として処理することができる。

（事務局、所在地）
第4条　本会の事務を行うために事務局を設ける。
②　事務局は、明治大学付属明治高等学校内に置く。

第2章　会　員

（会員資格）
第5条　本会は、旧制、新制明治中学校、明治大学八丈高等学校もしくは明治高等学校の卒業生ならびに同校に在籍したことのあるものを会員とする。

（入会金及び終身会費）
第6条　会員は、入会の時に入会金及び終身会費を本会に納入するものとする。入会費及び終身会費の額ならびにその徴収の方法は、理事会が明治大学付属明治高等学校校長（以下「校長」という）の同意を得て定める。

（特別会員）
第7条　母校の教職員であるもの及びその職にあったものを特別会員とする。
②　特別会員は、本会が行う事業に参加することができる。

第3章　役　員

（役員の種類及び定員）
第8条　本会に理事10人以上20人以内及び監事2人を置く。
②　本会に会長1人、副会長3人以内、専務理事1人、事務局長1人、会計1人を置く。
③　必要であれば、本会に常務理事を若干名置くことができる。

（役員の選任）
第9条　会長及び副会長の選任は、別に定める「会長及び副会長選出規定」に基づいて選定し、理事会及び評議員会の承認を受け、総会の決議をもってこれを選任する。会長及び副会長はその就任と同時に理事となる。但し、任期中途で会長及び副会長を補充すべき場合は、「会長及び副会長選出規定」に準じて選定し、理事会及び評議員会の承認を得て選任することができる。この場合は選任直後の総会において承認を得るものとする。
②　会長及び副会長以外の理事並びに監事（以下「会長選任役員」という）は、会員の中から、会長が選任する。会長選任役員は、選任後最初の評議員会の承認が得られなかったときは、選任されなかったものとみなす。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員のないように直ちに役員を選任しなければならない。
③　専務理事、常務理事及び事務局長並びに会計は、副会長の同意を得て、会長が理事の中から選任する。
④　役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
⑤　会長は、副会長の同意を得て、いつでも会長選任役員を解任することができる。これにより会長選任役員に欠員が生じたときは、会長は欠員の無いように直ちに役員を選任しなければならない。
⑥　理事は評議員を兼務できない。

（理事会）
第10条　本会の会務の執行は、理事会がこれを決する。
②　理事会は理事をもって構成する。
③　理事会は会長がこれを招集する。
④　理事会の議長は、会長又は会長が指名したものがこれにあたる。
⑤　理事会の議事は、出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
⑥　理事は書面により理事会の決議に加わることができる。
⑦　監事は、理事会に出席し意見を述べることができる。

（会長等の職務）
第11条　会長は本会を代表し、会務を総理、執行する。
②　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した順位にしたがい会長の職務を代行する。
③　専務理事は、会長の指揮のもとに会務を総括してつかさどり、かつ事務局を総括する。
④　常務理事は、専務理事を補佐する。
⑤　事務局長は、専務理事の指揮のもとに事務局を統括する。
⑥　会計は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を行う。
⑦　理事は、会務を分担する。

（監事の職務）
第12条　監事は、本会の会計及び財産の状況並びに会務の執行を監査する。
②　監事は、監査の結果を定時総会に報告する。

（名誉役員）
第13条　本会に名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役を置くことができる。
②　名誉会長、名誉顧問及び顧問、相談役は、本会又は母校に永年にわたり特別に功労のあったものの内から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。
③　学校法人明治大学の総長、学長は、その在任中、名誉顧問としてこれを推戴する。
④　明治大学付属明治高等学校の校長は、その在任中、顧問をそれぞれ推戴する。
⑤　相談役は、会務に永年にわたり功労のあった者の内から理事会が推薦し、評議員会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

総会及び懇親会

（総会の招集）
第14条　定時総会は毎年1回開催し、臨時総会は必要のあるときに開催する。
②　総会は、会長がこれを招集する。
③　総会の招集は、本会が発行する会報に掲載し、もしくはその他の方法で会員に通知して行う。

（総会の議事）
第15条　総会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項のうち理事会が提案し、評議員会が必要と認めた事項を総会における審議事項として決議する。
②　総会の議長は、会長又は会長の指名したものがこれにあたる。
③　総会の議事は、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

（懇親会の開催）
第16条　懇親会は、会員の懇親を目的として毎年1回開催する。
②　懇親会の開催に関する事項は、理事会が決定し、評議員会の承認を得て、会長が会員に通知する。この通知は、総会の招集通知に準じて行う。

第4章　役員の選任及び評議員会

（委員会の設置）
第17条　本会は、第2条の目的の達成及び第3条の規定に掲げる事業の遂行のために必要な事項を調査、研究、審議し、または実施する機関として委員会を設けることができる。
②　委員会は、会則に定めるほか理事会の決議により設置する。
③　委員会は、委員長1人及び委員2人以上をもって構成する。
④　委員長は、理事会の承認を得て会長がこれを委嘱し、委員は、会員及び特別会員の中から会長の同意を得て委員長がこれを委嘱する。
⑤　委員は、委員長がこれを主宰する。
⑥　委員長は、その就任と同時に理事となる。

第5章　委員会

（評議員）
第18条　本会に、卒業学年毎に2人以内の評議員を置く。同期会は、同期会の会員のうちから評議員を選任して本会に届けるものとする。また、総明会に登録した班部OB会毎に1人の評議員を置くことができる。評議員を選任した場合は、本会に届けるものとする。
②　同期会が結成されていないか、もしくは同期会において評議員を選任できない事情があるときは、会長は、当該学年のために同学年の中から仮評議員を選任できる。
③　総明会に登録すべき班部OB会が結成されていないか、もしくは班部OB会に評議員を選任できない事情がある場合は、評議員を置くことができない。
④　同期会の評議員と班部OB会の評議員は兼任できない。

（評議員の職務）
第19条　評議員及び仮評議員は、評議員会に出席するほか、本会の事務のうちその属する学年もしくは同期会及び班部OB会の関係で必要な事務を処理する。
②　評議員及び仮評議員は、適宜代行者を選任して評議員会への出席、その他の事務処理を代行させることができる。

（評議員会）
第20条　評議員会は、この会則に定める事項及びその他の重要な事項につき議決する。
②　評議員会は、会長が適宜これを招集する。
③　評議員会の議長は、会長もしくは評議員の中から会長が指名したものがあたり、その進行は事務局長が行う。
④　評議員会の議事は、出席評議員、仮評議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第6章　同期会

（同期会）
第21条　会員は、学年ごとに同期会を組織するものとする。

② 同期会は、同期会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。
③ 同期会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。
④ 同期会は、同期会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第8章　班部ＯＢ会

（班部ＯＢ会）
第22条　会員は、在学中在籍した班部ごとに班部ＯＢ会を組織することができる。
② 班部ＯＢ会は、ＯＢ会名簿を整備し、運営に関する準則を定めるものとする。
③ 班部ＯＢ会は、その選任した評議員の職務の執行を助けなければならない。
④ 班部ＯＢ会は、ＯＢ会の総会を開催したときは、本会に報告するものとする。

第9章　会　計

（会計の分類と会計年度）
第23条　本会の会計処理は、一般会計と特別会計に区分して行い、特別会計はこの会則に定めのある場合の他、理事会において特に定めた会計に関する会計処理、一般会計は特別会計を除いたすべての会計処理とする。
② 本会の会計年度は、毎年９月１日に始まり、翌年８月31日に終わる。

（基金）
第24条　理事会は、本会の財政基盤を安定させ、また第３条に定める事業の遂行資金を形成するため基金を積立てる努力をしなければならない。
② 基金は、特別会計（以下「基金特別会計」という。）で処理する。
③ 入会費、寄付金のうち理事会で基金に組入れることを決議したもの、並びに基金へ組入れることを目的とする寄付金（以下「特別基金」という。）は、基金として基金特別会計に計上し、この会則に定めのある場合を除き支弁することはできない。
④ 基金は、財政基盤基金と事業遂行基金をもって構成する。
⑤ 基金への組入金は、財政基盤基金の総額に満つるまで優先してこれに充当する。
⑥ 財政基盤基金の総額は、総会の決議により決定しもしくは変更する。この場合、第28条の定め（特別決議）を準用する。
⑦ 財政基盤基金は、原則として取崩すことができない。ただし、総会において承認を得た場合はこの限りではない。この場合、第28条の定め（特別決議）を準用する。
⑧ 基金のうち、財政基盤基金の総額を超える額を事業遂行基金とする。
⑨ 事業遂行基金は、第３条１項１号に定める事業もしくは理事会で決議した事業に支弁するため、理事会及び評議員会の決議によりこれを取崩し、当該事業のために支弁することができる。
⑩ 会長は、緊急に対処を要すると認めた事項（以下「緊急処理事項」という。）のために、副会長の同意を得て、事業遂行基金を取崩し緊急処理事項に支弁することができる。この場合、会長は、緊急処理事項が生じた後、最初に開催される総会において、当該事項の緊急性及び事業遂行基金取崩しの必要性を説明し、取崩しについて承認を得なければならない。
⑪ 事業遂行基金を支弁して行う事業を検討するため、本会に基金事業委員会を設置する。第17条４項の定めにかかわらず、この委員会は委員長１人と委員８人をもって構成し委員は理事の中から委員長が選任する。

（経費）
第25条　本会の経費は、入会費（ただし基金組入れ分を除く。）並びに一般会計に属する財産から生じる果実その他特別会計に属さない収入をもって支弁する。

（予算）
第26条　会長は、会計年度の終了する前に、理事会の承認を得て翌会計年度の予算を作成する。翌会計年度の予算は、評議員会の承認を得て、総会に提出してその承認を得なければならない。
② 前項により、会長は、その会計年度の最後に開催される評議員会に翌会計年度の予算を提出し、その承認を得た場合は、翌会計年度の初めから総会開催の日までの間、その予算を執行できるものとする。

（決算）
第27条　本会の収入支出の決算は、監事がこれを監査し、会長がこれを総会に提出して報告しなければならない。
② 基金特別会計の決算報告においては、財政基盤基金と事業遂行基金を区別し、それぞれの収支の概要及び決算時の在り高のほか、特別基金の累計額を報告するものとする。

第10章　補　則

（特別決議）
第28条　本会の会則の改正は、総会における出席会員の４分の３以上の多数による決議によらなければならない。

（届出）
第29条　会員は、氏名、住所及び職業を変更したときは本会に届け出るものとする。
② 同期会は同期会員名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。
③ 班部ＯＢ会は、ＯＢ会名簿及び役員名簿を本会事務局に届け出るものとする。

附　則

（経過措置１）
第１条　（年会費同期会）

前回の会則の改正が施行された平成11年１月１日以前に会員となった者で構成される同期会（以下「年会費同期会」という。）が納入する年会費については、次に会則改正のあるまで改正前の第７条の定めによるものとする。

第２条　（年会費）
同期会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。

（経過措置２）
第１条　（年会費班部ＯＢ会）
班部ＯＢ会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

第２条　（年会費）
班部ＯＢ会の納入する年会費は、第25条の定める経費に支弁する。

（施行期日）
この会則の改正は、平成18年12月３日より施行する。

（参考）
改正前第７条（年会費）
同期会は、本会を運営する費用に充てるための年会費を納入するものとする。年会費の額及びその納入方法は、評議員会で定める。

（経過措置３）
第１条（会計年度）
経過措置として令和６年４月１日から８月31日の５か月という会計期間を設け、総会において会計報告及び承認を受けることとし、令和６年９月１日から通常通り会計期間を１２か月に移行する。

（施行期日）
この会則の改正は、令和５年11月25日より施行する。

（参考）
改正前第23条②（会計年度）
本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

総明会会長及び副会長選出規定

会則第９条１項に基づき、会長及び副会長の選出は本規程により行う。

（選出委員会の設置、解散、委員の選出）
第１条　会長及び副会長の選出を行う場合は「選出委員会」（以下委員会という。）を設置する。
② 委員会は役員改選又は補充の時期に合わせて、十分な期間を考慮し、理事会が設置する。
③ 委員会の構成は、委員長１人、委員６人とする。委員の選出は理事会及び評議員会で各々３人とする。委員長は会長が指名したものがこれにあたる。
④ 委員会の解散は、総会において会長及び副会長が選出された時点とする。

（会長、副会長の選出、承認について）
第２条　委員会は、会長及び副会長の選出にあたり、推薦及び立候補を受付け、その者をもって候補者とする。
② 候補者の中より、会長及び副会長候補者を選出する。選出においては全員一致を原則とするが、定員に絞り込めない場合は、その状態で選出終了とする。
③ 理事会は、委員会より選出された候補者の承認を行う。
④ 評議員会は、理事会で承認された候補者の承認を行う。
⑤ 評議員会において承認された会長、副会長は、総会の決議をもって、これを選任する。

（理事会の承認）
第３条　委員会より選出された会長候補者が１名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。
② 委員会より選出された会長候補者が２名以上の場合、理事会において投票を行い、最も得票数の多い候補者を会長候補者として承認する。
③ 委員会より選出された副会長候補者が３名の場合、理事会において過半数の信任をもって承認されたものとする。
④ 委員会より選出された副会長候補者が４名以上の場合、理事会において投票を行い、得票数の多い順に３名を副会長候補者として承認する。

（評議員会の承認）
第４条　理事会より選出された会長及び副会長候補者は、評議員会において過半数の信任をもって承認されたものとする。

（会長、副会長の資格）
第５条　会長及び副会長の資格は次の各号のいずれをも満たすものとする。
１　総明会会員として20年以上在籍していること。
２　評議員又は理事を経験していること。
３　立候補届出締め切り時の年齢が70歳未満であること。

この規定は、平成26年11月16日より施行するものとする。

新たな顕彰制度

『総明会AWARD』制定について

２０２５年11月１日の評議員会において、評議員より「新たな顕彰制度」を制定して欲しいとのご意見を頂き、多数の評議員からも賛成意見を頂戴いたしました。これを受けて、その後の理事会・評議員会において検討を重ね、以下のような顕彰制度の制定を提案することとなりました。

「総明会AWARD」顕彰規定（案）

第1条　顕彰の名称

本顕彰制度の名称を「総明会AWARD」とする。

第2条　顕彰の対象者

「総明会AWARD」を授与する対象者は、明治中学校・高等学校に在学するすべての生徒と班・クラブなどの団体で、その活動で顕著な成績・結果をおさめた場合のみならず、成績結果を伴わないまでも、その努力・頑張りが群を抜き、他に良い影響を与えることができた場合も含める。

第3条　顕彰の目的

明治中学校・高等学校に在籍する生徒個人・団体の頑張りを同窓会として顕彰することで当該受賞者のモチベーションを高め、母校の発展に寄与することを目的とする。

第4条　顕彰の申請

「総明会AWARD」の申請は総明会会員が行い、申請書類を総明会会長に提出する。

第5条　顕彰の審査

①総明会理事会はその年度の顕彰申請を審査するために「顕彰委員会」を設置する。
②「顕彰委員会」の委員は委員長を含め5名とし、理事2名、理事以外の総明会会員より3名を理事会が指名する。
③顕彰委員会は提出された申請書類をもとに顕彰の可否を審査し、その結果を理事会に 報告する。
④理事会は顕彰委員会からの報告をもとに最終的に賞の授与を判断する。

第6条　顕彰の方法について

「総明会AWARD」受賞者には表彰状と記念品を授与することとし、その旨学校側に連絡した上で、全校生徒が集まるいずれかの学校行事の中で総明会より授与させて頂けるようお願いする。

【付帯説明】

本規定を検討する中で、第2条の顕彰ルールに客観性がなく、申請者が主観的に判断できうる規定となっているために恣意的な運用が可能ではないかと懸念する意見も出された。しかし、顕彰ルールに関しては、競技大会などに参加するクラブやそれの発表の場のないクラブなど、学内での在校生の活動は多岐にわたっており、活動に顕彰ラインを設定すること自体、難しい事であると認識した。このことを踏まえた上で、「顕彰すること」が、当該受賞者のモチベーションを高め、母校の発展に寄与する」という顕彰本来の目的のために規定を設けたわけである。従って、このAWARDの価値を高めることも今後の運用によって形成していく以外にはないと考えている。今後の具体的な運用において少しずつ顕彰ラインを設定していけるように審査が行われていくことを期待する。また、規定中「群を抜く」という表現は、顕彰対象者の誰もが自他共に認められる対象者であるということであり、その対象者を申請する総明会会員もこの点をよく確認して申請書の提出をお願いしたい。



前年度幹事学年挨拶

第61回総明会 実行委員長
平成10年卒　紫98倶
古宇田　大介

昨年の第61回総会・懇親会の開催にあたり、諸先輩方ならびに学校関係者の皆さまには多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。10年ぶりに駿河台キャンパス・アカデミーコモンでの開催が実現し、多くの卒業生が母校・明治の空気を感じながら旧交を温めることができたことは、幹事学年一同にとっても大きな喜びであり、改めて総明会の絆の強さを実感する一日となりました。

幹事学年として、より若い世代にも総明会の総会・懇親会を身近に感じてもらえるよう、就活会を従来の同日開催へと戻し、母校の先生方にも多大なるご協力をいただきました。大学生の参加者が増えたことで、卒業後の進路や仕事観について世代を超えて語り合う場が生まれ、若い世代が自然に集い、先輩方と交流する姿から、総明会がこれからも長く続いていくための大切な基盤が育まれていることを実感しております。

懇親会のフィナーレでは、応援指導班と吹奏楽班による力強い指揮と演奏のもと、校歌が会場に響き渡りました。世代を超えて声を合わせるその光景は、明治の伝統と卒業生の結びつきの深さを改めて感じさせるものであり、胸が熱くなるひとときとなりました。

また、懇親会後の二次会には、学年主任として長年お世話になった大野先生をはじめ、就活会でもご尽力いただいた駒形先生、由井先生、西村先生、さらに中学入学当初から温かくご指導いただいた村田先生にもご参加いただきました。恩師と旧友に囲まれ、学生時代の思い出が鮮やかによみがえる、かけがえのない時間となり、先生方の変わらぬご厚情に触れながら、明治で学んだ日々が今も私たちの支えとなっていることを改めて感じる機会にもなりました。

今年度は再び明治中学・高等学校での開催と伺っております。お茶の水世代と調布世代が総明会を通じてさらに結びつき、本会がより一層発展していくことを心より祈念申し上げます。



次年度幹事学年挨拶

第63回総明会 実行委員会
平成12年卒　明瀑会
齋藤　秀樹

明治中学時代は水泳部、明治高校時代は今年度実行委員長の大室先輩の後輩として、サッカー部に在籍しておりました。

大学時代は1年ほど、明治高校サッカー部のコーチをさせていただき、大学卒業後、28歳くらいの時に調布移転し中学サッカー部が立ち上がった頃、土日だけ中学サッカー部コーチを務めさせていただきました。

29歳で子供が生まれた為、わずか1年だけで退任させていただきましたが、中学サッカー部のコーチの経験がその後の人生に影響を与えました。長男が小学校入学とともに地元少年団に入り、保護者コーチとして活動し、学年監督を6年間つとめ、子供が卒業後も1年生に戻り、現在4年生の監督を務めております。

既に監督も10年目になり、まさか自分がこんなに長くサッカーを続けるとは思っておりませんでしたが、明治中高での経験が導いてもらえたものと思っております。

また仕事としては地方銀行に勤務しており、地元住民、地元企業の方々とのかかわりが重要である中、私が店舗の責任者となった時、偶然ですが地元の町会長が明治中学・高校出身の大先輩であり、明治大学校友会もご紹介いただき、地元の明治大学、明治高校出身の先輩方に大変お世話になっており、後輩というと皆が可愛がってくれ、年齢は大きく違っても色々なお話で盛り上がり、時を忘れて飲んでしまう事もしばしば…（笑）

こんな明治高校や明治大学の先輩方とのかかわりが多い私ですが、実は同級生とはサッカー部や一部の友人たち以外とは大学卒業後、または高校卒業後、ほとんど会う事もなかったのです。

来年度総明会幹事学年という事もあり、バスケ部を中心に声掛けがあり、去る5月2日にリバティタワーにて、おそらく公式に集めた初の同窓会を実施致しました。本当に久しぶりに会う友人たちと最初はぎこちない面もあったかもしれませんが、やはり同窓の面々はすぐに打ち解け、非常に楽しい時間を過ごせました。

それぞれ仕事、家庭の状況も違う中ですが、幹事学年が46歳になる年齢で回ってくる理由が分かった気がしました。

総明会については毎年開催されているのは知っていますが実は参加したことはありませんでした。今年を皮切りに今後は参加したいと思っております。



本年度幹事学年挨拶

第62回総明会 実行委員長
平成11年卒　明哲会
大室　智

今年度、幹事学年を務めさせていただきます「明哲会」の実行委員長、大室智と申します。私は高校サッカー部が創部された際の一年生であり、共学化後もしばらくの間、週末は明治中高に関わってまいりました。猿楽町時代から調布へと舞台が移りゆくなかで、母校の「変わるもの」と「変わらないもの」を肌で感じてきました。

我々幹事学年の名称「明哲会」は、2020年にご退任された粟野哲也先生に6年間学年主任をしていただいた感謝の念を込め、先生のお名前から一文字をいただき名付けたものです。我々の同期の絆は強く、活動開始当初から50名以上が力を貸してくれ、その輪は活動を進めることに着実に広がっています。

今年度の活動テーマには『**つなぐ、つながる、明治高校～母校と歩むそれぞれの現在地**』を掲げました。先輩方が築き上げてきた「伝統・歴史」があり、我々の「現在」があり、若い方々が創る「未来」があります。我々は能動的に若い世代へ「**つなぐ**」意思と、年代を問わず「**つながること**」を目指す意思をこのテーマに込めました。これまでも大先輩から若いOB・OGまで、幅広い世代と「**つながる**」ことを意識し、活動を通じてささやかながら実現してきたつもりです。

その集大成となる秋の式典は、11月22日（日）に調布校舎にて開催いたします。

「**これまでの総明会を尊重し、未来の若い世代へつなぐ**」という気持ちを込め、いまや卒業生の3分の1が青春を過ごした調布の校舎を舞台に選びました。大先輩から若い方々まで、ぜひ多くの皆様にご参加いただけますよう、心よりお願い申し上げます。







【編集後記】

平成11年卒　明哲会　会報委員長
蔵島　亮

「夢つかもうぜ。」

このテーマは、第1回広報委員会の後、大室智実行委員長、田中健一編集長と居酒屋で語り合う中から生まれました。当初は「仕事も忙しい中、どう効率よく作るか」と考えていましたが、田中編集長の「せっかくやるなら、本当に読みたくなるものを作ろう」という一言で覚悟が決まりました。取材、誌面構成、写真一枚、一文字に至るまで（ゃ）、「どうすればもっと伝わるか」と考え続けた半年でした。

私の父も昭和39年に明治高校を卒業しました。小学5年生で文化祭を訪れ、「僕もこの学校へ行く」と心に決め、その夢は叶いました。中学ではバスケットボール部、高校では創部されたばかりのサッカー部へ。創部に情熱を注いでくださった田中徹太郎先生、田中龍臣先輩をはじめとした先輩方、監督・コーチをしていただいた中山ご兄弟のおかげで私たちはその夢の続きを歩めました。北千住や小菅の河川敷へ通い、ボールを追った日々は、今も人生の原点です。

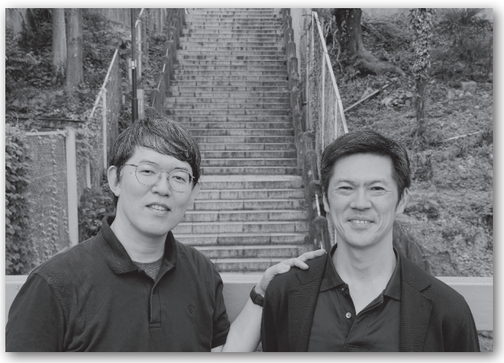
本誌の取材で六年間学年主任としてお世話になった粟野哲也先生にお会いした瞬間、私は一気に中高生へ戻りました。先生の前では、卒業しても生徒のままなのだと改めて感じました。我々が幹事学年として活動していることを「夢がかなった。」と言っていただいたことは、取材活動を通じて胸が一番熱くなった瞬間でした。

この一冊は、ご寄稿、インタビュー、校正にご協力くださった皆様、ご寄付をいただいた皆様、そして共に走ってくれた明哲会の仲間たち、広報委員会の皆様の力で完成しました。心より感謝申し上げます。

この一冊が、遠ざかっていた仲間や恩師との時間をもう一度つなぎ、胸の奥にしまっていた夢に、再び手を伸ばすきっかけとなれば、これほど嬉しいことはありません。

夢つかもうぜ。

あの日、明治で笑い、泣き、夢を語り合った私たちは、卒業した今も、それぞれの場所で、あの青春の続きを生きています。



会報委員長・蔵島（左）と実行委員長・大室（右）

総明会 就活会 2026 ／ 明治高校OB・OG × 大学生 座談会

先輩の“本気の話”、
今年はどのテーマで聞きますか？

A キャリア多様化編

「明高卒 × いろんな進路」

ベンチャー／大手／士業／研究職／海外 …
多様な業種のOB・OGが順番にキャリアを語る

→「自分はどの道に近いか」を考える材料に

B リアル赤裸々編

「明高卒 社会人1〜2年目の今」

新卒〜数年目の若手OB・OGが赤裸々に。
年収・残業・転職・失敗談まで、

→ 等身大の“ちょっと先の未来”が見える

C 逆質問・壁打ち編

「あなたの悩み、先輩が真剣に壁打ちします」

学生からの相談を中心にした双方向形式。
ES・業界研究・面接対策・進路の迷い…

→ ガクチカ・ES・面接対策に本音で答える

D 業界深掘り編

「気になる業界の“中の人”に、直接聞ける」

金融／コンサル／メーカー／IT／商社 …
業界別ブースで明高OB・OGが現場を語る

→ Webでは届かない“一次情報”が聞ける

郵便はがき

料金受取人払郵便

１２４－８７９０

葛飾局
承 認
1010

差出有効期間
2026年12月31日
まで（切手不要）

東京都葛飾区お花茶屋3-4-3

第62回 総明会 総会・懇親会 幹事学年

明哲会 田村 幸吉 行

◆ 開催日時

2026年11月22日(日)

14:00 〜 15:15

（予定）▶ 終了後 懇親会に合流可

◆ 開催場所

明治高校 調布校舎

久しぶりに、母校で。
先生に「ご無沙汰しています」を言うチャンス。

◆ 対象者・参加費

明治高校OB・OGの大学生／大学院生
他大学進学者も歓迎 服装：私服OK 参加費：無料

▶ 事前申込 受付中

QRコードからお申し込みください

第62回 総明会実行委員会

平成11年卒

明哲会

【幹事学年 明哲会 総明会幹事学年用組織一覧/敬称略】

実行委員長	大室　智	（サッカー部）
事務局長	石川　一仁	（柔道部）
副事務局長	田村　幸吉	（硬式野球部）
委員	宮下　崇	（卓球部）
委員	本多　貴之	（化学部）

式典委員長	山岸　裕也	（バスケットボール部）
式典副委員長	村田　隆一	（バスケットボール部）
式典副委員長	池田　博政	（バスケットボール部）
委員	森田　英行	（生徒会本部）
委員	阿部　昌弘	（吹奏楽班）
委員	髙野　猶幸	（吹奏楽班）
委員	舩越　大介	（書道部）
委員	谷田部崇男	（天文部）
委員	小川　達也	（山岳部）
委員	杉本　直之	（柔道部）
委員	西岡　聡	（柔道部）
委員	矢吹　優征	（柔道部）
委員	岸野　直樹	（剣道部）
委員	吉田　勉	（剣道部）
委員	銭谷　俊宏	（陸上競技部）
委員	内海　雄介	（硬式野球部）
委員	羽田　真悟	（硬式野球部）
委員	三井　亮人	（硬式野球部）
委員	山際　将史	（硬式野球部）
委員	春日　重俊	（高校軟式野球部）
委員	神　尚宏	（高校軟式野球部）
委員	富田　皇一	（高校軟式野球部）
委員	中山　正晃	（映画研究部）
委員	秋山　貴志	（バスケットボール部）
委員	海老原　晃	（バスケットボール部）
委員	小町　正幸	（バスケットボール部）
委員	中村　順	（バスケットボール部）
委員	向坂　亮介	（バスケットボール部）
委員	布川　和孝	（ソフトテニス部）
委員	三田　英介	（ソフトテニス部）
委員	宮部　大輝	（ソフトテニス部）
委員	室山　裕雄	（ソフトテニス部）
委員	山田　武史	（ソフトテニス部）
委員	芳賀　昭博	（歴史研究部）
委員	大内　鉄平	
委員	須田　貴之	
委員	田口　雅之	
委員	野田　匠	
委員	渡邉　大輔	

寄付広告委員長	加山　綾一	
寄付広告副委員長	櫻井　佑輔	（バスケットボール部）
寄付広告副委員長	野口　宗彦	（硬式野球部）
委員	宮原　将護	（バスケットボール部）
委員	中原　章仁	（バレーボール部）
委員	佐野　晋也	（サッカー部）
委員	小島　弘	（写真部）
委員	林　泰之	（映画研究部）
委員	浅見友一朗	
委員	石川　洋樹	
委員	上野　和彦	
委員	坂本　喬	
委員	東城　良典	
委員	横沢　隆紀	

会報委員長	配島　亮	（サッカー部）
会報副委員長	近藤　歩	（サッカー部）
委員	手塚　徹	（書道部）
委員	阪本　幸徳	（写真部）
委員	星原　敬	（サッカー部）
委員	八重樫　洋	（スキー部）
委員	田中　健一	

ゴルフ委員長	白川　誠	（生徒会本部・高校軟式野球部）
ゴルフ副委員長	箱崎　竜	
委員	岡本　恭介	（硬式野球部）
委員	荒川　創	

就活会委員長	河田　裕司	（生徒会本部）
委員	岡田　朋久	（柔道部）
委員	加藤　拓	（ソフトテニス部）

会計委員長	和田　一真	（生徒会本部・放送班）
会計副委員長	高島　務	（バスケットボール部）
委員	明石　直樹	（マンドリン部）
委員	植田　庸平	（マンドリン部）
委員	田中　秀明	（バスケットボール部）
委員	鈴木　佳祐	（サッカー部）
委員	越川優二郎	

お礼とお詫び

この会報誌発行にあたり、多くの総明会の皆様から、ご寄稿及び貴重なお写真の提供をいただきました。広報委員会一同心よりお礼申し上げます。
紙面の都合上、全てを掲載することができませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。また、文章中においても、万人が読みやすい表現に統一をはかるため、広報委員の責任で割愛・表現の変更をさせていただきました。広報委員全員で文章を校正致しましたが、至らぬ点もあるかと思います。何卒ご了解いただきます様お願い申し上げます。

※本誌掲載の記事、写真、イラスト、図表の無断転載は固くお断りいたします。
乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

住所変更時のお願い

総明会では、総明会会報・総明会からのお知らせが皆様のお手元に一通でも多く確実に届くよう各学年の評議員を通じて総明会会員名簿の管理を行っております。
お引越しなどで住所が変わられた方はお手数ですが、右記総明会事務局担当者までご連絡いただきますようお願いいたします。

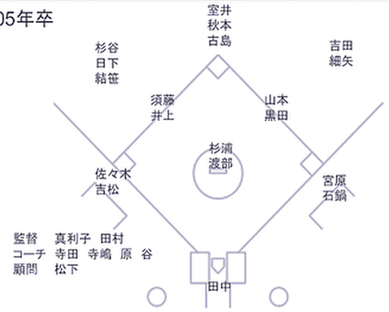
連絡先
総明会 専務理事 尾崎 博之
（勤務先：株式会社クロップオザキ 代表取締役）
FAX 03-5820-0742
E-mail : hcozaki@cropozaki.com
TEL 090-2480-8324

発　行：明治大学付属明治高等学校・明治中学校同窓会
総明会
〒182-0033 東京都調布市富士見町4-23-25
明治大学付属明治高等学校内
TEL.042-444-9100
https://meiji-soumeikai.com/

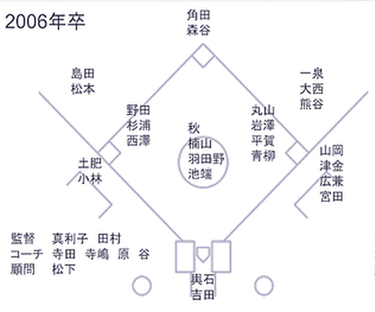
会報委員長：　配島　亮　（平成11年卒）
特集ページ編集長：　田中　健一　（平成11年卒）
表紙・特集デザイン：　鶴見　修
制作進行：　田嶋　慎治　（昭和63年卒）
印刷：　ふじ・プリント
2026年10月1日発行



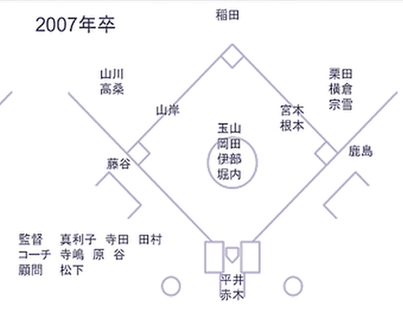
2005年卒

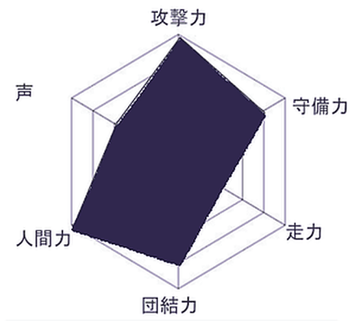


2006年卒

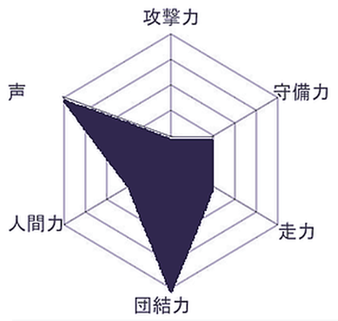


2007年卒

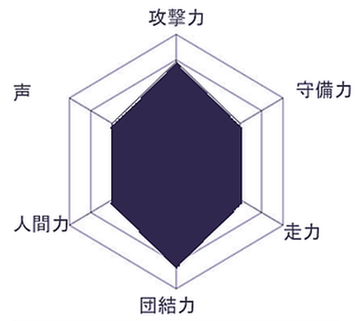




特殊能力 威圧感
全体的にフィジカル強し。田中・宮原・古島を先頭にした試合前アップは相手を萎縮させる。とどめは SSKスカイビート(旧式)を手にした結笹の本塁打。



特殊能力 持久走
マラソン大会は常に1位から3位まで野球部どんな練習にも耐え抜く力があり。スタミナは甲子園レベル。15時04分の急行橋本行きに乗れる。



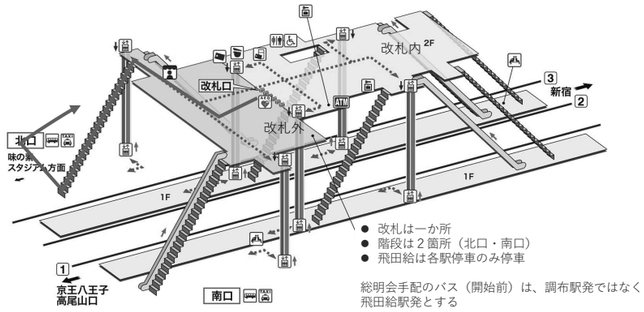
特殊能力 洞察力 観察力 推察力
監督にバレないようにヤカンの水をポカリにし、大回りや、深大寺走はすぐにショートカット。何かと要領がよく、メリハリのあるメンバー。

無料貸切バス運行ダイヤ

往路 京王線飛田給駅北口ロータリー発

※京王線飛田給駅は、 各駅停車しか停車しません

飛田給駅（駅構内図）





飛田給駅	明治高校	号車	飛田給駅	明治高校	号車
11：30 →	11：40	1	13：50 →	14：00	3
11：40 →	11：50	2	14：00 →	14：10	1
11：50 →	12：00	3	14：10 →	14：20	2
12：00 →	12：10	1	14：40 →	14：50	3
12：20 →	12：30	2	14：50 →	15：00	1
12：30 →	12：40	3	15：00 →	15：10	2
13：30 →	13：40	1	15：10 →	15：20	3
13：40 →	13：50	2			

復路 明治高校発

明治高校	**調布駅南口たづくり前**
18：40→19：00	1
18：45→19：05	2
18：50→19：10	3

路線バスご利用の場合

小田急・京王バス「大沢コミュニティセンター」
または「調布中学校」下車徒歩約 3 分

京王線調布駅中央口北側よりバス約 10 分
京王バス 武 91「試験場経由　武蔵小金井駅北口」行
小田急バス 境 91「武蔵境駅南口」行
小田急バス 鷹 51「三鷹駅」行
小田急バス 調 40「調布飛行場」行

JR 中央線武蔵境駅南口よりバス約 20 分
小田急バス 境 91「狛江駅北口」行

JR 中央線三鷹駅南口よりバス約 30 分
小田急バス 鷹 51「調布駅北口」行

小田急線狛江駅北口よりバス約 30 分
小田急バス 境 91「武蔵境駅南口」行

徒歩の場合

京王線西調布駅より徒歩約 18 分

第 62 回　総明会　総会・懇親会　参加申込書

総会開催の詳細、注意事項については、会報 32 ページの『総会・懇親会のご案内』をご覧ください

総明会 総会	□参　加 □不参加
総明会 懇親会	□参　加　　名（同伴者を含む） □不参加

※確定スケジュールについては、後日総明会ホームページに掲載しますのでご確認ください。

当日飛び込みでのご参加も大歓迎ですが、参加人数把握のため
事前の出欠連絡を頂戴できれば幸いです。
また右の QR コードより **明哲会** の HP にアクセスいただき
事前申込していただく事も可能ですので、是非ご利用ください。

明哲会HP

※ご参加の方のみ事前納付か当日払いかをお知らせ下さい。
□事前納付予定　□当日受付にて支払い予定

氏　名 _____　卒業年 _____ 年卒業

同伴者名 _____ (学年又は続柄 　)　_____ (学年又は続柄 　)

以下は変更のあった場合のみご記入ください

現住所〒 _____

TEL _____　携帯番号 _____

申込者の個人情報は、総明会の用途以外には使用しません。 また、セキュリティには十分配慮します。

出席者全員に総明会オリジナル記念品をプレゼント！

期日：11月6日(金)までに、ご投函をお願いいたします。